

官報

號外

昭和四年三月三日 日曜日

内閣印刷局

第五十六回 帝國議會 衆議院議事速記第二十四號

昭和四年三月二日(土曜日)午後一時十八分開議

議事日程 第二十三號

昭和四年三月二日

午後一時開議

- 第一 時許法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第二 實用新案法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第三 意匠法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第四 商標法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第五 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第六 地方鐵道法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第七 軌道法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第八 非訟事件手續法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第九 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十 陪審法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十二 酒造組合法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十四 自作農創設維持助成資金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第十五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

- 第十六 船舶職員法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十八 同盟及聯合國ト獨逸國及其ノ同盟國トノ戰爭ニ因リ損害ヲ被リタル帝國臣民ノ追加救恤ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十九 臺灣事業公債法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第二十 製鐵所特別會計ニ於テ大藏省預金部ノ橫濱正金銀行ニ對スル債權ノ讓渡ヲ受クルコトニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
- 第二十一 府縣制中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第二十二 市制中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第二十三 町村制中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第二十四 北海道會法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第二十五 北海道地方費法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第二十六 登錄稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第二十七 北海道鐵道株式會社所屬鐵道外十三鐵道等買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

- 第二十八 昭和三年勅令第百二十九號(治安維持法中改正ノ件)(承諾ヲ求ムル件)
- 第二十九 癘兵優遇ニ關スル法律案(三浦虎雄君提出) 第一讀會
- 第三十 衛生組合法案(大里廣次郎君外八名提出) 第一讀會
- 第三十一 衛生組合法案(田崎信藏君外四名提出) 第一讀會
- 第三十二 傳染病豫防法中改正法律案(田崎信藏君外四名提出) 第一讀會
- 第三十三 衆議院議員選舉法中改正法律案(二見甚郷君外一名提出) 第一讀會
- 第三十四 家祿賞典祿給與未濟ニ關スル法律案(石井次郎君外五名提出) 第一讀會
- 第三十五 質屋取締法中改正法律案(鬼丸義齋君提出) 第一讀會
- 第三十六 古物商取締法中改正法律案(鬼丸義齋君提出) 第一讀會
- 第三十七 刑法中改正法律案(牧野賤男君外二名提出) 第一讀會
- 第三十八 借家法中改正法律案(小久江美代吉君外二名提出) 第一讀會
- 第三十九 恩給法中改正法律案(山下谷次君外一名提出) 第一讀會
- 第四十 市制中改正法律案(赤尾藤吉郎君提出) 第一讀會
- 第四十一 町村制中改正法律案(赤尾藤吉郎君提出) 第一讀會
- 第四十二 道路法中改正法律案(菅野善右衛門君提出) 第一讀會
- 第四十三 町村有建物火災保險相互組合法案(岩崎一高君外十六名提出) 第一讀會
- 第四十四 遠洋漁業獎勵法中改正法律案(原耕君提出) 第一讀會

- 第四十五 違警罪即決例中改正法律案(一松定吉君外二名提出) 第一讀會
- 第四十六 工場法中改正法律案(千葉三郎君外五名提出) 第一讀會
- 第四十七 勞働組合法案(鈴木文治君提出) 第一讀會
- 第四十八 刑ノ執行又ハ拘留ニ因ル補償ニ關スル法律案(宮古啓三郎君外九名提出) 第一讀會
- 第四十九 陪審法中改正法律案(橫山勝太郎君外三名提出) 第一讀會
- 第五十 衆議院議員選舉法中改正法律案(小久江美代吉君外四名提出) 第一讀會
- 第五十一 衆議院議員黨籍變更ニ關スル法律案(小久江美代吉君外四名提出) 第一讀會
- 第五十二 牧野法案(中島鵬六君外一名提出) 第一讀會
- 第五十三 健康保險法中改正法律案(西尾末廣君提出) 第一讀會
- 第五十四 國定教科書官給法案(樋口秀雄君外六名提出) 第一讀會
- 第五十五 未成年者飲酒禁止法中改正法律案(星島二郎君外六名提出) 第一讀會
- 第五十六 未成年者飲酒禁止法中改正法律案(田中養達君外六名提出) 第一讀會
- 第五十七 六大都市ニ關スル法律案(鈴木吉之助君外十三名提出) 第一讀會

○議長(元田肇君) 諸般ノ報告ヲ致サセマ
〔書記官朗讀〕
一 今二日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ議案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

(第一號)昭和三年度歳入歳出總豫算追加案
(特第一號)昭和三年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

地方鐵道法中改正法律案

軌道法中改正法律案

非訟事件手續法中改正法律案

陪審法中改正法律案

酒造組合法中改正法律案

自作農創設維持助成資金特別會計法案

船舶職員法中改正法律案

(以上二月二十八日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

耕地整理法中改正法律案

提出者

三輪市太郎君

石射文五郎君

石坂 養平君

熊谷五右衛門君

加藤 知正君

山崎 延吉君

川崎安之助君

農會法中改正法律案

提出者

三輪市太郎君

石射文五郎君

石坂 養平君

熊谷五右衛門君

加藤 知正君

山崎 延吉君

川崎安之助君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

高田 耘平君

田子 一民君

池田 龜治君

小野 寅吉君

高橋熊次郎君

丹下茂十郎君

金澤八尾間鐵道速成ニ關スル建議案

提出者 石坂 豐一君 著本 太吉君

陸海軍記念日ヲ國家ノ祝日ト爲スノ建議案

提出者 古川一ノ關間鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者 菅原 英伍君 內ヶ崎作三郎君

藤澤幾之輔君 小山倉之助君

仙臺古川間鐵道速成ニ關スル建議案

提出者 內ヶ崎作三郎君 菅原 英伍君

藤澤幾之輔君 小山倉之助君

赤川改修工事ニ關スル建議案

提出者 雨龍原野土地改良ニ關スル建議案

提出者 神部 爲藏君 小池 仁郎君

山本 厚三君 淺川 浩君

岡本 幹輔君 坂東幸太郎君

北海道稚内ヨリ利尻禮文兩島ニ定期連絡

航路開始ニ關スル建議案

提出者 淺川 浩君 小池 仁郎君

山本 厚三君 神部 爲藏君

岡本 幹輔君 坂東幸太郎君

北海道漁港並船入潤築設ニ關スル建議案

提出者 小池 仁郎君 山本 厚三君

淺川 浩君 神部 爲藏君

北海道鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者 小池 仁郎君 山本 厚三君

淺川 浩君 神部 爲藏君

岡本 幹輔君 坂東幸太郎君

電話事業改善ニ關スル建議案

提出者 平賀 周君 吉津 度君

立川 太郎君 伊藤仁太郎君

電氣事業ニ關スル建議案

提出者 平賀 周君 板谷 順助君

中谷 貞賴君

藤原光親卿外四卿ヲ奉祀スル別格官幣社

創設ニ關スル建議案

提出者 庄司 良朗君 松浦五兵衛君

倉元 要一君 郡谷照一郎君

山口忠五郎君 大橋亦兵衛君

東海道線原驛附近ニ於ケル路線變更ニ關

スル建議案

提出者 庄司 良朗君

大淀川支流沖水川改修速成ニ關スル建議

案

提出者 水久保甚作君 水久保甚作君

農民保護法令制定ニ關スル建議案

提出者 大竹 貫一君

不戰條約第一條ノ用語ニ關スル質問主意

書

提出者 (以上二月二十八日提出)

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲

茲ニ掲載ス)

一去二十八日內閣總理大臣ヨリ左ノ通發令

アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

大藏省記官 飯田九州雄

大藏技師 矢部規矩治

陸軍省所管事務政府委員被仰付

陸軍中將 植田 謙吉

鐵道省所管事務政府委員被仰付

鐵道省運輸局長 笈 正太郎

一去二十八日常任委員補關選舉ノ結果左ノ

如シ

第一部選出

決算委員 矢野 晋也君 (中島鵬六君

補關)

一去二十八日理事補關選舉ノ結果左ノ如シ

未成年者飲酒禁止法中改正法律案 (星島

二郎君外六名提出) 外一件委員

紫安新九郎君 高田 耘平君
黒金 泰義君 松本 忠雄君
平川松太郎君 藤井 啓一君
村上 國吉君 池田 敬八君
瀬川 光行君 安倍邦太郎君
河崎助太郎君 鈴木 文治君
志波安一郎君
一去年二十八日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

昭和三年勅令第二百二十九號(治安維持法中改正ノ件)(承諾ヲ求ムル件)委員
辭任中谷 貞頼君 補闕赤尾藤吉郎君
辭任小野寺 章君 補闕鈴木 安孝君
辭任鈴木 安孝君 補闕小野寺 章君
辭任横山勝太郎君 補闕松田竹千代君
朝鮮簡易生命保險特別會計法中改正法律案外三件委員
辭任板谷 順助君 補闕石坂 豐一君
鐵道敷設法中改正法律案委員
辭任吉木 陽君 補闕岡田 忠彦君
辭任前田 政八君 補闕山本 慎平君
米穀需給調節特別會計法中改正法律案委員

辭任小坂 順造君 補闕一宮房治郎君
辭任土井 權大君 補闕名川 侃市君
辭任齋藤藤四郎君 補闕飯村 五郎君
辭任加藤 知正君 補闕石坂 豐一君
一昨一日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ
第三部選出 中島瀧園次君(三浦虎雄君 補闕)
豫算委員

第八部選出 松田竹千代君(戸澤民十郎 補闕)
豫算委員
豫算委員 海老澤爲次郎君(一宮房治郎君 補闕)
一昨一日理事補闕選舉ノ結果左ノ如シ

地租條例廢止法律案(政府提出)外十六件委員
理事 石坂 豐一君(理事西方利馬君 三月一日委員辭任ニ付其ノ補闕)

米穀需給調節特別會計法中改正法律案(三輪市太郎君外六十三名提出)委員
理事 飯村 五郎君(理事齋藤藤四郎君 二月二十八日委員辭任ニ付其ノ補闕)
一昨一日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ
關稅定率法中改正法律案(政府提出)外一件委員
委員長 岸本 康通君
理事 岩本 武助君 勝 正憲君
肥料管理法案(政府提出)外一件委員
委員長 松浦五兵衛君
理事 齋藤藤四郎君 青木 精一君
平川松太郎君 村上 國吉君
河崎助太郎君

一昨一日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
地租條例廢止法律案外十六件委員
辭任田邊 熊一君 補闕庄 晋太郎君
辭任西方 利馬君 補闕石坂 豐一君
辭任鳴海文四郎君 補闕清水 銀藏君
辭任山口忠五郎君 補闕鈴木 英雄君
鐵道敷設法中改正法律案委員
辭任横山金太郎君 補闕福田 五郎君
肥料管理法案外一件委員
辭任二神 駿吉君 補闕蔭山 良吉君
辭任村上 國吉君 補闕石塚 三郎君
辭任蔭山 貞吉君 補闕二神 駿吉君
府縣制中改正法律案外三件委員
辭任西岡竹次郎君 補闕土井 權大君
辭任倉元 要一君 補闕竹内 鳳吉君
辭任高橋金治郎君 補闕磯部 清吉君
關稅定率法中改正法律案外一件委員
辭任勝 正憲君 補闕澤本 與一君
米穀需給調節特別會計法中改正法律案委員
辭任中野 猛雄君 補闕久恆 良雄君
明治四十年法律第十一號中改正法律案(豫防ニ關スル件)委員
辭任山本 宣治君 補闕鈴木 文治君
議長(元田肇君) 是ヨリ會議ヲ開キマ
ス、日程第一乃至第四八種ノ議案ナルニ

依リ、一括シテ議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(元田肇君) 御異議ナシト認メテ一括シテ議題ニ供シマス、日程第一、特許法中改正法律案、日程第二、實用新案法中改正法律案、日程第三、意匠法中改正法律案、日程第四、商標法中改正法律案、此四案ヲ一括シテ第一議會ヲ開キマス——中橋商工大臣

第一 特許法中改正法律案(政府提出) 第一議會
特許法中左ノ通改正ス
第十七條ノ二 特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者ノ委任ニ因ル代理人ノ代理權ハ本人ノ死亡若ハ能力ノ喪失、本人タル法人ノ合併ニ因ル消滅、本人タル受託者ノ信託ノ任務終了又ハ法定代理人ノ死亡、能力ノ喪失若ハ代理權ノ變更消滅ニ因リテ消滅セス第十八條中「共同又ハ」ヲ削ル
第二十二條中「民事訴訟法第十七條」ヲ「民事訴訟法第八條」ニ改ム
第二十三條中「特許局ニ對シ」ヲ「特許局又ハ裁判所ニ對シ」ニ改ム
第二十五條 特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者ノ其責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ第九條、第九十五條、第一百二十二條第一項又ハ本法ニ於テ準用スル民事訴訟法第四百十五條ニ規定スル期間ヲ遵守スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ事由ノ止ミタル日ヨリ十日以内ニシテ且其ノ期間満了後一年以内ニ限り懈怠シタル手續ノ追完ヲ爲スコトヲ得

第八十七條 審判請求書カ法令ニ定メタル方式ニ違背シタル場合ニ於テハ審判長ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ欠缺ヲ補正スヘキコトヲ命スヘシ成規ノ手數料ヲ納付セサル場合亦同シ
請求人カ欠缺ノ補正ヲ爲ササルトキハ

審判長ハ決定ヲ以テ審判請求書ヲ却下スヘシ
前項ノ決定ニハ理由ヲ附スヘシ
第二項ノ決定ニ不服アル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
前項ノ即時抗告ニ付テハ民事訴訟法中即時抗告ニ關スル規定ヲ準用ス
抗告狀ニハ却下セラレタル審判請求書ヲ添附スヘシ

第八十八條ノ二 不適法ナル審判ノ請求ニシテ其ノ欠缺カ補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ被請求人ニ答辯書提出ノ機會ヲ與ヘスシテ審決ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得

第九十一條 審判官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ審判ノ干與ヨリ除斥セラル
一 審判官又ハ其ノ妻若ハ妻タリシ者カ事件ノ當事者、參加人若ハ特許異議申立人ナルトキ又ハナリシトキ
二 審判官カ事件ノ當事者、參加人又ハ特許異議申立人ノ四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族ナルトキ又ハナリシトキ
三 審判官カ事件ノ當事者、參加人又ハ特許異議申立人ノ法定代理人、後見監督人、保佐人又ハ戸主若ハ家族ナルトキ
四 審判官カ事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ
五 審判官カ事件ノ當事者、參加人又ハ特許異議申立人ノ代理人ナルトキ又ハナリシトキ
六 審判官カ事件ニ付審査官、審判官又ハ判事トシテ査定、審決又ハ判決ニ干與シタルトキ
七 審判官カ事件ニ付直接ノ利害關係ヲ有スルトキ

第九十二條 除斥ノ原因アルトキハ當事者又ハ參加人ハ除斥ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第九十三條 審判官ニ付審判ノ公正ヲ妨クヘキ事情アルトキハ當事者又ハ參加人

依リ、一括シテ議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(元田肇君) 御異議ナシト認メテ一括シテ議題ニ供シマス、日程第一、特許法中改正法律案、日程第二、實用新案法中改正法律案、日程第三、意匠法中改正法律案、日程第四、商標法中改正法律案、此四案ヲ一括シテ第一議會ヲ開キマス——中橋商工大臣

第一 特許法中改正法律案(政府提出) 第一議會
特許法中左ノ通改正ス
第十七條ノ二 特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者ノ委任ニ因ル代理人ノ代理權ハ本人ノ死亡若ハ能力ノ喪失、本人タル法人ノ合併ニ因ル消滅、本人タル受託者ノ信託ノ任務終了又ハ法定代理人ノ死亡、能力ノ喪失若ハ代理權ノ變更消滅ニ因リテ消滅セス第十八條中「共同又ハ」ヲ削ル
第二十二條中「民事訴訟法第十七條」ヲ「民事訴訟法第八條」ニ改ム
第二十三條中「特許局ニ對シ」ヲ「特許局又ハ裁判所ニ對シ」ニ改ム
第二十五條 特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者ノ其責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ第九條、第九十五條、第一百二十二條第一項又ハ本法ニ於テ準用スル民事訴訟法第四百十五條ニ規定スル期間ヲ遵守スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ事由ノ止ミタル日ヨリ十日以内ニシテ且其ノ期間満了後一年以内ニ限り懈怠シタル手續ノ追完ヲ爲スコトヲ得

第八十七條 審判請求書カ法令ニ定メタル方式ニ違背シタル場合ニ於テハ審判長ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ欠缺ヲ補正スヘキコトヲ命スヘシ成規ノ手數料ヲ納付セサル場合亦同シ
請求人カ欠缺ノ補正ヲ爲ササルトキハ

審判長ハ決定ヲ以テ審判請求書ヲ却下スヘシ
前項ノ決定ニハ理由ヲ附スヘシ
第二項ノ決定ニ不服アル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
前項ノ即時抗告ニ付テハ民事訴訟法中即時抗告ニ關スル規定ヲ準用ス
抗告狀ニハ却下セラレタル審判請求書ヲ添附スヘシ

第八十八條ノ二 不適法ナル審判ノ請求ニシテ其ノ欠缺カ補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ被請求人ニ答辯書提出ノ機會ヲ與ヘスシテ審決ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得

第九十一條 審判官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ審判ノ干與ヨリ除斥セラル
一 審判官又ハ其ノ妻若ハ妻タリシ者カ事件ノ當事者、參加人若ハ特許異議申立人ナルトキ又ハナリシトキ
二 審判官カ事件ノ當事者、參加人又ハ特許異議申立人ノ四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族ナルトキ又ハナリシトキ
三 審判官カ事件ノ當事者、參加人又ハ特許異議申立人ノ法定代理人、後見監督人、保佐人又ハ戸主若ハ家族ナルトキ
四 審判官カ事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ
五 審判官カ事件ノ當事者、參加人又ハ特許異議申立人ノ代理人ナルトキ又ハナリシトキ
六 審判官カ事件ニ付審査官、審判官又ハ判事トシテ査定、審決又ハ判決ニ干與シタルトキ
七 審判官カ事件ニ付直接ノ利害關係ヲ有スルトキ

第九十二條 除斥ノ原因アルトキハ當事者又ハ參加人ハ除斥ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第九十三條 審判官ニ付審判ノ公正ヲ妨クヘキ事情アルトキハ當事者又ハ參加人

ハ之ヲ忌避スルコトヲ得
當事者又ハ參加人ハ事件ニ付申述ヲ爲シタル後ハ審判官ヲ忌避スルコトヲ得
但シ忌避ノ原因アルコトヲ知ラザリシトキ又ハ忌避ノ原因カ其ノ後ニ生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十四條 前二條ニ規定スル申立ハ其ノ原因ヲ開示シテ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ口頭審理ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
除斥又ハ忌避ノ原因ハ申立ヲ爲シタル日ヨリ三日以内ニ之ヲ疏明スヘシ前條第二項但書ノ事實亦同シ

第九十五條 除斥又ハ忌避ノ申立アリタルトキハ審判ニ依リ決定ヲ爲スヘシ
審判官ハ其ノ除斥又ハ忌避ニ付審判ニ干與スルコトヲ得但シ意見ヲ述フルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ決定ニハ理由ヲ附スヘシ
第一項ノ規定ニ依リ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第九十六條 除斥又ハ忌避ノ申立アリタルトキハ其ノ申立ニ付テハ決定アル迄審判手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九十七條ノ二 審判ニ於テハ通事ヲ用キルコトヲ得
民事訴訟法第百三十四條ノ規定ハ通事ニ付テハ準用ス

第九十九條第四項中「第九十五條第二項及第三項」ヲ「第九十五條第三項及第四項」ニ改ム

第百條第三項但書ヲ左ノ如ク改ム
但シ審判官ハ過料ノ決定ヲ爲シ、勾引ヲ命シ又ハ保證金ヲ供託セシムルコトヲ得ス

第百九條但書ヲ左ノ如ク改ム
但シ第百六條ノ規定ニ依リ補償金額ノ審決及第百九條第一項ノ規定ニ依リ費用ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百十條中「第八十六條乃至第百八條ヲ「第八十六條乃至第百三條」

至第百八條ノ二、第九十二條乃至第九十四條及第百一條」ヲ「第九十二條、第九十三條及第百一條」ニ改ム

第百十條ノ二 不適法ナル審判ノ請求ニシテ其ノ欠缺ヲ補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ被請求人ニ答辯書提出ノ機會ヲ與ヘスシテ抗告審判ノ審決ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得

第百十條ノ三 抗告審判ノ請求ハ其ノ審理ノ終結ニ至ル迄之ヲ取下クルコトヲ得
第百十條ノ四 抗告審判ヲ請求スル權利ハ其ノ審理ノ終結ニ至ル迄之ヲ拋棄スルコトヲ得

抗告審判ヲ請求シタル後抗告審判請求權ヲ拋棄シタルトキハ抗告審判ノ請求ニ付テモ之ヲ取下ケタルモノト看做ス

第百十一條ノ二 審査又ハ審判ニ於テ爲シタル手續ハ抗告審判ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

第百十二條ノ二 査定又ハ審判ノ審決ノ手續カ法令ニ違反シタルトキハ抗告審判ノ審判官ハ其ノ査定又ハ審決ヲ破毀スヘシ

第百十四條 抗告審判ニ於テ査定又ハ審判ノ審決ヲ破毀スル場合ニ於テハ査定ニ對スル抗告審判ニ在リテハ更ニ審査ニ、審判ノ審決ニ對スル抗告審判ニ在リテハ更ニ審判ニ付スヘシトノ審決ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ審決アリタル場合ニ於テハ其ノ破毀ノ基本ト爲シタル理由ハ其ノ事件ニ付テハ審査官又ハ審判官ヲ聽取ス

第百十五條第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム
前項ノ規定ニ依リ出訴及其ノ裁判ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外民事訴訟ノ上告及其ノ裁判ニ關スル規定ヲ準用ス

大審院ノ判決ニ於テ審決又ハ査定ノ破毀ノ基本ト爲シタル理由ハ其ノ事件ニ付テハ特許局ヲ聽取ス

付テハ特許局ヲ聽取ス

第百十五條ノ二 前條第二項ノ規定ニ依リ上告狀ハ大審院ニ之ヲ提出スヘシ

抗告審判ノ審判官又ハ審判官ノ決定ニ對スル抗告ハ大審院ニ之ヲ爲スヘシ

第百十九條 審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用ノ負擔ハ職權ニ依リ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ事件ノ審決ヲ以テ之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ事情ニ依リ其ノ額モ亦之ヲ定ムルコトヲ得

審決、判決又ハ決定ヲ以テ審判、抗告審判又ハ出訴ニ關スル費用ノ負擔ノミヲ定メタルトキハ其ノ額ハ請求ニ依リ特許局長官之ヲ決定ス

費用ノ負擔及額ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百十九條ノ二 審判又ハ抗告審判ニ於テハ費用ヲ要スル行爲ニ付其ノ費用ノ豫納ヲ命スルコトヲ得

第百二十一條第一項中「確定審決又ハ判決ヲ以テ終結シタル事件ハ取消ノ請求又ハ原狀回復ノ請求ニ依リ之ヲ再審スルコトヲ得」ヲ「確定審決又ハ判決ニ對シテハ再審ノ請求ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得」ニ改ム同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

民事訴訟法第四百二十條ノ規定ハ再審ノ請求ニ付テハ準用ス

第百二十二條ノ二 第二項ヲ加フ
不服ノ理由カ審決確定シ又ハ判決アリタル後ニ生シタルトキハ前項ニ規定スル期間ハ其ノ理由發生シタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第一項及第四項ノ規定ハ不服ノ申立アリタル審決又ハ判決カ前ニ爲サレタル確定審決又ハ判決ト抵觸スルコトヲ理由トスル再審ノ請求ニ付テハ適用セズ

第百二十四條中「民事訴訟法第四百六十七條第二項、第四百七十一條、第四百七十二條第一項第二項及第四百七十五條乃至第四百八十二條」ヲ「民事訴訟法第四百六十七條、第四百七十二條及第四百八十二條乃至第四百八十八條」ニ改ム

第百二十八條中「原狀回復ノ請求ニ依リ」ヲ削ル

第百三十二條中「證人若ハ鑑定人又ハ通事」ヲ「證人、鑑定人又ハ通事」ニ改ム

第百三十三條ノ二 本法ニ於テ準用スル民事訴訟法第二百六十七條第二項又ハ第三百三十六條ノ規定ニ依リ宣誓ヲ爲シタル者カ特許局ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第百三十四條第一項中「五十圓」ヲ「五百圓」ニ改ム同條第二項ヲ削ル

第百三十四條ノ二 特許局ヨリ證據調ニ關シ書類其ノ他ノ物件ノ提出又ハ提示ヲ命セラレタル者正當ノ理由ナクシテ其ノ命ニ從ハサルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第百三十四條ノ三 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ付テハ準用ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ハ本法施行前ニ生シタル事項ニモ之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リ生シタル效力ヲ妨ケス

第十七條ノ二ノ改正規定ハ本法施行前同條ニ掲クル事由ヲ生シタル委任代理ニシテ本法施行前代理權消滅ノ登錄ヲ受ケザリシモノ又ハ其ノ届出ヲ爲サザリシモノニモ之ヲ適用ス

本法施行前抗告事件ニ付決定ヲ受ケタル者ハ仍從前ノ規定ニ依リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

本法ニ依リ新ニ期間ヲ定メタル手續ニシテ本法施行ノ際爲スヘキモノニ付テハ其ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

本法施行前從前ノ規定ニ依リ過料ニ處スヘキ行爲ヲ爲シタル者ニシテ本法施行ノ際未タ其ノ裁判ヲ受ケサルモノハ本法ニ於テ過料ニ處スヘキ場合ニ限リ本法ニ依リ處罰ス但シ過料ノ額ハ從前ノ規定ノ過料ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

第二 實用新案法中改正法律案（政府提出）
第一讀會

實用新法案中改正法律案

實用新法案中左ノ通改正ス

第二十五條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ前條ノ規定ニ依リ補償金額ノ審決

及第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特

許法第二百九條第一項ノ規定ニ依リ費

用ノ審議ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十條中「證人若ハ鑑定人又ハ通事」ヲ

「證人、鑑定人又ハ通事」ニ改ム

第三十一條ノ二 第二十六條ノ規定ニ依リ

準用スル民事訴訟法第二百六十七條第二

項又ハ第三百三十六條ノ規定ニ依リ宣

誓ヲ爲シタル者カ特許局ニ對シ虛偽ノ

陳述ヲ爲シタルトキハ五百圓以下ノ過

料ニ處ス

第三十二條第一項中「五十圓」ヲ「五百圓」

ニ改メ同條第二項ヲ削ル

第三十二條ノ二 特許局ヨリ證據調ニ關

シ書類其ノ他ノ物件ノ提出又ハ提示ヲ

命セラレタル者正當ノ理由ナクシテ其

ノ命ニ從ハサルトキハ五百圓以下ノ過

料ニ處ス

第三十二條ノ三 非訟事件手續法第二百

六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ

過料ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ本法施行前ニ生シタル事項ニモ之

ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リ生シタル

效力ヲ妨ケス

第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法

第十七條ノ二ノ改正規定ハ本法施行前同

條ニ掲クル事由ヲ生シタル委任代理ニシ

テ本法施行前代理權消滅ノ登錄ヲ受ケサ

リシモノ又ハ其ノ届出ヲ爲サザリシモノ

ニモ之ヲ適用ス

本法施行前報告事件ニ付決定ヲ受ケタル

者ハ仍從前ノ規定ニ依リ更ニ抗告ヲ爲ス

コトヲ得

本法ニ依リ新ニ期間ヲ定メタル手續ニシ

テ本法施行ノ際爲スヘキモノニ付テハ其

ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

本法施行前從前ノ規定ニ依リ過料ニ處ス

ヘキ行爲ヲ爲シタル者ニシテ本法施行ノ
際未タ其ノ裁判ヲ受ケサルモノハ本法ニ
於テ過料ニ處スヘキ場合ニ限リ本法ニ依
リ處罰ス但シ過料ノ額ハ從前ノ規定ノ過
料ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

第三 意匠法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

意匠法中改正法律案

意匠法中左ノ通改正ス

第二十四條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ前條ノ規定ニ依リ補償金額ノ審決

及第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特

許法第二百九條第一項ノ規定ニ依リ費

用ノ審議ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條中「第一百十條乃至第一百十二條」

ヲ「第一百十條乃至第一百十二條ノ二」ニ改ム

第二十九條中「證人若ハ鑑定人又ハ通事」

ヲ「證人、鑑定人又ハ通事」ニ改ム

第三十條ノ二 第二十五條ノ規定ニ依リ

準用スル民事訴訟法第二百六十七條第

二項又ハ第三百三十六條ノ規定ニ依リ

宣誓ヲ爲シタル者カ特許局ニ對シ虛偽

ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五百圓以下ノ

過料ニ處ス

第三十一條第一項中「五十圓」ヲ「五百圓」

ニ改メ同條第二項ヲ削ル

第三十一條ノ二 特許局ヨリ證據調ニ關

シ書類其ノ他ノ物件ノ提出又ハ提示ヲ

命セラレタル者正當ノ理由ナクシテ其

ノ命ニ從ハサルトキハ五百圓以下ノ過

料ニ處ス

第三十一條ノ三 非訟事件手續法第二百

六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ

過料ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ本法施行前ニ生シタル事項ニモ之

ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リ生シタル

效力ヲ妨ケス

第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特許法

第十七條ノ二ノ改正規定ハ本法施行前同

條ニ掲クル事由ヲ生シタル委任代理ニシ

テ本法施行前代理權消滅ノ登錄ヲ受ケサ
リシモノ又ハ其ノ届出ヲ爲サザリシモノ
ニモ之ヲ適用ス
本法施行前報告事件ニ付決定ヲ受ケタル
者ハ仍從前ノ規定ニ依リ更ニ抗告ヲ爲ス
コトヲ得
本法ニ依リ新ニ期間ヲ定メタル手續ニシ
テ本法施行ノ際爲スヘキモノニ付テハ其
ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス
本法施行前從前ノ規定ニ依リ過料ニ處ス
ヘキ行爲ヲ爲シタル者ニシテ本法施行ノ
際未タ其ノ裁判ヲ受ケサルモノハ本法ニ
於テ過料ニ處スヘキ場合ニ限リ本法ニ依
リ處罰ス但シ過料ノ額ハ從前ノ規定ノ過
料ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

第四 商標法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

商標法中改正法律案

商標法中左ノ通改正ス

第二十四條中「第一百九條乃至第一百十五條」

ヲ「第一百九條乃至第一百十五條ノ二」ニ改

ム

第三十六條中「證人若ハ鑑定人又ハ通事」

ヲ「證人、鑑定人又ハ通事」ニ改ム

第三十六條ノ二 第二十四條ノ規定ニ依

リ準用スル民事訴訟法第二百六十七條

第二項又ハ第三百三十六條ノ規定ニ依

リ宣誓ヲ爲シタル者カ特許局ニ對シ虛

偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五百圓以下

ノ過料ニ處ス

第三十七條第一項中「五十圓」ヲ「五百圓」

ニ改メ同條第二項ヲ削ル

第三十七條ノ二 特許局ヨリ證據調ニ關

シ書類其ノ他ノ物件ノ提出又ハ提示ヲ

命セラレタル者正當ノ理由ナクシテ其

ノ命ニ從ハサルトキハ五百圓以下ノ過

料ニ處ス

第三十七條ノ三 非訟事件手續法第二百

六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ

過料ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ本法施行前ニ生シタル事項ニモ之
ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リ生シタル
效力ヲ妨ケス
第二十四條ノ規定ニ依リ準用スル特許法
第十七條ノ二ノ改正規定ハ本法施行前同
條ニ掲クル事由ヲ生シタル委任代理ニシ
テ本法施行前代理權消滅ノ登錄ヲ受ケサ
リシモノ又ハ其ノ届出ヲ爲サザリシモノ
ニモ之ヲ適用ス
本法施行前報告事件ニ付決定ヲ受ケタル
者ハ仍從前ノ規定ニ依リ更ニ抗告ヲ爲ス
コトヲ得
本法ニ依リ新ニ期間ヲ定メタル手續ニシ
テ本法施行ノ際爲スヘキモノニ付テハ其
ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス
本法施行前從前ノ規定ニ依リ過料ニ處ス
ヘキ行爲ヲ爲シタル者ニシテ本法施行ノ
際未タ其ノ裁判ヲ受ケサルモノハ本法ニ
於テ過料ニ處スヘキ場合ニ限リ本法ニ依
リ處罰ス但シ過料ノ額ハ從前ノ規定ノ過
料ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

第五 國務大臣(中橋德五郎君登壇)

○國務大臣(中橋德五郎君) 只今議長ヨリ

議事ニ掛ケラレマシタ特許法中改正法律案

外三件ハ、御承知ノ通りニ民事訴訟法ヲ準

用シタル所ガ多クイデアリマス、然ルニ民

事訴訟法ハ第五十一議會ニ於キマシテ、議

院ノ決議ヲ經マシテ、來ル四年度ヨリ實行

ニナル運ビニナツテ居リマス、隨テ此特許法

及他ノ三案ハ、ソレニ從ヒマシテ改正シナ

ケレバナラヌコトニナリマシタカラ、之ヲ

提出致シマシタ、ドウカ御協賛ヲ下サルヤ

ウニ御願致シマス(拍手)

○議長(元田肇君) 別段ニ通告モアリマセ

ヌカラ、日程第五ニ移リマス、右各案ノ審

査ヲ委託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマ

ス

第五 右各案ノ審查ヲ付託スヘキ委員

ノ選舉

○原憲兵衛君 四案ヲ一括シテ議長指名九

名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

(「贊成」ト呼フ者アリ)

○議長(元田肇君) 只今ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(元田肇君) 御異議ナシト認メテ可決致シマシタ、日程第六乃至第八ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括シテ議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(元田肇君) 御異議ナシト認メテ、一括シテ議題ニ供シマス、日程第六、地方鐵道法中改正法律案、日程第七、軌道法中改正法律案、日程第八、非訟事件手續法中改正法律案ノ三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——小川鐵道大臣

第六 地方鐵道法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

地方鐵道法中改正法律案

第一條中「軌道條例」ヲ「軌道法」ニ改ム

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ軌道ノ制限ハ命令ヲ以テ定ムル特殊ノ地方鐵道ニ付テハ之ヲ適用セス

第六條ノ二 地方鐵道會社ノ線路延長ノ費用ニ充ツル爲其ノ資本ヲ増加スル場合ニ限リ監督官廳ノ認可ヲ受ケ利益配當ニ關シ一定ノ期間内普通株ニ劣ル株式(後配株)ヲ發行スルコトヲ得

第六條ノ三 後配株ヲ發行スル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ定款ニ記載シ日株式申込證ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 後配株ノ種類及其ノ各種ノ株式ノ數

二 後配株ノ利益配當ニ關スル事項

三 延長線ノ工事ノ大要殊ニ其ノ開業豫定時期

議ヲ經ルコトヲ要ス但シ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テ裁判所ノ許可アルトキハ此ノ限ニ在ラス

後配株主總會ニハ株主總會ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條ノ五 商法第九十七條但書、第二百十二條ノ三項第二項、第二百十七條第一項第四號及第二百十八條第二項ノ規定ハ後配株ニ付之ヲ準用ス

第七條第一項ヲ削リ同條中「社債ハ」ヲ「地方鐵道會社ノ社債ハ」ニ改ム

第八條第二項ヲ削リ

第九條 削除

第十二條第一項中「發着時刻及度數ヲ」

「運轉速度及度數」ニ、同條第二項中「發着時刻及度數」ヲ「運轉速度、度數及發着時刻」ニ改ム

第三十條 政府カ公益上ノ必要ニ因リ地方鐵道(工事中ノ線路ヲ含ム)ノ全部又ハ一部及其ノ附屬物件ヲ買收セムトスルトキハ地方鐵道業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リテ一部買收セラレタル爲殘存線路ノミニ付營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ地方鐵道業者ハ殘存營業線路及其ノ附屬物件ノ買收ヲ申請スルコトヲ得

第三十一條 買收價額ハ左ニ掲クルモノトス

一 最近ノ營業年度末迄ニ運輸開始後三年ヲ經過シタル線路ヲ含ム營業線路ニ付テハ其ノ營業年度末ヨリ遡リ既往三年間ニ於ケル營業線建設費ニ對スル益金ノ平均額ヲ買收ノ日ニ於ケル營業線建設費ニ乘シタル額ヲ二十倍シタル金額

二 最近ノ營業年度末迄ニ運輸開始後三年ヲ經過シタル線路ヲ含ム營業線建設費ヲ買收ノ日ニ於ケル營業線建設費ヲ時價ニ依リテ國債換算金額ニ換算シタル金額以內ニ於テ協定シタル金額

三 工事中ノ線路及買收ノ日迄ニ未

タ使用開始ニ至ラサル改良施設ニ付テハ買收ノ日ニ於ケル建設費ヲ時價ニ依リテ國債換算金額ニ換算シタル金額以內ニ於テ協定シタル金額

前項第一號ノ規定ニ依ル金額カ買收ノ日ニ於ケル建設費ヲ時價ニ依リテ國債換算金額ニ換算シタル金額ニ達セザルトキハ其ノ換算シタル金額以內ニ於テ協定シタル金額ヲ以テ買收價額トス

第三十二條 政府ハ買收鐵道ノ營業ノ狀況ニ基キ前條第一項第一號若ハ第二號又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル買收價額ニ其ノ百分ノ五以內ノ金額ヲ加算スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ金額ヲ加算スヘキ場合及其ノ割合ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 第三十一條ノ規定ニ於テ益金トハ營業收入ヨリ營業費及賞與金ヲ扣除シタルモノヲ謂ヒ益金ノ平均割合トハ三年間ニ於ケル每營業年度末ノ營業線建設費ノ合計ヲ以テ同期間ニ於ケル益金ノ合計ヲ除シタルモノニ一年間ニ於ケル營業年度ノ數ヲ乘シタルモノヲ謂フ

建設費、營業收入及營業費ハ命令ヲ定ムル所ニ依リテ算出シタル金額ニ依ル

第三十三條ノ二 政府ノ買收スル鐵道又ハ其ノ附屬物件ニ付買收ノ日ニ於テ補修ヲ要スルモノアルトキハ之ニ要スル金額ヲ時價ニ依リテ國債換算金額ニ換算シ買收價額ヨリ控除ス

最近ノ營業年度末迄ニ爲サザルシキハ前項ノ規定ニ依ルノ外ニ必要スル金額ヲ買收價額計算上ノ營業費ニ加算ス

第三十五條ノ二 政府ハ買收ノ日ヨリ買收代價交付ノ日ニ至ル迄買收代價トシテ交付スヘキ國債ノ利子ニ相當スル金額ヲ概算ヲ以テ從價ノ決算期毎ニ買收セラレタル者ニ交付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ交付シタル金額ハ清算中ト雖主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ株主ニ配當スルコトヲ得

第三十五條ノ三 第三十條第一項ノ規定ニ依リテ一部買收セラレタル爲殘存線路ノミニ付營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ地方鐵道業者ハ未タ運輸開始ニ至ラサル殘存線路ニ付其ノ營業廢止ニ因リテ生スル損失ノ補償ヲ申請スルコトヲ得

第三十六條第二項及第三項ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ハ未タ運輸開始ニ至ラサル線路ニ付之ヲ準用ス

第三十六條ノ二 第三十六條ノ三トシ同條第三項中「第三十一條第三項ノ規定ハ前二項ノ益金」ヲ「第三十三條ノ規定ハ前二項ノ益金、建設費」ニ改ム

第三十六條ノ二 前二條ノ補償金額ハ第三十一條乃至第三十三條ノ二ノ規定ニ準シテ算出シタル金額ヨリ殘存物件ノ價額ヲ時價ニ依リテ國債換算金額ニ換算シタル金額ヲ控除シタル殘額以內ニ於テ政府ノ決定ム

未タ工事ニ著手セザル線路ニ對スル補償金額ハ測量其ノ他ノ費用ヨリ殘存物件ノ價額ヲ控除シタル殘額ヲ時價ニ依リテ國債換算金額ニ換算シタル金額以內ニ於テ政府ノ決定ム

第三十五條及第三十五條ノ二ノ規定ハ前二項ノ補償金ノ支拂ニ付之ヲ準用ス

第三十六條ノ四 主務大臣ハ地方鐵道ノ買收又ハ補償ニ關シ必要アリト認ムルトキハ當該地方鐵道業者ヲシテ建設費ノ増減ヲ來スヘキ事項ニ付認可ヲ受ケシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ認可ヲ受ケヘキ場合ニ於テ之ヲ受ケサルモノニ付テハ政府ハ其ノ額ヲ査定スルコトヲ得

第三十六條ノ五 第三十一條、第三十三條ノ二及第三十六條ノ二ノ國債時價ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第三十九條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

五 第六條ノ四第一項ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シテ後配株主ニ不利益ヲ及ボシタ

第三十九條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

ルトキ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七 軌道法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

軌道法中改正法律案

軌道法中左ノ通改正ス

第十一條第一項中「運轉時刻ヲ」運轉速度及度數ニ、同條第二項中「料金又ハ運轉時刻ヲ」料金、運轉速度、度數又ハ發著時刻ニ改ム

第十七條 公共團體ニ於テ公益上ノ必要ニ因リ軌道(未タ運輸開始ニ至ラサル線路ヲ含ム)ノ全部又ハ一部及其ノ附屬物件ヲ買収セムトスルキハ軌道經營者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リテ一部買収セラレタル爲殘存線路ノミニ付事業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ軌道經營者ハ殘存開業線路ニ付テハ該線路及其ノ附屬物件ヲ買収ヲ求メ未タ運輸開始ニ至ラサル殘存線路ニ付テハ其ノ事業廢止ニ因リテ生スル損失ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

第十八條 公共團體ニ於テ前條ノ規定ニ依ル買収ヲ爲サムトスルキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ公共團體ニ於テ前條ノ規定ニ依ル買収ヲ爲シタルトキハ特許ニ因リテ生スル權利義務ヲ承繼ス

第十九條 公共團體力第十七條ノ規定ニ依ル買収又ハ補償ヲ爲ス場合ニ於テハ買收價額又ハ補償金額ハ協定ニ依ル協議調ハサルトキハ申請ニ因リ地方鐵道法第三十一條乃至第三十三條ノ二又ハ第三十六條ノ二ノ規定ニ準シ算出シタル金額ヲ標準トシテ主務大臣之ヲ裁定ス

第二十條中「第十八條第一項」ヲ「第十七條」ニ改ム

第二十六條 地方鐵道法第六條ノ二乃至第八條、第十條第二項、第十一條、第十五條、第十七條、第十九條第二項、第

二十三條第二項第三項、第二十五條、第二十七條、第三十條乃至第三十六條ノ二、第三十六條ノ四及第三十六條ノ五ノ規定ハ軌道法ニ之ヲ準用ス但シ地方鐵道法第七條第二項及第八條中鐵道抵當法トアルハ明治四十二年法律第二十

二十九條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

五 第二十六條ニ於テ準用スル地方鐵道法第六條ノ四第一項ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シタル後配株主ニ不利益ヲ及ボシタルトキ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八 非訟事件手續法中改正法律案

(政府提出)

非訟事件手續法中改正法律案

第二百二十六條第二項ノ末尾ニ「地方鐵道法第六條ノ四第二項(軌道法第二十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ定メタル事件亦同シ」ヲ加フ

第二百三十五條ノ五 地方鐵道法第六條ノ四第二項(軌道法第二十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ已ムコトヲ得サル事由ヲ疏明シテ總取締役之ヲ爲スヘシ

第三百三十五條ノ六 前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ裁判所ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ

申請ヲ認許スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

申請ヲ認許セサル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣小川平吉君登壇)

○國務大臣(小川平吉君) 地方鐵道法並軌道法中改正法律案ノ提出ノ理由ヲ説明致シマス、地方鐵道法ハ大正八年ニ實施セラレマシタガ、其後實施ノ成績ニ鑑ミマシテ、

一部改正ヲ爲ス必要ヲ認メタノデアリマス、即チ改正ノ要點ハ大體四點デゴイマシテ、第一點ハ、特殊ノ地方鐵道ニ對シテ軌間制限ノ緩和ヲシマシタコト、第二點ハ地方鐵道會社ニ對シテ後配株ノ發行ヲ認メマシタコト、第三點ハ、事務簡捷ノ趣旨ニ基キマシテ認可事項ヲ削減致シマシタコト、第四點ハ、買収及補償ニ關スル規定ヲ改廢致シマシタコトデゴイマス、次ニ軌道法中改正法律案ハ、前述ノ地方鐵道法中ノ改正ニ伴ヒマシテ、軌道法ニモ同様ノ改正ヲ施サント欲スルモノデゴイマス、何卒御審議ノ上、御協賛ヲランコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(元田肇君) 原司法大臣

(國務大臣原嘉道君登壇)

○國務大臣(原嘉道君) 非訟事件手續法中改正法律案ノ提出理由ヲ御説明申上ゲマス、此改正ハ只今鐵道大臣ヨリ説明シマシタ地方鐵道法中改正法律案及軌道法中改正法律案ト牽聯致シマスルガ、此兩法律案ニ於キマシテハ、地方鐵道會社及軌道會社ニ一定ノ條件ノ下ニ、後配株ノ發行ヲ認ムルコトニナリマシタ、而シテ會社ガ後配株ヲ發行致シマシタル場合ニ於キマシテ、定款又ハ株式申込書ニ記載シタル事項ニ付テ、殊ニ後配株主ニ不利益ナル變更ヲ來サント致シマスル時ニハ、後配株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要スルモノトシテ居リマスルガ、已ムコトヲ得ザル事由ガアリマシタ場合ニ於キマシテハ、其變更ハ同株主總會ノ決議ヲ經ルコトナク、裁判所ノ許可アルヲ以テ足ルコトニ相成テ居リマス、ソコデ此裁判所ノ許可ヲ得ル手續ヲ、非訟事件手續法中ニ規定スルノ必要ガアリマシテ、本案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス(拍手)

第九

右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○原惣兵衛君 右三案ヲ一括シテ、政府提出北海道鐵道株式會社所屬鐵道外十三鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案ノ委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(元田肇君) 原君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(元田肇君) 御異議ナシト認メテ可決致シマタ、日程第十、陪審法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス

第十 陪審法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

陪審法中改正法律案

陪審法中左ノ通改正ス

第四條第四號ヲ第五號トシ第三號ヲ第四號トシ同條第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

三 治安維持法ノ罪

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ本法施行前ニ生シタル事件ニ付亦之ヲ適用ス

(國務大臣原嘉道君登壇)

○國務大臣(原嘉道君) 陪審法中改正法律案ノ提出理由ヲ御説明申上ゲマス、治安維持法ノ罪ハ陪審法第四條ニ列記シテアリマスル刑法第二編第一章乃至第四章第八章ノ罪、就中内亂罪及外患罪並法令ニ依ル公選ニ關シタル罪ト等シク、其本質上及實際ニ於キマシテ、陪審員ノ公正的確ナル表決ヲ得ルニ適セナイモノガアルデアリマス、陪審法ニ於キマシテ是等ヲ陪審手續ヨリ除外致シマセナカッタハ、其制定當時ニ於テ未ダ治安維持法ガ存在シテ居ラナカッタ爲デアリマス、政府ハ現行陪審法ノ精神ニ鑑ミマシテ、治安維持法ノ罪ヲ陪審法第四條ニ認メタル除外例ニ加ヘマシテ、陪審制度ノ運用上ニ支障ナカランコトヲ期スルモノデアリマス、是ガ本案ヲ提出致シマシタル所以デアリマス、何卒御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス(拍手)

第九

右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○原惣兵衛君 右三案ヲ一括シテ、政府提出北海道鐵道株式會社所屬鐵道外十三鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案ノ委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(元田肇君) 原君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(元田肇君) 御異議ナシト認メテ可決致シマタ、日程第十、陪審法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス

第十 陪審法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

陪審法中改正法律案

陪審法中左ノ通改正ス

第四條第四號ヲ第五號トシ第三號ヲ第四號トシ同條第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

三 治安維持法ノ罪

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ本法施行前ニ生シタル事件ニ付亦之ヲ適用ス

(國務大臣原嘉道君登壇)

○國務大臣(原嘉道君) 陪審法中改正法律案ノ提出理由ヲ御説明申上ゲマス、治安維持法ノ罪ハ陪審法第四條ニ列記シテアリマスル刑法第二編第一章乃至第四章第八章ノ罪、就中内亂罪及外患罪並法令ニ依ル公選ニ關シタル罪ト等シク、其本質上及實際ニ於キマシテ、陪審員ノ公正的確ナル表決ヲ得ルニ適セナイモノガアルデアリマス、陪審法ニ於キマシテ是等ヲ陪審手續ヨリ除外致シマセナカッタハ、其制定當時ニ於テ未ダ治安維持法ガ存在シテ居ラナカッタ爲デアリマス、政府ハ現行陪審法ノ精神ニ鑑ミマシテ、治安維持法ノ罪ヲ陪審法第四條ニ認メタル除外例ニ加ヘマシテ、陪審制度ノ運用上ニ支障ナカランコトヲ期スルモノデアリマス、是ガ本案ヲ提出致シマシタル所以デアリマス、何卒御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(元田肇君) 質疑ノ通告ガアリマス
――土屋清三郎君

〔土屋清三郎君登壇〕

○土屋清三郎君 昨ハ本案ニ關聯シテ司法大臣ニ御尋テ致シタイノデアリマス、先般破産ノ爲ニ身分上ノ資格迄モ奪フ居ルト云フコトハ、破産其モノガ債權者ノ總テノ利益ノ爲ニ破産者ノ總テノ財産ニ對スル強制執行デアルト云フ趣旨カラシテ、破産ノ爲ニハ其身分ニマデ影響フ及ボサナイト云フノ今日ノ破産法ノ精神デアル、然ルニ特別法ノ中ニ於テ今尙ホ破産者ニ對シテ身分上ノ資格迄モ奪フ居ルト云フコトハ、甚ダ矛盾シテ居ルデハナイカト云フコトニ付テ尋ネマシタ所ガ、司法大臣カラ其際御答辯ガアリマシタ、其御答辯ハ、要領テ得ザルノミナラズ、現ニ茲ニ上程サレテ居ル所ノ陪審法ヲ見マシテモ、甚ダ矛盾著シテ居ル事實ガ發見セラル、ノデアリマス、ソコデ私ハ二三ノ點ヲ質問致シタイノデアリマス、陪審法ハ御承知ノ通り國民ノ意思ヲ裁判ニ反映セシムル所ノ、普通ノ精神ニ基イテ最新ノ制度デアル、然ルニ此破産者ヲ陪審員ヨリ排斥シテ居ルト云フコトハ、普通ノ精神ニ反シ、人格政治ノ意義ニ反スルト考ヘルガ、ドウデアルカ、第二ニハ、犯罪者デアリマシテモ六年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者、又ハ舊刑法ノ重罪犯者ヲ除クノ外ハ、當然陪審員タル所ノ資格ヲ得テ居ルニモ拘ラズ、破産者ニ對シテハ之ヲ剝奪シテ居ルト云フコトハ、犯罪者ヨリモ尙ホ破産者ヲ虐待スル所ノ制度デアッテ、是亦甚ダ矛盾シテ居ル所ノ制度デハナイカ、今一ツハ今日ノ官吏ノ任用ニ關スル制度ヲ見マスルト云フト、行政部並軍部ノ官吏ト云フモノハ、其任官ノ間ニ於テ破産ノ爲ニ其資格ヲ奪ハル、コトハナイノデアリマス、然ルニ司法部ノ官吏ニ至リマシテハ、任官ノ間ニ破産ヲ致シマスルト云フト、忽チ其資格ヲ失フト云フコトニ相成ルノデアリマス、是ハ同ジク官吏デアリナガラ甚ダ矛盾シテ居ル所ノ制度デアルト思フノデアルガ、司法大臣ハ矢張之ヲ妥當ダト

考ヘルノデアルカ、若シ妥當ナリト考ヘルノデアルナラバ、其理由ヲ説明シテ戴キタイノデアリマス、ソレカラ第四ニハ、醫師、藥劑師、齒科醫師、是等ノ者ハ破産ノ爲ニ何等資格ヲ奪ハル、コトハアリマセヌ、然ルニ辯護士、辨護士其他司法ノ業屬ハ破産ノ爲ニ忽チ其資格ヲ失フト云フコトニ相成ルノデアリマス、同ジク自由職業ニ從事シテ居ル者デアアルニ拘ラズ、單リ司法ニ關スル所ノ業屬ノ者ニ於テ、此資格ヲ奪ハル、所ノ特別法ヲ存置スルト云フコトハ、一體如何ナルモノデアアルカ、司法大臣ハ之ヲ妥當ナリト認ムルカ、若シ妥當ナリト認ムルナラバ、此理由ヲ説明シテ戴キタイノデアリマス、今一ツハ政府ハ今日ノ新聞デ見マスト云フト、司法制度ニ對シテ根本的ノ改革ヲ企テ、案ヲ具シテ樞密院ノ御諮詢ヲ仰ギツ、アルト云フコトデアリマス、司法大臣ハ以上ノ私ノ質問ニ付テ、此破産ノ爲ニ身分上ノ資格ヲ奪フ居ルト云フ所ノ制度ヲ、若シ妥當デナイト考ヘルナラバ、此場合ニ於テ根本的ノ二根コソギニ是等ノ制度ヲ撤廢スル所ノ意思ガナイカドウカ、此點ニ付テ御説明ヲ得タイノデアリマス

〔國務大臣原嘉道君登壇〕

○國務大臣(原嘉道君) 土屋君ノ第一ノ御質問ハ、陪審法中ニ破産者ニシテ復權ヲ得ザル者ハ、陪審員タルコトヲ得ズトアルノハ、人格主義、普通主義ニ反セザルカト云フコトデアリマスケレドモ、現行ノ我國ノ各種ノ公法ニ於キマシテ、破産者ト云フモノハ國民ノ信用薄キモノト認メテ居ルノデアリマスカラ、陪審法ニ此規定ガアリマシテモ、一向差支ナイノデアリマシテ、普通ノ趣旨ニ相反スルモノデハナイト信ジマス、ソレカラ第三ニ、破産者ニシテ復權ヲ得ザル者ガ或ル犯罪者ヨリモ却テ劣ルヤウニ見ラレラガ、是ハ不都合ハナイカト云フコトデアリマスルガ、是モ他ノ立法例ニ澤山アルコトデアリマシテ、我國ニ於ケル國民ノ感情ガ破産者ニ對スル信用ガ薄イ結果デアリマスルノデ、別ニ是ガ爲ニ陪審法ニ於テ殊ニ破産者ヲ輕ク扱フデハナイノデアリ

マスカラ、別ニ不都合ハナイト信ジマス、ソレカラ第三以下ノ御問ハ、是ハ既ニ土屋君カラ各種ノ法律ノ改正案ガ御提出ニナツテ居ルヤウデアリマスカラ、其法律ノ審査ノ際ニ意見ヲ申述べルコトニ致シマス
〔土屋清三郎君登壇〕

○土屋清三郎君 只今司法大臣ハ私ノ問ニ對シマシテ、破産者ト云フモノハ世間ノ信用ガ薄イカラ已ムヲ得ナイト云フコトヲ申サレタ、私ハ深ク之ヲ司法大臣ノ爲ニ惜ムノデアリマス、犯罪者ヨリモ尙ホ破産者ト云フモノガ社會ノ信用ヲ失フト云フ貴方ノ御考ハ、若シ是ガ現内閣ノ思想デアルト致シマスルナラバ、吾々國民ハ大ナル失望ヲ致サナケレバナラナイノデアリマス、併シ私ハ此點ハ是レ以上申上ダマセヌ、唯只今ノ御答辯ニ對シテ最後ニ一ツ御尋ヲ致シテ置キタイノハ、裁判所構成法ノ第七十三條ニ依リマシテ、裁判官ハ其意思ニ反シテ其職ヲ奪ハレルコトハナイ、即チ自分ノ意思ニ反シテ免職ヲサレルコトハナイノデアリマス、然ルニ同ジク六十六條ノ三號ニ依リマシテ、破産者ニ對シテハ當然其資格ヲ奪フ居ル、即チ判事檢事ノ職ニ在ル所ノ者ガ、破産ノ宣告ヲ受ケマシタ場合ニハ、直ニ其職ヲ失フノデアリマス、是ハ前申シマシタ所ノ行政部並軍部ノ官吏ト比較致シマシテ非常ニ差別的ノ待遇ヲ受ケテ居ルバカリデナク、破産其モノ、原因ハ、御承知ノ通り、必ズシモ親族リノ借金ガ原因ニナルノデアリマセヌ、或ハ友人ノ爲ニ保證ヲシタ爲ニ破産ノ原因トナルコトモアルデアリマセウ、或ハ十二年ノ大震災災ノ如キ場合ニ於キマシテ、自分ノ家ヲ擔保ニシテ金ヲ借りテ居シテ、保險ヲ掛ケテ居タケレドモ、保險ハ燒ケテシマシテ借財ハ燒ケナイ、是ガ原因トナツテ破産スルコト云フコトモアルデアリマセウ、今日ノ如キ此破産ノ爲ニ人ノ公ノ資格ヲ奪フト云フコトガ明ニナリ、既ニ立法府ニ於キマシテモ債權者ガ、或ハ債權者以外ニ、或ル惡辣ナル所ノ政治家ガアッテ、之ニ手ヲ廻シテ其債權ヲ手ニ入レテ、破産ヲ以テ其人ノ資格ヲ奪ハントスル

ガ如キ傾向ガ段々々々現レテ來ル今日ノ狀態ニ於キマテハ、假ニ茲ニ鯨骨ナル嚴正ナル所ノ司法官ガアッテ、其司法官ヲ何トカ始末シタイト云フ時、偶其人ガ他ノ債務ノアルコトヲ承知シテ、手ヲ廻シテ之ヲ買収シテ、之ヲ以テ破産ノ申請ヲ致シ、破産ノ宣告ヲ受ケシムルト云フコトニナリマスレバ、取りモ直サズ此六十六條ノ規定アルガ爲ニ、七十三條ノ、裁判官ノ終身官タル、其意思ニ反シテ其地位ヲ奪ハル、コトハナイト云フ所ノ、此保障ノ簡條ト云フモノハ全ク空文徒法トナツテ、司法官ノ獨立ト云フコトハ遂ニ此點カラ崩レテ行クト考ヘルノデアルカ、之ヲ司法大臣ハドウ考ヘルノデアルカ、此點ヲ御尋致スノデアリマス(拍手)

〔國務大臣原嘉道君登壇〕

○國務大臣(原嘉道君) 破産者ガ國民ノ信用ノ薄イト云フコトハ先程申上ダタ通りデアリマス、而シテ現行裁判所構成法ニ於テ、判檢事ニナル無資格者ノ中ニ之ヲ加ヘタト云フコトハ、他ノ法律ノ比較上當然コトデアラウト信ズルノデアリマス、而シテ一旦判檢事ニナリマシタ後ニ、當然職務ヲ行フト云フコトハ、別ニ明文ハナイノデアリマスルガ、併シ破産者トシテ、國民ノ信用ノ薄イ者ガ判檢事ニナツテ居ルコトノ不都合デアルト云フコトハ、私ハ一般國民ノ認ムル所デアラウト信ズルノデアリマス、隨テ將來ニ於キマシテモ、私ハ土屋君ノ御問ノ如キ趣旨ニ、法律ヲ變更スルノ必要ハナイモノト考ヘマス(拍手)

〔森保祐昌君登壇〕

○森保祐昌君 陪審法中ノ改正法律案ニ付テ一言司法大臣ニ質問シマス、一體陪審制度ヲ設ケラレタル趣旨ト云フモノハ、立憲政體ニ於テ立法行政司法三國民ノ參與權ガアルノニ、司法ニ對シテノ國民ノ參與權ガナイカラ、此事ハ立憲政體トシテ不具デアルト云フコトガ第一ノ理由デアッテ、次ハ司法ノミニ付テ、我國ノ憲法ノ條文ガ、司法權ハ天皇ノ名ニ於テ裁判所ガ之ヲ行フト單純ニナツテ居タノデハ、事實上ノ犯罪

行爲ノアリタルヤ否ヤマデヲ、天皇ノ名ニ於テ裁判所ガ之ヲ行フト云フコトハ、思想上宜シキ結果ヲ得ナイモノデアル、是ガ即チ陪審制度ノ起リタル理由ニナッテ居ルノデアリマス、本件ノ治安維持法ナルモノハ、言葉ヲ簡單ニ言ヘバ、是ハ思想上ニ重キヲ置キテ罰スル罪デアル、形態ニ現ハレタル事柄ニ付テハ、既ニ刑法ニ於テ條文ガアル、尙ソレ以上進シテ思想上ニ重キヲ置キテ以テ形ニ現ハレヌカト云フモノハ、頗ル我國ノ國體ニ重大ナル關係ヲ及ボスモノナルガ故ニト云フ理由ノ下ニ此治安維持法ハ出來タモノデハナイ、故ニ此法律ヲ施行スベキヤ否ヤト云フコトニ付テハ、頗ル疑問ノアル問題ニナッテ居ルノデアアル、之ヲ陪審ノ手續カラ除クト云フコトハ、陪審法ヲ設ケタル趣旨ニ反スルノデアアリマセヌカ、陪審法ヲ設ケタル趣旨ト云フモノハ、總テ獨逸ノ憲法ノ如ク、若シ司法權ハ裁判所ガ、天皇ノ名ニ於テ法律ヲ宣言スルト云フ趣旨ニナッテ居ルノナラ宜イケレドモ、裁判全部ヲ、天皇ノ名ニ於テスルト云フコトニナッテハ、人ヲ殺シタルカ殺サヌカ云フヤウナ事實マデヲ裁判所ガ、天皇ノ名ニ於テ行フト云フコトハ、思想上當ヲ得ナイト云フコトニ根據ヲ持タコトヲ、司法大臣ト雖モ是ハ御忘レニナラナイデアアラウ(一向分ラナイゾ、何ヲ話シテ居ルカト呼フ者アリ)分ラナイコトハナイ、サウデアアルカラ詰リ陪審法ノ設ケラレタノハ、決シテ良イ判決ガ出來ルカラト云フノデ設ケラレタモノデハナイ、立法行政カ總テ國民ノ參與ノ下ニ出來ルノデアアル、司法モ國民ヨリ選舉シタル所ノ陪審員デ、事實重大ナル犯罪ハ其事ヲ認メテ來ルナラバ、朕ハ汝等ノ選舉シタル衆議院議員ノ結合スル議會ニ於テ、作リタル法律ヲ宣言スベシト云フ精神ニナッテ居ルノデアアル、然レニ此治安維持法ト云フモノハ思想ヲ主ニ罰スルコトニナッテ居ルノデアアリマセヌカ、之ニ對シテ此最モ議論ノアル治安維持法ト云フモノハ、罪ヲ、陪審制度カラ除カレト云フコトハ、陪審制度ノ趣旨ヲ沒却シタモノデハナイ

カ、之ヲ質問スルノデアリマス、一寸其點ガ分リマセネバ又申上ゲナケレバナリマセヌカラ、一應答辯ヲ得マシテカラ申上ゲマス

〔國務大臣原嘉道君登壇〕

○國務大臣(原嘉道君) 我國ノ現行ノ陪審法ハ總テノ犯罪ニ付テ陪審制度ヲ採用シテ居ルノデアハナイノデアリマス(拍手)故ニ先程申上ゲマシタ通り、陪審法第四條ノ立法ノ精神ニ基イテ、治安維持法ノ罪ヲ矢張陪審裁判カラ除外セントスルモノデアアッテ、即チ現行陪審法ノ精神ニ副フ改正トナルノデアアリマス

〔森保祐昌君登壇〕

○森保祐昌君 現行法ノ精神ニ基イテ、此法律案ガ出タト云フ司法大臣ノ答辯デアリマスルガ、現行法ハ無論司法大臣ノ言ハレル如ク、全部ノ罪ニ付テ陪審制度ガ設ケラレテ居ルノデアハナイ、是ハ本來ノ精神カラ言ヘバ、陪審制度ハ總テノ罪ニ付テ設ケルト云フコトガ精神デアアルケレドモ、甚ダ手續ガ煩雜ナルガ爲ニ、最も重大ナルモノニ付テノミ、此陪審制度ヲ適用スルコトニナッテ居ルノハ、是ハ理想デアナクシテ、便宜カラ出來タ規定デアリマセヌカ、陪審制度ノ趣旨カラ言ヘバ、人ヲ殺シタルカ殺サヌカ云フ罪ノ事實ノ認定ヲ、裁判所ガ、天皇ノ名ニ於テ行フト云フコトハ、思想上適當デアナイト云フ理由ノ下ニ、陪審制度ガ設ケラレテ居ルノデアアリマセヌカ、陪審制度ノ設ケラレテ居ル趣旨ヲ御尋致シマス、若シ其趣旨デアルトスルナラバ、本件ノ治安維持法ノ如ク、思想上ノ事ニ付テ重キヲ置ク事ニ關シテ罰スル罪ヲ、陪審ノ規定カラ除ク事ハ適當デアナイノデアハナイカト云フコトヲ質問スルノデアアリマス

〔國務大臣原嘉道君登壇〕

○國務大臣(原嘉道君) 陪審法ハ、現行ノ陪審法ニ於テ、陪審ニ付スベキ事件ニ付テ、陪審ヲサセルコトヲ適當ト認メタノデアアリマシテ、其外ニ廣ク森保君ノ言ハレルヤウナ意味ハ含シテハ居リマセヌカ、隨テ現行陪審法ノ精神ニ基イテ、現行陪審法ノ規定ト權衡ヲ得セシムル爲ニ、法律ノ改正ヲ行フト云フコトハ、當然ノコトデアアルト考ヘマス

○森保祐昌君 司法大臣ハ陪審制度ノ根本原理ヲ知ラスノデアリマスカラ、質問ハ是デ打切りマス

○議長(元田肇君) 水谷長三郎君

○水谷長三郎君 本案ハ治安維持法違反ノ被告人ヲシテ、陪審裁判ヲ請求スルノ權ヲ奪ハントスル所ノ案デアリマスルガ故ニ、陪審裁判ノ本旨デアアル所ノ國民ハ、其同等者ノ裁判ヲ受ケルト云フ權利ガアルト云フ立場カラ見マスレバ、可ナリ重要ナル案デアラウト思フガ故ニ、次ニ連ブルデアラウ所ノ數點ニ付テ、司法大臣ノ御答辯ヲ煩シタイト思フノデアリマス、治安維持法違反事件ト陪審法トノ關係ハ、第五十六議會ニ於テ、初メテ問題ニナッタ所ノモノデアハナクシテ、治安維持法ガ制定サレントシタ所ノ第五十議會ニ於テモ、既ニ問題ニナッテ居タノデアリマス、此時ニ問題トナッタ所ノ最も大キナ點ハ何デアアルカト言ヘバ、内亂罪ガ既ニ陪審裁判カラ除外サレテ居ルニ拘ラズ、治安維持法違反事件ガ、何故ニ陪審裁判ヲ求ムルノ權アリヤ否ヤト云フ點ガ問題ニナッテ居タノデアリマス、本案ノ提出理由ヲ考ヘマスルト、治安維持法ノ罪ハ、其性質上陪審手續ニ依ルコトヲ不適當トスル云々ト云フ意味デアリマセヌカ、恐ラクハ是ハ内亂罪、其他ソレト同様ノ罪ニ關聯シテノ制定理由デアラウト思フノデアリマス、處ガ第五十議會ニ於キマシテ、貴族院ノ治安維持法委員會ニ於キマシテ、渡邊暢ナル人ガ、内亂罪ガ陪審カラ除外サレテ居ルニ拘ラズ、何故治安維持法ノミガ、陪審裁判ヲ求ムルノ權アリヤ否ヤト云フ問ニ對シテ、其當時ノ政府委員ハ、治安維持法違反ノ罪ト、内亂罪トハ其罪跡上本質的ニ異ナリ、又其公益關係ニ於テ、根本的ニ異ナリト云フ理由ヲ御述ベニナリマシテ、英吉利或ハ佛蘭西、奧太利ノ陪審制度ノ例ヲ引カレマシテ、内亂罪ハ陪審制度ヨリ除

外スベキ所ノモノデアアルガ、治安維持法違反ノ罪ハ陪審法ヨリ除外スベキ所ノ何等ノ理由ガナイト云フコトヲ、其當時ノ政府委員ハ言明サレテ居ルノデアリマス、然レニ第五十六議會ニ於キマシテ、既ニ第五十議會ニ於テ豫見シ、又論議サレテ居ル所ノ問題ニ關シマシテ、突如トシテ本案ヲ改正シ、治安維持法違反ニ關スル所ノ犯罪ヲバ、陪審制度ヨリ除外サレル所ノ理由ガ何レニ在リヤト云フ點ヲ、先ヅ法相カラ御答辯ヲ煩シタイト思フノデアリマス、第二ニ、是ハサウ大シタ問題デアアリマセヌカ、内亂罪ガ陪審制度カラ除外サレルノハ、主トシテ大審院ノ特別權限ニナッテ居ル理由カラ、陪審裁判カラ除外サレテ居ルノデアアル、然レニ治安維持法ハサウ云フ大審院ノ特別管轄ニ屬シテ居ラナイ所ノ犯罪デアアルガ、サウ云フモノヲバ内亂罪ニ準ジテ、今更事新シク陪審制度カラ除外スル所ノ理由ガ、何レニ在リヤト云フノガ是レ第二點デアリマス、更ニ第三點ニ於キマシテハ、此改正法案ト、此度我國ニ勃發シタ所ノ日本共產黨事件トノ關係デアリマス、日本共產黨ニ關スル被告事件ハ、東京ノ事件ヲ除イテハ、各地ニ於テ既ニ豫審モ終結シ、或ハ一審、又時ニハ二審ノ判決ガ終タ所ガアルノデアリマス、處ガ東京以外ノ各地ノ裁判所ヲ見マスルト、公判ヲ十一月一日以前ニ開ク所ノ準備モ何等ナイニ拘ラズ、各地ノ裁判所ハ一様ニ十月一日前ニ公判ノ指定ヲシテ、折角陪審裁判ヲ請求シ得ルノ權利ヲバ、日本共產黨事件ノ被告カラ剝奪シタ事實ヲ、吾々ハハッキリ見セ付ケラレテ居ルノデアアル、然ラバ吾々ノ尋ネントスル點ハ、現行法ニ於キマシテサヘモ、此法ヲ改正セズニ、治安維持法被告事件ヲバ、陪審裁判カラ除外サレテ居ルニ拘ラズ、何故又更ニ此法案ヲ改メテ、ハッキリト根本的ニ、治安維持法被告事件ヲ陪審制度カラ除外スル所ノ理由ガ、果シテ何處ニ在ルカ、更ニ最後ニ御尋致シタイノハ、日本共產黨事件ノ被告ガ、各地ノ裁判所デ一様ニ言ッテ居ル點ハ、其理由ノ中ツテ居ルカ、中

テ居ナイカハ各人ノ見ル所ニ委セマスガ、彼等被告ガ一樣ニ言テ居ルノハ、吾々ハ決シテ自分ノ利益ヲ爲ニ働イタノデハナク、吾々ハ無産大衆ノ爲ニ働イタノデアル、或ハ無産大衆ノ爲ニ生命ヲ賭シテ働イタノデアル、隨テ吾々ガヤツ所ノ行爲ガ正シイカ、或ハ間違テ居ルカト云フコトノ唯一ノ裁判官ハ、我國ノ無産大衆デナクテハナラナイ、隨テ吾々ノ裁判ハ飽迄モ公開ノ席上デ、又飽迄モ陪審制度ノ下ニ裁カレナクテハナラヌト云フコトハ、日本共產黨事件ニ關係ノ人々ガ皆一樣ニ法廷ニ於テ絶叫シタ所ノ點デアル、所ガ此度ノ改正ハ、斯ウ云フ民衆ニ關係ノアル所ノ犯罪ガ、彼等被告ノ言葉ヲ借りテ言ヘバ、裁判官ハ、公開ノ席上デ陪審制度ノ下ニ裁カレナクテハナラヌト叫ンデ居ル所ノ被告ニ對シテ、陪審制度ヲ求ムルノ權ヲ剝奪シ、民衆ノ目カラ、民衆ノ耳カラ、是等ノ事件ヲ蔽フテ、暗黒裁判ノ下ニ移シテ裁カナクテハナラヌ所ノ理由ガ果シテ何處ニアラウカ、更ニ吾々ハ形式上ノ點カラ尋ネルノデハナイガ、政治道德或ハ道理ノ點カラ尋ネナクテハナラヌ點ハ、此度ノ日本共產黨事件ノ被告ハ、既ニ一應ハ陪審制度ノ下ニ審判ヲ受ケル所ノ權利ヲ持テ居ル、所ガサウ云フ事件ノ進行中ニ、此法案ヲ改正シテ、偶々彼等ガ獲得シテ居ル所ノ權利ヲ剝奪シ、而シテ彼等ヲシテ暗黒裁判ノ下ニ審理セシムルト云フコトハ、刑事訴訟法或ハ其他ノ形式ノ上カラ申シマズレバ、是認スベキ點デアルカモ知レマセヌケレドモ、政治道德ノ上カラ、或ハ道理ノ上カラ見テ、果シテサウ云フ事ガ出來ルカドウカ、折角獲得シタ權利ヲバ、其事件ノ進行中ニ奪フト云フヤウナコトハ、道理ノ上カラ政治道德ノ上カラ果シテ是認スルコトガ出來ルカドウカ、サウ云フ點ニ付キマシテ原司法大臣ノ御答辯ヲ煩シタイト思フノデアリマス

〔國務大臣原嘉道君登壇〕

○國務大臣(原嘉道君) 治安維持法制定當時ノ政府委員ガ、治安維持法ノ罪ハ陪審法ヨリ除外スベキモノデナイト言、タト云フ

コトデテリマスガ、治安維持法制定當時ニハ、マダ此犯罪ガ如何ナル狀態ニ行ハレルカト云フコトハ、餘リ知ラレテ居ラナク、ナカッタアリマス、然ルニ御承知ノ通りノ日本共產黨事件ナルモノガ發覺シテ以來、此治安維持法ニ規定シテアル犯罪ガ如何ナル狀態ニ行ハレルカト云フコトガ明確ニナツテ參タノデアリマスカラ、現行陪審法ノ第四條ガ除外シテ居ル犯罪ト、其性質相類似スルモノト見テ、之ヲ除外例中ニ加ヘルハ當然ノコト、考ヘマス、第二ニ、大審院ノ特別權限ニ屬シテ居ル内亂罪ト同ジニ見ルハ不都合デアアル云々ト云フ御話デアリマシタト考ヘマスガ、御承知ノ通り陪審法カラ除外サレテ居ルノハ、單リ内亂罪ノミデハナイノデアリマス、況ヤ治安維持法ニ依ル國體變革ヲ目的トスル犯罪ハ、既ニ屢當議場デモ説明致シマシタ通り、一種ノ内亂罪ト見テモ宜イ性質ノモノデアリマスカラ、之ヲ陪審法カラ除外スルノハ是亦當然デアルト考ヘマス、第三ニ、東京地方裁判所以外ノ各裁判所ニ於キマシテ、日本共產黨事件ノ公判期日ヲ十月一日以前ニ於テ既ニ指定シタト云フコトハ、是ハ各事件ニ於ケル裁判長ノ職權デアリマシテ、之ニ對シテハ何人モ異議ヲ言フベキ性質ノモノデハナイノデアリマス、隨テ他ノ裁判所ニ於ケル被告人等ガ陪審裁判ニ附セラレナク、タト云フ理由ニ依テ、陪審法ヲ改正スル理由ガナイトハ言ヘナイノデアリマス、次ニハ是マデ開ケタ各裁判所ニ於テ、日本共產黨ノ被告人等ガ悉ク陪審裁判ヲ求メタト云フヤウニ言ハレマスガ、或ル被告人ハ求メタノモアリマスガ、或ル被告人ハ求メテ居ラヌノデアリマシテ、總テ被告人ガ陪審裁判ヲ請求シタト云フコトハ誤リデアリマス、ノミナラズ陪審法ト云フモノガ既ニ制定サレテ、現行法ノ陪審法デ是レノ性質ノ事件ハ陪審ニ附セザルモノト定メテアリマスト云テ、法律ノ精神通り或種ノ犯罪事件ヲ陪審法カラ除外スルト云フコトハ、當然立法上爲スベキ事柄デアルト存ズルノデアリ

マス、第五ニ、現ニ被告人トナツテ居ル共產黨ノ人々ガ、陪審裁判ヲ受クルコトヲ期待シテ居タノニ、之ヲ禁止スルカヲ作ルノハ、政治道德上如何デアアルカト云フ御問デアリマスガ、實體法デナキ手續法ニ於キマシテハ、既ニ起テ居タ事件ニ付キマシテモ、必要上手續ヲ變更スルト云フコトハ常ニアルコトデアリマシテ、是ガ爲ニ政治道德上如何ト云フヤウナ問題ヲ生ズル餘地ハナイノデアリマス、國家ノ必要上、斯ウ云フ手續ガ相當デアルト考ヘマスレバ、之ヲ制定スルニ何等道德上ノ不都合ハ生ジテ來ナイト考ヘルノデアリマス

〔水谷長三郎君登壇〕

○水谷長三郎君 只今ノ御説明ニ於テ大體ハ分タノデアリマスガ、モウ一點御尋シタイ點ハ、此度ノ治安維持法ニ於キマシテハ、恐ラクソレハ衆議院或ハ貴族院ヲ通ルデアラウト思フノデアリマスガ、其治安維持法違反事件ニ於キマシテハ、國體ニ關スル犯罪ト、私有財産制度ニ關スル犯罪トガ分レテ居ルノデアリマス、獨逸ニ於キマシテハ、政治犯ノ或種ノモノ、特種ノ政治犯ニ於キマシテハ、或種ノモノハ陪審ニ掛ケ、或種ノモノハ陪審ニ掛ケナイト云フ立法例ニナツテ居ルト云フコトヲ、第五十議會ニ政府委員ハ發表シテ居リマス、若シ法相ノ只今御説明ニナリマシタ點ヲ全部認ムルニ致シマシテモ、今日施行サレテ居ル所ノ陪審制度ノ良成績カラ言タナラバ、國體ニ關スル犯罪ニ付テハ兎モ角トシテ、私有財産制度ニ關スル違反事件ハ、今日ノ陪審制度ノ下ニ於テ陪審ニ附シテ何等ノ差支ガナイト云フコトハ、今日ノ我國ノ國情、又今日ノ陪審官ノ常識カラ見テ、毫モ憂フルニ足ラナイト思フノデアリマス、斯ウ云フ點ニ關シマシテ、獨逸ニ行ハレテ居ル立法例ノ如ク、一部ヲ陪審制度カラ除外シ、一部ヲ陪審制度ニ掛ケ得ルト云フヤウナコトヲ、我國ニ於テ認ムル意思アリヤ否ヤト云フ點ヲ御尋シタイノデアリマス

〔國務大臣原嘉道君登壇〕

○國務大臣(原嘉道君) 政府ノ見ル所ニ依

リマスルト、國體ノ變革ヲ目的トスル結社モ、私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル結社モ、其行動ノ狀態等ハ同一ナルモノデアツテ、犯罪トシテ現ハレテ來ル場合ニ於キマシテ、之ヲ審判スル手續ニ差異ヲ設ケナイ方ガ宜シカラウト存ジテ居ルノデアリマス(拍手)

○水谷長三郎君 私ノ質問ハ是デ打切りマス

○議長(元田肇君) 是デ質問ノ通告ハ濟ミマシタカラ、議事日程第十一ニ移リマス、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第十一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○原惣兵衛君 本案ハ昭和四年勅令第二百十九號承諾ヲ求ムル件ノ委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成(ト呼フ者アリ)〕

○議長(元田肇君) 原君ノ動議ニ御異議アリマスマイ

〔異議ナシ(ト呼フ者アリ)〕

○議長(元田肇君) 御異議ナシト認メテ可決致シマス——日程第十二、酒造組合法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス

第十二 酒造組合法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

酒造組合法中改正法律案 第一讀會

第三條中「協同一致シテ」ノ下ニ「酒類製造業ノ改良發達ヲ圖リ」ヲ加フ

第五條ノ二、酒造組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ分賦シ及過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ經費及過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ組合長ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス

此ノ場合ニ於テ組合ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ

前項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村ノ徵收金ニ次キ其ノ時効ニ付テハ市町村稅ノ例ニ依ル

經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徴收ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立、訴願及行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第六條第一項中「酒造組合聯合會」ノ上ニ「道府縣」ヲ一區域トスルヲ加ヘ同條第二項ヲ削ル

第六條ノ二 酒造組合聯合會ヲ設置セムトスルトキハ其ノ區域内ニ於ケル酒造組合三分ノ二以上ノ同意ヲ得創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第六條ノ三 酒造組合聯合會設置ノ認可アリタルトキハ其ノ區域内ニ於ケル酒造組合ハ當然其ノ會員ト爲ル

第六條ノ四 酒造組合聯合會ハ聯合會相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲本法施行地域ヲ通シテ一箇ノ酒造組合中中央會ヲ設置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ酒造組合聯合會ナキ道府縣ニ付テハ道府縣ヲ一區域トスル酒造組合ヲ以テ酒造組合聯合會ト看做ス

第六條ノ五 酒造組合中央會ヲ設置セムトスルトキハ酒造組合聯合會及前條ノ酒造組合三分ノ二以上ノ同意ヲ得創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第六條ノ六 酒造組合中央會設置ノ認可アリタルトキハ酒造組合聯合會及第六條ノ四ノ酒造組合ハ當然其ノ會員ト爲ル

第六條ノ七 第五條ノ二第一項及第四項ノ規定ハ酒造組合聯合會及酒造組合中央會ニ之ヲ準用ス

第七條中「酒造組合及酒造組合聯合會」ヲ「酒造組合、酒造組合聯合會及酒造組合中央會」ニ改ム

第八條及第九條中「酒造組合又ハ酒造組合聯合會」ヲ「酒造組合、酒造組合聯合會又ハ酒造組合中央會」ニ改ム

第九條ノ二 政府ハ酒造組合、酒造組合聯合會又ハ酒造組合中央會ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ、業務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ検査シ、經費ノ豫算又

ハ其ノ徴收方法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十條中「酒造組合又ハ酒造組合聯合會」ヲ「酒造組合、酒造組合聯合會又ハ酒造組合中央會」ニ「組合若ハ聯合會」ヲ「組合、聯合會若ハ中央會」ニ改ム

第十一條中「酒造組合及酒造組合聯合會」ヲ「酒造組合、酒造組合聯合會及酒造組合中央會」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前酒造組合法ニ依リ設置シタル道府縣ヲ一區域トスル酒造組合聯合會ニシテ本法施行ノ際現ニ其ノ區域内ニ於ケル酒造組合三分ノ二以上ヨリ成ルモノハ本法ニ依リ設置シタルモノト看做シ其ノ區域内ニ於ケル酒造組合ハ本法施行ノ日ヨリ當然其ノ會員ト爲ル

第五條ノ二第二項乃至第四項及第六條ノ七ノ規定ハ本法施行前二分賦シタル經費及本法施行前ニ生シタル原因ニ基ク過怠金ニ之ヲ適用セス

〔政府委員大口喜八君登壇〕

○政府委員（大口喜八君） 只今議題ニ相成リマシタ酒造組合法中改正法律案ニ付キマシテ、御説明ヲ申上ゲタイト存ジマス、本案ハ制度上全國ニ一箇ノ酒造組合中央會ノ設置ヲ認メマシテ、酒造組合聯合會ノ區域及加入ニ關シマスル規定ヲ改メ、又酒造組合ノ經費等ヲ滯納致シタ者ニ對シマシテ、強制徴收ノ途ヲ開カントスルコト、現在各地方ニ分立致シテ居リマス所ノ酒造組合及酒造組合聯合會ノ統制ヲ確實ニ致シマシテ、且ツ之ガ基礎ヲ鞏固ナラシメ、以テ酒造業ノ改良發達ヲ圖ル爲メ必要ナル事項ニ關シマシテ、改正ヲ行ハントスルモノデアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛アラントコトヲ希望致シマス

○議長（元田肇君） 本案ニハ別段ニ通告ガゴザイマセヌカラ、日程第十三ニ移リマス、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第十三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○原惣兵衛君 本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレントコトヲ望ミマス

〔贊成「下呼フ者アリ」〕

○議長（元田肇君） 原君ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌマイ

〔異議ナシ「下呼フ者アリ」〕

○議長（元田肇君） 動議ノ通り決シマシタ——日程第十四、自作農創設維持助成資金特別會計法案ノ第一讀會ヲ開キマス

第十四 自作農創設維持助成資金特別會計法案（政府提出） 第一讀會

自作農創設維持助成資金特別會計法案

第一條 自作農創設維持助成金ノ會計ハ之ヲ特別トシ一般ノ歳入歳出ト區分スベシ

第二條 自作農創設維持助成ノ資金ニ充ツル爲政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ借入ヲ爲スコトヲ得ル金額ハ毎年度三千萬圓ヲ限度トス

第三條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ借入金ノ額ノ前條ノ規定スル制限額ニ滿テザル場合ニ於テハ借入金ト通ジテ其ノ制限額ニ達スル迄自作農創設維持助成ニ要スル交付金トシテ交付スル爲本會計ノ負擔ニ於テ農地債券ヲ發行スルコトヲ得

第四條 本會計ニ於テハ借入金、自作農創設維持助成交付金ノ償還金及其ノ利子其ノ他附屬雜收入ヲ以テ其ノ歳入トシ自作農創設維持助成交付金、借入金及農地債券ノ償還金及其ノ利子其ノ他附屬諸費ヲ以テ其ノ歳出トス

第五條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルルコトヲ得

第六條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調整シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スベシ

第七條 本會計ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ翌年度ニ繰越使用スルコトヲ得

第八條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ昭和四年度ヨリ之ヲ施行ス

國債整理基金特別會計法第二條第三項中「臨時國庫證券」ノ下ニ「農地債券」ヲ加フ

登錄稅法第十九條第八號中「北海道府縣市町村」ヲ「國、北海道府縣市町村」ニ改ム

〔國務大臣山本悌二郎君登壇〕

○國務大臣（山本悌二郎君） 自作農創設維持助成資金特別會計法案提案ノ理由ヲ説明致シマス、自作農創設維持助成ハ農業生産ノ増進ヲ圖リ、國民食糧ノ充實ヲ期スル上ニ於テ重要ナルノミナラズ、農地問題殊ニ小作問題ノ解決、農家經濟ノ向上、農村安定ノ對策トシテ極メ必要ナル施設デアリマシテ、國家政策上最も重要且ツ緊要ナル事項ト信ジマス（拍手）從來簡易生命保險積立金ヲ此方面ニ融通シ、國家ノ補助施設ト相俟テ相當ノ效果ヲ收メテ參ッテハ居リマスルケレドモ、此方法ハ元來同積立金運用ノ一體様ニ過ギマセヌカラ、自作農創設維持者ノ選擇ニ關シテハ、資金還元ノ趣旨ニ依リ制限ノ爲ニ、適當ナル資格者ニモ資金ヲ融通シ能ハザル場合ガアルノデアリマス、又融通資金ノ限度ハ農村一般ノ要望ニ對シマシテ、到底之ヲ満足シ能ハザルノ狀況ニ在ルノデアリマス、即チ簡易生命保險積立金ノ運用ノミニテハ、其貸付ノ方法及限度ニ於テ自作農創設維持ノ目的ヲ十分ニ達成シ能ハザルノ憾ガアルノデアリマス、是ニ於テ政府ハ恆久ノ制度ヲ確立致シマシテ、爾今毎年一定ノ資金ヲ以テ自作農創設維持ノ助成ニ流用セシメテ、以テ相當ノ程度ニ於テ資金ノ需要ヲ満足セシムルト同時ニ、交付ノ按配ニ關スル從來ノ不便ヲ緩

和セントスルノデアリマス、而シテ是ガ資金ニ關シマシテハ毎年度三千万圓ヲ限度トシテ借入金ヲ爲シ、以テ自作農創設維持助成ニ要スル交付金ノ支出ニ充當シテ、若シ借入金ノ額ガ三千万圓ニ滿タザル場合ニ於テハ、之ニ滿ツルマデ農地債券ヲ發行シテ交付致シマシテ、其交付金ノ元利償還金ヲ以テ右借入金及農地債券ノ元利償還ニ使用セントスルモノデアリマス、而シテ是等ノ收支及之ニ附屬スル收入支出ハ、一團トシテ獨立ニ計算スルヲ適當ト考ヘマスノデ、本資金ニ關スル歳入歳出ハ之ヲ一般ノ會計ト區別致シマシテ、特別會計ヲ設置スルノ必要ヲ認メルノデアリマス、是レ本案ヲ提出致シマシテ理由デアリマス、願クバ速ニ御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ請ヒマス(拍手)

【小山松壽君登壇】

○小山松壽君 只今農林大臣ヨリ御説明ニナリマシタ自作農創設維持ニ關シマスル本案ニ付キマシテ數點ノ質疑ヲ致シ、御説明ヲ煩シタイト存ジマス、只今農林大臣ノ趣旨御辯明ノ中ニアリマシタ通り、本問題ハ農産物ノ増殖、食糧政策ノ解決、就中小作問題ニ要點ヲ置カテレバナラナイ國家政策上ノ、重要案件デアリヤウニ御説明ガゴザイマシタ、此點ハ本案制定ノ趣旨ノ上ニ全然御同感デゴザイマス、サリナガラ政府ヨリ御提出ニナリマシタ自作農創設維持特別會計法案、之ヲ拜見致シマス、僅ニ八箇條、附則ヲ添ヘマシテ極メテ簡單ナル組立デアリマス、之ヲ施設シテ参リマスル所ノ内容ニ至リマシテハ、審ニスルコトヲ得マセヌ、本案ハ農村社會問題解決ノ一ツトシテ、朝野ノ間ニ久シク研究ヲ重ネテ參シタ問題デアリマシテ、現内閣成立直後ニ於テ、此問題ハ地租委譲ノ問題ト相並ンデ政友會ノ重要ナル政策トシテ、世間ニ御聲明ニナツテ参リマシタ案件デゴザイマス、昭和二年六月二十八日地方長官會議ニ於テ、田中總理大臣ハ我國内外ノ情勢ニ鑑ミ、主力ヲ産業政策ニ傾注スルノ必要ヲ痛感シテ居ル、豫テ産業立國ノ必要ヲ提唱シ來タ

ガ、社會問題ノ如キ、經濟問題ノ如キハ多ク我國ノ産業狀態ニ於テ未ダ十分ナラザルモノガアラウト思フカラ、是等ノ見地カラ、是等幾多ノ難關ヲ解決シタイト云フ御趣旨ヲ以テ各府縣知事ニ御訓示ニナリマシタ、此精神ヲ承ケラレテ山本農林大臣ハ、自作農創設維持ニ付テ其徹底ヲ期スルコトヲ御趣旨ニ依リマシテ、昭和二年八月十日ノ政府並ニ與黨タル政友會ノ幹部懇談會ノ席上ニ於テ、全國耕地三百萬町歩、其内二百四十萬町歩ノ小作地、約三分ノ一ニ該當スベキ八十萬町歩ヲ自作農トシ、六十萬町歩ヲ加ヘテ約其半分ヲ自作ニスルト云フ目的ヲ以テ、其政策ノ遂行ニ努力スル聲明セラレマシタ、此施設ハ曩ニ簡易生命保險積立金ノ融通ヲ以テマシテ、五十一議會ニ於テ國費ヲ以テ補助シ、之ヲ助成スルノ政策ヲ執リマシテ、當時ノ憲政會内閣ハ此經費ヲ提出シテ議會ノ協賛ヲ求メマシタ、近時小作農ニ轉ズル所ノ中堅自作農ヲ維持スルト云フコトハ、最モ力ヲ用ヒナケレバナラヌ所デアルト同時ニ、農村社會問題ハ言フマデモナク經濟問題デアリマスカラ、此經濟ヲ基調トシテ自助ニ依リマシテ、小作農ヲ移シテ自作農ヲ創設スルト云フコトハ、是ハ出來ルダケ努メナケレバナラヌコトデアリマスケレドモ、此趣旨ヲ達シマス上ニ付キマシテハ、深く現在ノ農村ノ狀態ヲ考察シテ参リマセヌト、非常ナ憂ヲ將來ニ貽シハシマイカト考ヘルノデゴザイマス、只今山本農相ノ御説明ニ依リマスレバ、從來施設シテ参リマシタ所ノ趣旨ト、此度新ニ行ハントスル所ノ御精神ト、其間ニ著シキ相違ガアルノデアリマス、私ガ竊ニ憂ヘマスノハ、若シ本案ノ實行ヲ見ルニ至リマシタ曉ニ於キマシテハ、年々經テ我國ノ土地制度ニ一ツノ改革ヲ促シ、由々數キ事件ヲ招來スルニ非ズヤト心配ヲ致ス者デゴザイマス、從來ノ施設ニ付キマシテハ、本日改メテ政府當局ヨリ御調査ヲ戴キマシタ、即チ只今申上デマシタ若槻内閣當時ニ於キマス自作農創設維持ニ關シマス所ノ施設ハ、二十五箇年ヲ以テ一期トシ、國費ヲ以テ補

給シ、以テ其目的ヲ達シヤウト致シマシタモノデアリマシテ、試ニ其金額ヲ申上デマスレバ、融通貸付ヲ致シマス總額ハ四億六千八百五十萬圓デアリマシテ、補助金額ハ一億二千六百六十萬圓ニ上リマス、斯クテ創設維持致シマス所ノ面積ハ十一萬七千二百二十五町歩デアリマス、即チ第一年タル大正十五年、昭和元年ニ七百萬圓、二年タル昭和二年度ハ千三百五十萬圓、三年ハ千五百萬圓、四年ハ千五百萬圓、五年ハ千八百萬圓、六年ハ二千萬圓デアリマシテ、是ガ只今申上デマシタ第一期ノ一區劃トシテ其金額ニ達スルノデアリマス、而シテ之ニ對シ只今御説明ニナリマシタ新施設ハドウ云フ風ナモノニ當ルカト、書類ノ御提出ヲ願ヒマシテ拜見致シマス、新施設ニ於テハ三十五年、其貸付總額十億五千萬圓、助成町歩ハ二十六萬二千五百町歩、斯様デアリマスガ、此新舊即チ此施設ノ兩方面ヲ合シテ見マス、何レモ同一年限、二十五年ト致シマスレバ、總金額ニ於テ三十四億一千八百五十萬圓、總面積ニ於テ三十四萬四千六百二十五町歩、補助金ハ此新施設ニハゴザイマセヌカラ、前ニ申上デタ通りデアリマス、私ハ只今大臣ノ御説明ニナリマシタヤウニ、本案ガ農業經營ノ安固ヲ圖リ、農村ノ堅實ナル發達ヲ期シ、小作爭議ヲ緩和シ、農村社會問題ノ解決ノ一助ヲラシメントスル、此社會立法ト致シマシテハ、既ニ一昨年來種々御調査ニナツテ居ルコトデアリ、且又昭和二年十二月特ニ御招來ニナリマシタ小作調査會ノ開會ニ於テ、諮問事項ヲ附議セラレ、其調査會ハ附帶希望決議ヲ二箇條致シテ居リマス、即チ第一ハ「自作農地ニ付テハ年賦支拂ヲ終ル迄ハ、小作ノ場合ニ比シテ租稅其他ノ公課ノ負擔ヲ重カラシメザルヤウ適當ノ保護ヲ加ヘラレンコトヲ望ム」ト云フ附帶決議デアリマス、斯様ニ附帶決議ヲシテ、本施設ノ速ニ其計畫ヲ樹立セラレルヤウニ答申ノアリマシタニ拘ラズ、今日マデ此實現ヲ見ズシテ、會期既ニ三分ノ二ヲ經過致シマシテ、最早餘ス所幾何モナイト云フ此際ニ當テ、斯様ナ重要ナ

ル法案ヲ御提出ニナリマシタ其御精神ヲ私ハ承リタイト思フノデゴザイマス(拍手)是ガ第一點デアリマス、若シ地租委譲ノ問題ト共ニ現内閣ノ二大政策、産業立國ノ上カラシテ眞ニ此問題ヲ熱誠ヲ以テ御解決ニナラント云フコトデアリマスナラバ、議會開會ノ劈頭ニ於テ、地租及營業收益稅ノ御提出ト共ニ、本案ヲ議會ニ御提出ニナツテ、御協賛ヲ求メルコトガ當然デアルト考ヘルモノデアリマス(拍手)殊ニ此問題ハ……

○議長(元田肇君) 靜肅ニ願ヒマス

○小山松壽君(續) 昭和三年度豫算編成ノ場合ニ當テ、農林大臣ハ其自說ノ貫徹ニ頗ル努メラレタヤウデアリマス、併ナガラ愈、昭和三年度ノ豫算閣議ニ於テハ、本問題ハ又他日ニ讓ルト云フ風ナ取扱ヲ受ケラレタヤウデアリマス、私ハ只今申上デマシタコトニ付テ、何故斯様ニ申上デルカト申シマスレバ、昨年春ノ總選舉ニ當テ、産業立國ヲ基調トスル政策ノ中ニ、新聞ニ一頁大ノ廣告ヲ屢、セラレ、田中首相ハ其著書機ノ演說トカ云フ其御演說ノ趣旨ノ中ニ、特ニ自作農ニ付テハ慎重ナル考慮ヲ拂ヒ、根本的ノ解決方法ヲ講ジテ居ルト聲明セラレテ居タルデアリマス、又昭和四年度ノ豫算ノ編成ニ當テ、矢張此問題ハ相當ニ論議セラレ、此度ハ如何ナル事ガアツテモ相讓ラヌト云フ風ニ農林大臣ハ御主張ニナリマシタ、而シテ私ハ特ニ大臣ノ御説明ヲ請ヒタイト思ヒマスルノハ、昭和三年一月自作農地法案、此農地法案ナルモノヲ殆ド公ニセラレタルデアリマス、勿論農林省カラ進ンデ發表セラレタモノデハゴザイマセヌ、ケレドモ我ガ民政黨ノ政務調査會ニ於テ其御説明ヲ請ヒマシタ時ニ當テ、各委員ハ御配付ニナリマシタモノガ即チ本案デアリマス、此本案ハ條文六十八箇條附則ヲ加ヘマシテ、曩ニ若槻内閣ノ際世間ニ公表シテ其批評ヲ求メマシタ小作法案ト相並ンデ、農村社會問題ノ解決ニ對スル所ノ二大法案デアルト私共認メラレル程ノ重要ナルモノデアッタノデアリマス、然ルニ此昭和三年一月、殆ド

御發表ニナリマスル迄ニ案ヲ立テラレタル此自作農地法案ナルモノガ閣カラ閣ニ葬ラレ、其影ヲ没シタト云フコトニ付テ、私ハ大臣ノ御精神ノ在ル所ヲ承リタイト考ヘルノデゴザイマス(拍手)殊ニ此問題ハ本會並豫算總會其他ノ特別委員會ノ場合ニ於テ、總理大臣初メ閣僚當局ト質疑應答セラレタ問題デアリマシテ、我國ノ農村ニ於ケル所ノ各種ノ社會問題ヲ解決スル上ニ付テハ、殊ニ吾々ハ意ヲ用ヒテ此審議ヲ致サナケレバナラヌト云フコトハ申ス迄モナイ、總理大臣ハ貴族院、衆議院其他ノ場合ニ於テ、社會政策ノ事ニ質問ガ及ビマスルト、其トシテ近ク自作農創設ニ對シテ、政府ハ其確然タル方針ヲ樹立致スノデアアル、即チ社會政策ノ一ハ常ニ自作農維持創設デアルト、唯一無二ノモノデアルガ如ク御説明ヲ常ニセラレテ居ルノデアリマスカラ、私ハ本問題ハ如何ニモ現内閣ノ重要ナル政策デアリ、同時ニ農村ノ問題ヲ解決スル所ノ重要ナルモノデアルト認メル者デゴザイマス、殊ニ此問題ハ私共ハ能ク御尋ヲ申上デテ、其趣旨ニ於テ、又其施設スル所ニ於テ、更ニ疑ガナイト云フコトデ、吾々ノ疑或ヲ解クコトガ出來マスルナラバ、私共ハ將來農村社會問題解決ノ爲ニ、進ンデ之ヲ協賛スルニ決シテ查カナル者デアリマセヌ(拍手)

(此時發言スル者多シ)

○議長(元田肇君) 靜ニ願ヒマス、御互ノ私語ハ御慎ミテ願ヒタイ

○小山松壽君(續) 殊ニ只今申上デマシタ本案ハ僅カ八箇條デアリマスカラ、之ヲドウ云フ風ニ施行上ニ付テ運用セラレルノカ、其點ハ少シ不明デアリマス、只今農林大臣ノ御説明ニナリマシタ所ニ依リマシテモ、少シモ之ヲ了解スルコトガ出來マセヌ、思フニ本法律ノ運用ニ付キマシテハ、勅令及省令等規定ニ依ルモノガ多カラウト思ヒマスカラ、此點ニ付テ私ハ其内容ヲ確メ、此運用ノ誤リナイト期シタイト思フノデアリマス、殊ニ此問題ハ少シク細カク御尋申上デマスルニハ、委員會ニ於

キマシテハ、其公開セラレタル所ノ法律ノ精神ガ外間ニ詳カニナリマセヌ、本問題ハ道府縣町村、産業組合、農會、是等ノ多數ノ人々ノ手ニ依テ取扱ハレルモノデアリマシテ、是等ノ取扱ヲ致シマスル者ニ其趣旨ヲ徹底セシメテ、本案ノ施行ニ當テ誤リナカラシムルト云フコトニ致シマスコトハ、御互ニ努メナケレバナラヌ事デアラウト考ヘルノデゴザイマス(拍手)私ハ次ニ本法案ノ其運用ニ付テ御尋申上デマス、只今申上デマシタヤウナ趣旨ニ依リマシテ、曩ニ非公式ニ御發表ニナリマシタ自作農地法案、之ニ相對シマシテ今回御提案ニナリマシタ此八箇條ノ、極メテ簡單ナル法案ニ相比シマシテ、私ノ疑ノ起シマス所ハ、自作農地法案ノ方デハ農地金庫ノ制度ヲ認メ、而シテ其運用ニ當テハ徹底セシムルヤウナ御精神デアッタノデアリマスカ、此度ハ僅ニ八箇條ノ法律ニ於テ特別會計ニ委ネラレマシテ、本施設ノ運用ヲ致サウト云フコトニ立歸ラレタヤウデアリマス、固ヨリ事業施行ノ統一ト其事業整理ノ目的ノ上ニ於テ、其軌ヲ一ニスルモノデアアル、サリナガラ茲ニ最モ解スベカラザルコトハ、本計畫ハ最初年々八千萬圓ノ計畫デアリマシタガ、此度ハ三千万圓ニ變テ參ッタノデアリマス、若シ斯様ナ金額ニ變テ參ッタト云フコトデアリマスナラバ、曩ニ大臣ガ政府並ニ與黨ノ懇談會ノ席上ニ於テ御聲明ニナリマシタ所ノ、其自作農ノ維持創設ニ關スル段別ト、頗ル距離ガ出來ルノデアリマス、私ハ此場合御尋申上デテ置キタイコトハ、預金全部資金ト農地債券ニ關シテノ事デアリマス、預金全部資金ニ付テ本施設ノ運用ヲ完ウシタイト云フコトハ、只今大臣ノ御説明ノ通りデアリマス、若シ預金全部ノ資金ガ三千万圓ニ達セザル場合ニ當テハ、其不足ハ農地債券ヲ發行スルト云フ御趣旨デアリマス、私ハ此場合ニ大藏當局ニ御尋申上デマス、預金全部資金運用ニ付キマシテハ、當テ幾多ノ世上ノ非難ガアリマシテ、或時ハ伏魔殿ト云フガ如キ惡名サヘ負ヘセラレタノデアリマス、是ガ故ニ加藤内閣當時ニ於キ

マシテ、濱口大藏大臣ハ預金全部資金運用委員會ヲ設ケマシテ、大正十四年五月五日第一回委員會ヲ開キ、其際本委員會ヲ設置スルニ付テノ所信ヲ明ニ致サレマシタ、其要點ハ濱口大藏大臣ノ演説ニモアリマスルガ、此預金全部ノ金額ハ今ヤ一般會計ノ歲計ニ匹敵スベキ巨額ニ上ツテ居ル、財政經濟ニ及ボス影響ノ大ナルハ勿論デアアル、資金ノ本體ハ郵便貯金デアアル、即チ零細ナル資金ヨリ成ル所ニ鑑ミテ、運用ハ公正適切ヲ期サナケレバナラヌ、保管利殖ニ付テハ有利且ツ確實ノ方法ヲ以テ運用スル機能ヲ有セシムル爲、今回委員會ヲ設ケテ改革ノ骨子トシタノデアアルト云フ演説ノ要點デアリマス、此政策ハ當時輿論ハ如何ニモ預金全部ノ運用ノ過去ニ於ケル所ノ幾多ノ失態ヲ咎メテ居リマシタ際デアリマシタカラ、此健實ナル濱口大藏大臣ノ聲明ニ對シテハ、滿天下悉ク之ヲ容認致シタノデアリマス(拍手)ソコニ於テ私ハ大藏當局ニ御尋申上デタイト思フコトハ、預金全部ノ運用委員會ハ、只今申上デタヤウナ趣旨デ之ヲ濫ニシナイコトニナツタノデアリマス、私ガ此際承リマスノハ、只今山本農林大臣ガ預金全部ノ資金三千万圓ヲ、此施設ニ充當スルト云フコトノ御説明デアリマシタガ、預金全部運用委員會ノ精神ニ鑑ミテ、既ニ預金全部ニハ之ヲ御諮問ニナツテ、其決定ヲ經タモノデアルヤ否ヤト云フコトヲ承リタイ、何故之ヲ私ガ特ニ承ルカト申シマスレバ、今ハ故人ニナリマシタ下岡朝鮮政務總監ガ、當時朝鮮產米計畫ヲ立テマシタ、其運用資金ヲ預金全部ニ仰ガント致シマシタ、即チ此ノ所謂八百万圓ノ產米計畫デアリマス、世ハ八百万圓ノ產米計畫ニ對シ、其資金ヲ仰ギマスニ當テ、濱口大藏大臣ハ預金全部ノ精神ニ鑑ミマシテ、豫メ預金全部ノ了解ヲ得テ、之ヲ議會ニ言明スルニ至ツタノデアリマスガ故ニ、此先例ニ基キテ、此預金全部運用資金ハ山本農林大臣ノ言明セル所ニ依テ、大藏當局ハ之ヲ御諮問ニナツテ、其了解ヲ得テ得ルヤ否ヤヲ承ルテデアリマス、次ニ私ハ農地債券ノ事ニ付テ大臣ニ伺ヒマス、農地

債券ハ五分ノ交付公債デアリマス、預金全部ノ資金關係ヲ見マスルノニ、現在ノ預金全部ノ資金ハ一億三千万圓デアツテ、昭和四年度ノ運用ハ既ニ定メテ居ルヤウデアリマス、是ハ過日ノ豫算總會ニ於テ、議員ト政府委員ノ間ニ屢々應答セラレテ、ソレガ確定セラレテ居ルト云フコトハ、大藏當局ノ言明セラレタル所デアリマス、然ラバ之ニ對シテ昭和四年度運用ノ資金ハ幾許ヲ要スルヤト言ヒマスレバ、其運用委員會ニ於テ決定致シタル所ノ一億二千四百五十万圓ハ、既ニ確定致シテ居リマスガ故ニ、後ニ殘ル所ハ僅ニ五百五十万圓デアリマス、然ラバ只今山本農林大臣ガ仰セニナリマスルヤウニ、預金全部運用資金ノ三千万圓ヲ持テ來テ、昭和四年度、即チ四月一日カラ本法ノ實施ヲスルト云フコトニナリマスナラバ、三千万圓ニ對シテハ遙ニ距離ガアルノデアリマス、僅ニ五百五十万圓シカナイ預金全部ノ資金ヲ以テ、此三千万圓ノ施設ヲ行ハウト云フコトハ、何處カラ其財源ヲ御求ニナルカト云フコトデアリマス、斯様ニ考ヘテ參リマスレバ、結局此預金全部ノ運用資金ニ俟ツト云フコトハ、唯ハ當面ヲ糊塗スル所ノモノデアツテ、謂ハハ假面ヲ著テ其實ハ公債發行ニ依ルモノデアリナイカト認メラレルモノデゴザイマス(拍手)若シ公債發行ニ依ルト云フコトデアリマスナラバ、茲ニ三土大藏大臣ニ特ニ御尋申上デナケレバナラヌコトガ起テ參ルノデゴザイマス、三土大藏大臣ハ昭和四年度ノ豫算ヲ本議場ニ紹介セラレ、若クハ其他ニ於テ説明セラル、場合ニ當テ、一般豫算編成ニ當テハ、公債政策ニ付キマシテハ一億ヲ上ボサナイト云フコトヲ屢々聲明セラレ、以テ財政計畫ニ對スル説明ノ資料トセラレテ居ルノデアリマス、即チ一般豫算ハ一億九千八百五十万圓デアリマスガ、只今申上ゲル所ノ五百五十万圓ヲ差引キマシタルアト二千四百五十万圓ト云フモノハ、公債ヲ募集シナケレバ此事業ハ出來ナイノデアリマス、サル場合ニハ一億募集公債デアリナイ、交付公債デアリカラ差支ナイト云フ御意見デアリナラバ、是ハ別

デアリマスガ、公債政策ハ二億ヲ出デナイ
ト云フコトデアリマスレバ、此問題ダケデ
モ二億圓ヲ超過スル、況ヤ肥料管理ノ問題
アルニ於テ尚ホ然リデアリマス、私ハ此事
ニ付テ三土大蔵大臣ノ御聲明ヲ裏切ルモ
デハナイカト云フコトヲ心配致シマス爲
ニ、之ニ對スル御所見如何ト云フコトヲ御
尋申スノデアリマス、更ニ現在ノ施設ハ尚
ホ將來維持スルモノデアルヤ否ヤト云フコ
トヲ御尋申上デマス、即チ只今山本農林大
臣ノ御聲明ニ依テ本施設ハ致シテ居ルノデ
アリマシテ、其全金額及施設ノ内容ハ最初
ニ申上ゲテ置キマシタ、何故私ガ其事ヲ承
ルカト申シマスレバ、現行施設ノ年限ハ二
十五箇年デアリマス、其資金ハ只今申ス通
リデアリマス、自作農者ニ廻シマス所ノ利率ハ
三分五厘デアリマス、簡易生命保險ノ低利
資金ハ四分八厘デアリマス、此四
分八厘デ受入レマシテ、之ヲ府縣町村、産
業組合、農會等、是等ノ團體ヲ經テ貸付ケ
マス時ニ、其低利ノ四分八厘デハ事業遂行
ノ上ニ於テ所期ノ目的ヲ達スルコトガ出來
ナイカト云フ理由ニ依リマシテ、一分三
厘ヲ國庫カヲ補給シテ居ルコトハ、申ス迄
モナク御承知ノ通りデアリマス、即チ小作
ヨリ自作ニナリマス場合ニ當テハ、三分五
厘ト云フ低利ニ依テ、其事業ヲ定メラレタ
ル年度内ニ完成致スノデアリマスガ、之ヲ
今度新タニ施設シヤウトスル只今御説明ノ
案ト比較致シマスレバ、茲ニ著シク權衡ノ
取レヌコトガ起ルノデアリマス、先少年限
ニ於テ現在施設ハ二十五年度アリ、只今御
説明ノモノハ三十五年デアル、而シテ利率
ニ於テ現在施設ノモノハ三分五厘デアリ、
只今御説明ノモノハ五分デアリマスカラ、
其間一分五厘ノ差ガアルト云フコトガ、非
常ナ問題ヲ起スデアラウト思ヒマス(拍手)
私ハ農林大臣及其他ノ方面ヨリマダ何等間
ク所ガアリマセヌカラ、此場合ニ確メテ置
キマスガ、自作農ノ意義、自作農トハ一體
ドウ云フモノデアルカト云フコトヲ、此場
合明ニ其定義ヲ下シテ置イテ載キタイト思

ヒマス、何故ナラバ唯自作農ト申シマシテモ、
主トシテ自分ノ努力ニ依リ自己ノ生計ヲ維
持スル爲メ土地ヲ有スル者モアル、ソレカラ或
ハ作男ヲ使フテ自作ヲシテ居ル者モアリマ
ス、若シ此解釋ノ相違ガ著シイ場合ニ當リ
マシテハ、特ニ本案ニ於テ憂フベキモノガ
アルト思ヒマスカラ、之ヲ御尋シテ置クノ
デアリマス、傳フル所ニ依リマスレバ、一
世帯四千圓ト云フモノノ限度トスルト云フ
話デアリマスガ、此一世帯四千圓ノ貸付金
額ニ依テ、若干ノ町歩ヲ得ラレルモノデア
リヤ否ヤト云フコトニ付テハ、マダ定タ所
ハ御發表ニナラヌヤウデアリマス、何故ナ
ラバ内地ニ於ケル所ノ段當リヨリ考ヘマシ
テ、或ハ一世帯四千圓ト云フモノハ、是ハ
約一町歩ヲ見當ト致スモノデアラウト考ヘ
マスレドモ、之ヲ移シテ北海道ニ施行致
スト云フコトニ致シマスナラバ、是ハ内地
ト地價ノ價格ニ於テ異ナルト云フコトハ申
ス迄モナイコトデアリマスカラ、此場合私
ハ之ヲ確メテ置ク必要ガアラウト思ヒマ
ス、次ニ自作農ト云フモノハ如何ナルモノ
デアルカト云フ其定義ガ定マリマスレバ、
茲ニ私ハ最も必要ト思ヒマス所ノ次ノ御尋
ニ付テ明確ナル御答辯ヲ戴キタイト思ヒマ
ス、現在ノ小作料ヲ以テ相當小作料ト認ム
ルヤ否ヤト云フコトヲ伺ヒマス、此問題ハ
非常ニ重要ナ事デアツテ、本施設ノ由テ來ル
所ノ基礎ニ動搖ガ來ルト思ヒマスカラ、之
ヲ御尋申上ゲテ置キマス、今日小作爭議ノ
唱フル所ハ、小作條件ノ維持改善ヲ目標ト
致シテ居ルヤウデアリマス、何故私ハ現在
ノ小作料ヲ以テ相當ト認ムルヤ否ヤト云フ
コトヲ御尋スルカト申シマスレバ、此自作
農ニ對シテ低利資金ヲ融通致シマス所ノ根
本觀念ハ、現在小作人ガ負擔致シテ居ル所
ノ其程度ヨリモ高カラザル程度ニ於テマナ
ケレバ、決シテ小作ガ自作ニ移ルト云フ觀
念ヲ持タナイカト云フ所ニ、此根本ガ置
イテアルノデアリマス(拍手)都會ニ於テ住
宅組合、低利資金ヲ廻シマシテ、生活ノ安
定ヲ期スルト云フコト、共ニ、農村ニ於テ
自作農ノ維持創設ハ之ニ該當スルモノデア

リマシテ、自分ガ幾年ノ間カ定メラレタル
年限ノ中ニ於テ、現在ノ小作料ヨリモ高カ
ラザル負擔ヲ納メテ居ル中ニハ、時來テ自
己ノ所有ニナルト云フ所ニ、自作農ノ運用
ノ妙ガアルノデアリマスカラ、現在小作料
ヲ以テドウ云フ風ニ御考ニナッテ居ルカ、此
御考ヲ根本ニ致シマセヌケレバ、現施設ノ
根本ニ動搖ガ起ルト思フガ爲ニ、之ヲ御尋
致スノデゴザイマス(拍手)更ニ利廻ヲ五分
ニ致シタト云フコトデアリマスナラバ、
三分五厘ト五分ノ間ニ一分五厘ノ差ガア
リマス、現在ノ施設之ヲ實行シテ參レバ、
三分五厘ト云フ低利ノ、殆ド只ノ如キモノ
デ自分ノ所有ニ田畑ガ移ルノデアリマス
ガ、此一分五厘高ク五分ト云フモノニ依テ
參ルト云フコトデアリマスナラバ、茲ニド
ウシテモ遺算算段ヲ致サナケレバナラヌ
ガ、其遺算算段ガ即チ現施設二十五年度ガ三
十五年ニ變テ參タノデハナイカト考ヘル
ノデゴザイマス、私ハ假ニサウデアッタト
致シマシテモ、此處ニ重テ申上ゲマスノ
ハ、五分ト定メタル根據如何、即チ此根據
ハ米價ヲ幾何ニ維持セントスルノ農林當局
ノ御考デアルカラ、此際何テ置キタイト思
ヒマス、本問題ハ衆議院ノ各派ヨリ共同提
案トナリマシテ、既ニ本議場ヲ經テ只今特別
委員會ニ於テ審議中デアリマス、米穀法ノ
委員會ニ於テ、昨日政友會ノ委員諸君ト東
政務次官トノ間ニ質問應答セラレテ居リマ
シタノヲ拜聽致シマシテ、私ハ更ニ東政務
次官ヘ御尋申上ゲマシタノハ、現在農政方
面ニ於ケル各施設ニ付テ、政府ハ助成方針
ヲ執ルヤウデアルガ、然ラバ現在ノ米價ニ付
テ、米ノ價ニ付テ、何處ノ所ヘ目標ヲ置イ
テ、其施設ヲシテ居ラレルノデアルカト云
フ御尋申上ゲマシタ時ニ、其事ハ考慮ノ
中ニハ加ヘテ居ナイト云フ意味ノ御答辯デ
アリマシタ、是ハ政友會ノ委員諸君モ御聽
キノ通りノ次第デアリマス、此產業助成政策
ヲ執リ、殊ニ農村問題ヲ論ズル時ニ當テ、
農家經濟ノ窮迫ニ略テ居ルト云フコトヲ
論議スル時、要ハ農家經濟ヲ裕カニスルト
云フコトデアリマスガ、此產業助成政策ノ

米價ヲ幾何ニ維持シナケレバナラナイカト
云フコトガ、農林當局ノ胸中ニナイト云フ
コトデアッタナラバ、驚入タルコトデアリ
マス、私ハ大臣ニ改メテ御尋申上ゲマス、
現在ノ米價ヲドウ云フ所ニ維持セラレルカ
ト云フコトヲ明日ニ致シテ置キマスルコト
ハ、即チ本施設ガ三十年、三十五年ノ將來ニ
マデ此五分ニ定メタト云フ、ソコニ基礎觀
念ガ出テ參ルカラデアリマス、私ハ此事ハ
蓋シ政友會ノ諸君ト雖モ、現在ノ米價ヲド
ノ邊ニ維持シナケレバナラナイカト云フ、
此質問ノ當局ノ答辯ヲ促シ、確メテ置ク
ト云フコトニ付テハ、御不同意ハアルマイ
考ヘテ居ルノデアリマス、次ニ本法ガ實施
セラレトシテ、將來ノ事ニ付テ御尋申
上ゲマス、本法ガ實施セラレト云フコト
ニ付テハ根本ノ私ノ知ラウトスル所ハ、只
今申上ゲタ通りデアリマスガ、更ニ此事ヲ
御尋申上ゲルノハ、帝國農會ガ調査致シテ
居リマスル所ノ玄米一石當リ生産費、土地
資本利子五米ノ場合若干、四分八厘ノ場合
若干、四分、三分五厘、三分ノ場合若干ト
云フコトヲ、特ニ御調査ヲ願ヒマシテ、私
ハ戴イテ居ルノデアリマス、此帝國農會調
査ノ利廻リノ表ニ依テ考ヘマスルト、只今
御説明ニナリマシタ交付公債五米ノ利廻
リデアリマス、一石當リノ米價生産費ニ
相比シマシテ、農林大臣ガ過日本議場ニ於
テ米穀需給特別會計法中改正法律案ノ御答
辯ノ中ニ、現在ノ米價ハ安イト思フ、モウ
少シ何トカシナケレバナラヌト云フ御答辯
ガアツヤウデアリマスガ、其御答辯ニ對シ
テ私ハ想ヒ起シマスルノハ、此公債五米ト
云フモノト、此米價ト云フモノヲ引較ベマ
シテ、而シテ此自作農ノ施設ガドウ運用サ
レテ行クカト云フコトヲ考ヘマスル時ニ
當テ、當然私ハ此御質問ヲ申上ゲナケレバ
ナラナイト思フノデアリマス、殊ニ更ニ是
モ帝國農會ノ御調査ヲ戴キマシタガ、大正
元年——明治四十五年ヨリ昭和三年ニ至ル
所ノ田畑賣買價格ニ付テノ御調査ヲ私ハ戴
キマシタガ、此調査ニ依リマスレバ、最も
田畑賣買價格ノ高騰致シマシタノハ大正八

年デアリマシテ、九年、十年ヲ經テ、今日
デハ段々田畑ノ賣買價格ハ低下致シテ參
テ居リマス、此場合ニ當テ一世帯四千圓
一戸一町歩當リト云フコトニ御定メニナリ
マシタト致シマスルナラバ、此田畑ノ賣買
價格ハ將來如何ナルヤウナ變遷ヲ迎ルモ
デアルカト云フコトニ付テ、過去ノ事實カ
ラ相當御考アルデアラウト思ヒマス
ハ、其推斷ハ私ハ承テ置キタイと思フ
何故之ヲ承ルカト云フコトニ付キマシ
ハ、言フ迄モナク率ガ現施設ト將來ノ施設
ト違ヒマスカラ、此率ノ違ヒマシニ當テ
ソコデ田畑ノ價格ガ漸落致スト云フコト
アルナラバ、更ニ本施設ニ付テ考ヘナケ
レバナラヌコトガ起テ參ルノデアリマス、私
ハ此ニ分五厘ノ幅ガアツテ、而モ自作農維持
創設ノ此趣旨ガ現施設ト並ビ行フカ、或
ハ現施設ヲ打切ルカ、ソレデ所期ノ目的ヲ
御達シニナルコトガ出來ルヤ否ヤト云フコ
トヲ私ハ伺ヒ見タイノデアリマス、私ハ一
方ニ於テ三分五厘ト云フ安イ金デ、國庫カ
ラ一分三厘ノ補給ヲシテ四分八厘デアル
然ルニ一分三厘ノ補給ヲ止メテ、サウシテ
四分八厘ト云フ其低利資金ヲ、更ニ五厘ノ
公債ニシテ渡スノデアリマスカラ、ソコニ
二分ノ開キガアリマスガ、其二分ノ開キハ
政府ガ之ヲ收入ニ見テ居ルノデアリマス、
其收入ハドノ位アルカト申シマス、四分
八厘ト五厘ノ間ノ僅ナ幅デアリマス、ケレ
モ、二分ノ差ハ只今申上デマシタ三十五年
目ニ當テ五千五百三十七萬八千二百六十
圓ニナルト云フコトガ、政府當局ガ私ヘ
御示シニナリマス、然ラバ此三分
五厘ニ一分三厘ヲ補給シテ、サウシテ現施
設ヲ行フニ、五分ニシテ二分ノ幅ヲ政府
ガ取テ、サウシテ現施設ヲ並ビ行ハレト
云フコトハ、一寸常識上考ヘラレマセヌ
ガ、此點ハ如何ニ御考ニナルカト云フコト
デアリマス、私ハ尙ホ此場合非常ニ大切ナ
事デアリマスカラ、附加ヘテ御尋シタイト
思ヒマス、事業經營ノ主體デアリマ
ス、事業經營ノ主體ハ、現施設ハ即チ府縣
町村産業組合、農會等ノ手ヲ經テ、國家ハ

間接ニ此自作農ノ維持助成ヲ致シテ居ル
デアリマス、然ルニ今回ノ立案セラレタル
所ノ運用ノ方法ヲ仄聞致シマスレバ、個人
ニ貸付ケルト云フコトノ立前デアリヤウ
アリマス、私ハ先刻我國ノ土地制度ノ改革
ト、將來土地政策ノ上ニ考ヘテ、本問題ハ
極メテ重要ナル事デアルト申上デマシタ
ハ、茲ニ觸レテ參ルノデアリマス、即チ特
別ノ事情アルモノヲバ、政府ガ認メテ適當
ト思ハレル者ニ對シテハ、國家ガ直接ニ此
資金ヲ貸付ケルト云フコトノ施設ヲ御執リ
ニナルト云フヤウニ承テ居リマス、非常ニ
危險ナ事デハナイカト思フ、道府縣町村其
他ノ團體ニ於テ、國家ガ間接ニ之ヲ助成ス
ルト云フコトデアルナラバ宜シウゴザイマ
スガ、而モ餘リ問題ハ左様ニ憂ヘルコトモ
ナカラウト考ヘマスルケレドモ、國家自ラ
ガ個人ニ之ヲ貸シテ、サウシテ此施設ヲ致
スト云フコトニナリマスルナラバ、茲ニ恐
レルコトハ、國家ハ小作爭議ニ直面シテ、
自ラ其渦中ニ投ズルト云フコトニナリハシ
ナイカト思フノデゴザイマス、何故ナラバ
貸付ケマスル時ニ當テ、貸付ノ條件内容
等ガ、農林當局ノ御説明デアルカノヤウニ
新聞ニ現ハレテ居ル所ヲ見マスルト、自作
農田畑ノ購入維持者ハ、現ニ小作ニ從事シ
維持スル所ノ資格ガナケレバナラヌ、之ニ
對シテハ第一抵當權ヲ設定スルモノデア
ル、他ニ讓渡シ得ザル所ノ契約、資金借入
ノ各條件ニ違背シタル場合ノ違約金ノ徵
收、並ニ災害ノ場合ニ於ケル所ノ償還ノ減
免、而シテ若シ定メラレタル年限ニ於テ、
其自作ヲ廢シ、若クハ元利償還ヲ怠タル場
合ニ當テハ、事業經營ノ主體者ハ、之ニ對
シテ先買權ヲ有スル者デアリマス、即チ政
府ガ個人ニ自作農維持創設ノ爲ニ貸シマシ
タル金額ニシテ、之ヲ受入レルコトノ出來
ナイ支障ガ起キマシタ場合ニハ、政府ハ自
ラ其小作地ヲ、國家ノ所有トシテ處理シ
ケレバナラヌト云フコトノ問題ガ、今後ニ
湧イデ起テ參ルノデアリマス(拍手)是ハ
先買權ヲ認メラレル結果ニ於テ、當然起ル
問題デアリマス、私ハ何故此御尋ヲ重ネテ

置キタイト考ヘルカト云フコトニ付テ申上
デマスレバ、現行施設ノ成績ガ良好デア
ル、過去數年間ニ創設維持創設ノ其自
作農ノ成績、及最近自作農維持創設ニ付
資金ヲ要望スル所ノ金額、或ハ一億五千萬
圓ニモ達スルト云フ、斯ウ云フヤウ多額
ノ要望ガアルガ故ニ、之ヲ選定シテ其良成
績ヲ舉ゲ得ベシト信ズベキ者ニ致シタナ
ラバ、決シテ今云フヤウナ憂ハ將來貽サナ
デアラウト云フコトノ御答辯ニナルカモ分
リマセヌガ、サリナガラ一方ニ只今申上デ
タ四億以上ニ達シヤウト云フ所ノ簡易生命
保險ノ積立金ノ運用ノ現制度ヲ認メ、更ニ
此方ノ方ハ此制度ヲ致スト致シマスレバ、
二ツノ途ヲ追テ參ル時ニ、三分五厘ノ方
ハ低利デアリマスカラ申上デガ多イガ、
四分八厘、五厘ノ方ハ高率デアリマスカラ
申上デガ少イ、申上デガ少イ場合ニ至テ、
當局ハ本法制定ノ趣旨ニ於テ、之ヲ失敗ニ
終ラシメテハ、而モ二關スルト云フヤウナ
コトデ、其貸出ヲ濫ニスルト云フヤウナ陷
リ易キ弊害ヲ伴フト思フガ故ニ、此御尋ヲ
致シテ置ク次第デアリマス(拍手)私ハ次ニ
小作問題ニ關スル現政府ノ方策ニ付テ承リ
タイト思ヒマス、試ニ過去ノ事ヲ調べマ
スレバ、大正九年十一月小作制度調査委員
會、大正十二年五月小作制度調査會、大正
十三年四月帝國經濟會議、大正十三年十一
月帝國經濟會議農業部、大正十五年五月小
作調查會、即チ現存スルモノデアリマス、
斯ク年月ヲ經マシタ小作問題ノ慎重ナル審
議ニ依リマシテ、小作調停法ハ大正十三年
七月法律第十八號ヲ以テ公布セラレ、自作
農創設維持施設ハ大正十五年、只今申上
デタ通りノ實行トナリ、及自作農助成ノ
各減免ニ關スル所ノ施設ハ、二稅務整理ノ
問題ガ論議セラレシマシタ時ニ、地價二百圓
以下ノ自作農ニ對シテ免除スルト云フコト
ノ特典ヲ與ヘ、以テ自作農維持創設ニ關シ
之ヲ解決シテ、農村社會問題解決ノ一端ニ
資セヌガ、現內閣ニ至テ只今申上デマシ
タヤウニ小作調查會、之ニ御諮問ニナリマ

シテ、其答申ヲ得ラレタノデアリマス、然
ルニ其答申ノ精神ノ第一ハ、只今申上タル
通りニ、今ヤ空シト云フヤウナ狀態ニ在
ルノデアリマス、私ハ現政府及山本農林大臣
ガ、果シテ此社會立法ニ誠意ヲ以テ當テ
居ラレバ否ヤト云フコトヲ伺ヒタイノデ
アル、小作法、小作組合法、永小作權處理
ノ問題、小作調停法ノ改正、是等ノ問題ニ
付テハ、ドウ御考ニナッテ居ルノデアリマ
スカ、先日本議場ニ於テ一月二十六日、鈴
木文治君ヨリ農村問題ニ付テノ御尋ガアリ
マシタ際ニ於テ、小作法及小作調停法ニ付
テ説及バレ、政府ノ所見ヲ質サレマシタ、
其御話ノ一節ニ、山梨縣ニ於ケル所ノ小作
爭議ノ狀態等ヲ實際ニ御述ニナリマシテ、
小作調停法ノ現行法ヲ改正シテ、其運用ヲ
發揮セシムルコトノ必要アルコトヲ力説セ
ラレタヤウデアリマス、私ハ此點ハ全然御
同感デアリマス、曩ニ農村ニ於テ小作爭議
ガ頻發致シマシタ時ニ、小作條件ノ維持改
善ニ付テ、各地ニ於テ之ガ論議セラレ、而
シテ三年或ハ五年ト云フ期限ヲ以テ、小作
爭議ハ解決シタルモノガ多クアリマス、其
小作爭議ノ解決ノ年限ハ、丁度今年カラ明
年、此兩三年ニ於テ、其小作條件維持改善
ノ期限ガ、續々參ラウト思フノデアリマス
カラ、農村ニ於ケル所ノ小作爭議ハ、此場
合ニ於テ善處シテ置クニ非ズンバ、更ニ一
層深刻ナル所ノ問題ヲ招來シハシマイカト
考ヘルガ故ニ、此御尋ヲ致スノデゴザイマ
ス、私ハ更ニ此小作調查會ノ答申ノ第二
ニ、即チ附帶希望決議ノ第二ニ斯ウ云フ
事ガアリマス「政府ハ速ニ小作法ヲ制定實
施セラレヌコトヲ望ム」ト、此小作調查會
ノ答申ノ第二ニ掲ゲテアリマス、即チ昭和
二年十二月ノ答申デアリマス、此答申ヲ當
局ハ如何ニ御取扱ニナル御考デアリマス、之
ヲ承テ置キタイト思フノデゴザイマス、續
イテ逓信當局ニ御尋申上デマス、只今迄申
上デマスルヤウニ、簡易生命保險積立金ノ
運用ハ、今後毎年二千萬圓、或ハ其餘格
アルニ至テハ三千万圓、四千万圓ニ及ブト思
ヒマス、申上デモナク逓信省ノ簡易生命保

險積立金ハ、毎年五六千万圓増加致スヤウデアリマス、固ヨリ地方還元ノ趣旨ニ依リマシテ、其運用委員會ノ精神ヲ尊重致サナケレバナラヌコトハ、言フ迄モアリマセヌケレドモ、五六千万圓増殖エテ参リマス所ノ此低利資金ヲ、將來益農村社會問題ノ解決ニ資スル爲ニ、此自作農維持創設ノ資金ニ、多々益辨ズルト云フ所ノ御考アリヤ否ヤ、更ニ若シ必要アリトスルナラバ、農林當局ガ此度施設セントスル所ノモノト、只今ハ合議ヲ致シテ居リマスガ、其合議ヲ難レテ、逋信省ハ逋信省ノ獨自ノ考ヲ以テ、之ヲ施設スルト云フモノデアリカ、或ハ現施設ノ通り、農林當局ト合議ヲ以テ其施設宜シキヲ得、其目的ヲ完ウシタイト云フ御考デアリカ、此點ヲ伺フテ置キタイト思ヒマス、更ニ附加ヘテ御答辯ヲ得タイト思ヒマスル事ハ、郵便貯金利下ノ問題デアリマス、此郵便貯金利下ノ問題ハ、政府ノ金輸出解禁ニ對スル所ノ政策ト相俟テ、民間ノ銀行ガ預金利子ヲ引下ゲマシテ、就中貯蓄銀行ハ今之ニ迷フテ居ルヤウデアリマスガ、之ニ促サレテ、之ニ相關聯シテ、郵便貯金利下ノ問題ガ、逋信省內ニ於テハ、既ニ利下ト決シテ居ラレルヤウニ私ハ察スルノデアリマス、若シ利下ヲセラレルト云フコトデアリマスナラバ、現在低利資金ハ四分八厘デアアル、之ヲ政府ハ五厘ノ公債デ貸スノデアリマス、若シ郵便貯金利下ヲスルト云フコトデアリマスナラバ、或ハ六厘下ゲノ四分二厘位ニ當リハシマイカト思ヒマスガ、左様ニナツテ参リマスレバ、二歩ノ差デサヘ五千万圓ヲ生ジマス、此三倍約一億五千万圓、二億萬圓ニ近イ所ノ幅ガ郵便貯金利下ノ結果其處ニ生ジテ、政府ノ歳入ニ不足ガ起ルト云フコトデアアル、同時ニ三分五厘ト云フモノニ對スル一分三厘ヲ補給スルト云フト益、其間ニ於テ種々ナル紛議ヲ起シテ参ルト思フノデアリマスガ、之ニ付テ御差支ナケレバ、其利下ノ内容ニ付テ此際承テ置キタイト思ヒマス、私ハ以上申上ゲマシタ所ニ依テ御質問申上ゲタイト云フコトノ大要ヲ盡シタノデアリマスガ、之

ヲ要スルニ本案ハ田中總理ガ國民ノ前ニ公約シ、又議員ノ質問ニ對シテ屢々聲明シタル唯一ノ社會政策的立法ガ、龍頭蛇尾ニ終ラト云フコトヲ頗ル遺憾トスル者デゴザイマス、本法ノ制定ニ當テ當局ガ三年ニ涉テ宣傳セラレタル所ニ依リ、國民ノ期待ハ美化スベク頗ル望ヲ屬シテ居タニ拘ラズ、今日惡化シテ、却テ小作爭議ヲ頻發スルト云フヤウナ施設ニ化セントスルコトヲ遺憾トスルノデゴザイマス、更ニ私ハ特ニ諸君ニ御考慮ヲ煩シタイト思ヒマスコトハ、即チ本法ニ依テ交付債券ヲ得ントスルガ爲ニ、即チ不動産ノ資金化或ハ此機會ニ於テ不耕地ノ地主及不在地主、是等ノ洵ニ心掛ノ善クナイ所ノ地主ガ、本法ノ施行ニ依テ其持テ餘シテ居ル地所ノ賣退ケヲスルモノデハナイカト云フコトヲ恐レル者デゴザイマス、若シサウデアリトスルナラバ、全ク是ハ地主擁護ノ爲ニ提案セラレタモノデアッテ、社會政策ノ假面ニ隠レテ以テ本法ノ運用ノ上ニ、地主ヲ擁護シテ參ルト云フコトニ申サレテモ、農林大臣ハ之ニ付テ反駁セララル、コトガ出来ナイト云フヤウナ狀態ニナリハセヌカト考ヘマス、又是ト反對ニ、一面ニ於テハ低廉ナル自作農地ヲ得ンガ爲ニ、各小作人ハ地主ニ對シテ團結シテ小作爭議ヲ起シテ、以テ地主ヲ窮地ニ陥ラシメ、以テ低廉ナル地所ヲ收メンガ爲ニ、小作爭議ヲ誘發スルト云フコトノ、其誘因ニナリナイカトモ考ヘルノデアリマス、其何レニ御覽ニナリマスカ、且ツ直接個人ニ貸付ケルト云フコトニナリマスレバ、只今申シマシタ通り

〔此時發言スル者アリ〕

○議長(元田肇君) 靜肅ニ願ヒマス

○小山松壽君(續) 政府ハ國家ガ小作爭議ニ直面シテ、其渦中ニ陥ルト云フコトニナツテ、由々數キ問題ヲ招來シヤシマイカト云フコトヲ私ハ恐レル者デゴザイマス、要スルニ三年間ニ涉テ現内閣ガ社會政策立法ノ一トシテ、地租委譲ト共ニ二大看板トシテ掲ゲラレタル所ノモノハ、要スルニ産業立國ノ廉賣政策トナリ、粗製濫造ニ陥タモ

ノデハナイカト考ヘルノデゴザイマス、此點ニ付キマシテ農林大臣ノ御覽ニナリマス所ヲ御説明ヲ願ヘマスレバ、私ノ満足トスル所デゴザイマス

〔國務大臣山本悌二郎君登壇〕

○國務大臣(山本悌二郎君) 小山君ノ御尋ニ對シマシテ御答ヲ致シマス、段々小山君ハ御述ニ相成ラレマシタガ、私ニハ其御質問ノ要點ヲ捕捉致シタノデアリマスケレドモ、私ガ信ズル所ノ、之ガ即チ御尋ノ點デアラウト云フ其點ニ付テ御答ヲ申上ゲマス

〔此時發言スル者アリ〕

○議長(元田肇君) 靜肅ニ願ヒマス

○國務大臣(山本悌二郎君)(續) 第一ニ、御尋ノ點ニ對シテ御答申上ゲル前ニ、申上ゲテ置クコトガアリマスルガ、小山君ハ今日ノ現行簡易生命保險積立金ニ依リ自作農創設維持ト云フ制度ハ、大正十五年ニ創定セラレタカノ如クノ仰セガアリマシタケレドモ、サウデアリマスセヌ、是ハ其前ノ大正十一年原内閣ノ下ニ始メテ其端緒ヲ發シテ居ルノデアリマス(拍手)ソレカラ次ニ第一ノ御尋ハ、提出ノ理由ガドウシテ斯ウ遲レタカト云フ御尋デアリマシタガ、小山君モ此問題ガ頗ル國家ニ對シテ重大ナル問題デアルト云フコトハ、御同意デアルヤウデアリマスルガ、ソレダケニ、重大デアアルダケニ各方面ノ實情ヲモ考査シ、財政ノ狀態ヲモ參酌致シテ決メナケレバナナイ極メテ重大ナル問題デアッテ、其考慮ニ今迄遲レテ居タルデアリマス(拍手)ソレカラ以前ニ農林省案トシテ世間ニ現レタモノハ大變ニ浩瀚ナキナモノガアツタガ、今ハ頗ル小サナモノニナツタデヤナイカト云フ御説デアリマシタガ、小サナモノデ同一ノ目的ヲ達スルコトガ出来マスレバ、ソレデ宜イデアアリマセヌカ(拍手)當時ノ法案ハ――

〔此時發言スル者多シ〕

○議長(元田肇君) 靜肅ニ願ヒマス――靜

○國務大臣(山本悌二郎君)(續) 當時ノ法案ハ農地金庫ナルモノヲ設ケテ、是ヨリ農地

債券ヲ發行スルト云フ組織デアリマシタガ爲ニ、其農地金庫ノ組織ニ關スル法制ヲ要スルノデ、ソレデ非常ナル澤山ノ簡條ヲ要シタノデアリマス、併ナガラ今回ノ如ク之ヲ特別會計ト致スト云フコトニナレバ、左様ナ煩瑣ナ條項ハ要ラナイノデアリマス、隨テ短カイモノニナツタト云フニ過ギナイノデアリマス、而シテ其實質ニ付テハドウカト言ヘバ、金庫ヨリ債券ヲ發行スルモ、乃至ハ特別會計カラ發行スルモ、其實質ハ少シモ違ハナイ、寧ろ金庫ヨリハ特別會計ガ發行スル債券ノ方ハ信用多クシテ、寧ろ之ヲ歡迎シナケレバナラナイノデアアル、併ナガラ當時一案トシテ殆ド國家ノ公債ニ類スルガ如キ債券ヲ、特別會計カラ發行サセルト云フコトハ、深ク考慮シナケレバナラナイ餘地ガアルカラ、ソレヨリモモウ少シ手輕ナ法人ヲ拵ヘテ、是ヨリ債券ヲ發行サセルト云フコトニシタラドウカト云フノデ、ソレガ農林省案ニ現ハレテ居タニ過ギナイ、併シソレヨリモモト宜シイ、即チ國家ノ公債ニ等シイ債券ヲ特別會計カラ發行スルト云フコトニナレバ、ソレ程宜シイコトハナイノデス(拍手)ソレカラ金額が大キイ小サイト云フコトヲ申サレマシタ、成程農林當局ノ立場カラスレバ、總テ此點ノミナラズ總テ方面ニ向テ、多々益々其多キヲ欲スルト云フコトハ當然デアリマス、併ナガラ時ノ財政狀態、經濟狀態ト相對照シテ、其歸結ヲ求メサケレバナラナイノデアアル、アナタ方ハ始終公債ヲ發行シテハイケナイ、財政ハ緊縮致サナケレバイケナイト申シテ居ラレマシタ、吾々ト雖モ亦始終其點ニ注意シテ總テ行フト云フ點ニ苦心カ存シテ居ルノデアリマス(拍手)ソレカラ其次ニ從來ノ簡易保險ハ三分五厘デ貸付ケルコトニ相成テ居ル――一分三厘ヲ國家カラ補償スルカラ、實際ハ三分五厘ノ利子ニナルノデアアルガ、今回ノ分ハ五分ダト云フカラ、其處ニ即チ一分五厘ノ差ガ生ズルデハナイカト云フ御尋デアリマシタ、如何様其通り、其通りデアリマスルガ、サル代リニ年限ガ御承知ノ通り簡易保險ノ分ハ二十五

コロデハナイ、此積立金ヨリ融通シテ呉レバ多々益結構ナノデアッテ、是ハ是デ此儘行テ居ルノデアル、併シ是デハ足ラナイノデアル、到底足ラナイ、足ラナイノミナラズ、小山君モ能ク御承知ノ通り、簡易生命保險ノ資金ハ所謂還元主義ニ依ルノデアリマスカラシテ、自作農ノ維持創設ヲ必要トスル其地方ニ向ッテ、必シモ此資金ヲ廻スト云フ譯ニハ參ラヌノデアル、隨テ自作農ノ維持創設ト云フ立場カラ言ヘバ、今日ノ簡易生命保險ノ還元主義ト云フノハ甚ダ不自由ナノデアル、ソレ故ニ新ニ此制度ヲ立テ、資金ノ増加ヲ圖ルト同時ニ、此不便利ヨリ免レントスルノデアリマス、現在ノ此法制ヲ廢シヤウト云フ譯デモ何デモナイノデアッテ、是ハ結構ナノデアルカラ、之ト併セテヤラウト云フノデアル、ソレカラ小作立法ヲ何故急ガヌカト云フヤウナ御意見ガアリマシタガ、是ハ過日鈴木文治君ノ御尋ニ對シテ詳シク申述ベテ置キマシタカラ、茲ニ重ネテ御答スルコトノ煩ヲ避ケマス、ソレカラ地主ガ賣拔ケヲスルノニ此法制ガ唯便宜ヲ與ヘルノミデハナイカ、尙ホ進ンデハ此法制ハ却テ小作爭議ヲ挑發スルモノデハナイカト云フヤウナ意味ノ御尋ガアリマシタガ、私ハ左様ニハ考ヘテ居リマセヌ、地主デ土地ヲ賣ラウト云フ者ガアッテ、ソレガ適當ノ値段デ、小作人カラ見レバ今迄拂テ居タ小作料ノ範圍内デ、三十五箇年間ニ其土地ヲ取得スルコトガ出來ルモノデアルナラバ、賣ラウト云フ地主ニ賣ラシテ、此自作農ヲ創設スルコトガ出來レバ、非常ニ結構ナコトデハナイカト思フ、何モ之ヲ高ク賣ッテ小作人ニ取得セシメヤウト云フノデハナイ、年々今迄拂テ居タ所ノ小作料ノ範圍内ニ於テ、年賦金ヲ三十五箇年ニ拂テ行ケバ、ソレデ其土地ヲ取得スルコトガ出來ル、其價格内デ取引ヲサセルノデアリマスカラ、地主ガドウ云フ地主デアラウガ、サウ云フコトハ問題デハナイノデアル、決シテ地主ノ賣拔ケニ特ニ便宜ヲ與ヘルノデハナイト云フコトハ明デアリマス、次ニ此小作爭議ヲ挑發スルト云フコトハ、

○政府委員(大口喜六君) 大藏當局ニ關シ
マスル事ニ付キマシテ小山君ニ御答ヲ申上
ゲタイト存ジマス、小山君ガ仰セラレマシ
タ如ク、此預金部ノ金ハ最モ慎重ニ取扱ヒ
マシテ、堅實ヲ期セネバナライコトハ、其
通りデアルト考ヘマス、私共モ常ニ其考ヲ
以テ此事ニ當リテ居ル積リデアリマス、而シ
テ今回出サレマシタ所ノ此自作農ノ案ハ、
是ガ幸ニ貴衆兩院ヲ通過致シマスレバ、兩
院ガ此有利ナルコトヲ認メラル、ノデアリ
マシテ、而シテ政府ノ特別會計ニナルモノ
デアリマスガ故ニ、此位有利確實ナモノハ
ナイト私共ハ信ジテ居ルノデアリマス(拍
手)ソレ故ニ此場合ニ當リマシテハ、運用
委員會ニ於テハ必ズヤ之ヲ認メラル、モノ
ナリト、政府ハ信ジテ疑フテ居ラナイノデ
アリマス(拍手)併ナガラ御話ノ如ク頗ル重

要ナモノデアリマスルガ故ニ……

〔此時發言スル者多シ〕

○議長(元田肇君) 靜ニ……

○政府委員(大口喜六君)(續) 此案ヲ提案スルニ當リマシテ、會長ヨリ此委員諸君ノ了解ヲ得ベク、一應案ノ趣旨内容ダケハ申述アル次第デアリマス、是ダケヲ御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス、又大臣ヨリ公債ハ二億ニ止メルト云フコトヲ申シテ居ルガ、是ト矛盾ハシナイカト云フ御尋デアリマスカ、是ハ小山君ガ申サル、如ク、此案ニ屬シマスル債券ハ所謂交付公債デアリマスカ、大臣ガ申シマシタ二億ノ範圍ニハ屬セナイモノデアリマス、併ナガラ此債券ハ萬一ノ爲ニ用意シテアル債券デアリマスル故ニ、幸ニ預金部ノ運用ガ目的ノ通りニ參リマズレバ、此債券ハ發行シマセズトモ、豫期ノ目的ハ達シ得ルモノナリト吾々ハ信ジテ居ルモノデアリマス、御答致シマス(拍手)

〔政府委員廣岡宇一郎君登壇〕

○政府委員(廣岡宇一郎君) 小山君ノ只今ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、政府ハ現在施行シテ居ル簡易生命保險ノ積立金ヲ將來自作農維持創定ノ爲ニ、現在ノ如ク持續シテ之ヲ運用スルカト云フ御尋デアッタト思ヒマス、元來簡易保險ノ積立金ハ、簡易保險加入者ノ階級ニ屬スル人ノ經濟狀態ノ向上ヲ圖ルガ爲ニ、維持創定ニ貸付ケテ居ルノデアリマスカ、將來ト雖モ此方針ヲ變ヘルコトハアリマセヌ、唯此積立金ハ私ガ申ス迄モナク、之ヲ運用スルニ付テハ保險加入者ノ分布狀態ト、其資金還元ノ二大原則ニ準據ヲ致サナケレバナラヌノデアリマスカ、此方針ニ依テ將來共之ヲ持續致シテ行クデアリマス、ソレカラ農林省ト合議ヲシテ定メテ居ルガ、本法案ニ關係シテ將來之ヲ持續スルカト云フ御尋デアリマスカ、此積立金ノ運用ニ付キマシテハ、從來農林省ト合議ヲシタコトハアリマセヌ、總テ運用ノ申込ヲ受ケルノモ、運用致スノモ、逓信省デヤテ居リマス、運用委員會ノ議決ヲ經テヤテ居リマス、唯農事ニ關スル主管省デアリマスカ、農林省ニ何等カ

ノ希望ガアルカト云フヤウナコトヲ參考ノ爲ニ聞クコトハアリマスケレドモ、合議ハ致シテ居リマセヌ、隨テ先刻小山君ガ御話ノ如ク、昭和三年ニ八千五百萬圓、昭和四年ニ八千八百萬圓、何十箇年ニ何十億圓ト云フヤウナ一定ノ計畫ガアルヤウニ御話デアリマスガ、ソレハ農林省ノ計畫デアリマシテ、逓信省ニハ關係ガアリマセヌ、故ニ只今御述ニナツタ通り、昭和三年ニ八千五百萬圓ト云フコトデアリマシタケレドモ、農林省デ決メサシタノハ約千二百萬圓デアリマス、左様御承知ヲ願フテ置キマス、第三ニハ、郵便貯金利下ノ事柄デアリマス、近時市中銀行ガ金利ノ引下ヲ致シマシタニ付テハ、郵便貯金ノ利下ニ付テモ相當考慮ヲ拂フベキモノト斯様ニ信ジテ居リマス、併ナガラ郵便貯金ノ金利ノ引下ハ其影響スル所ハ頗ル重大デ、其關係モ亦廣汎デアリマス、故ニ政府ハ折角現在ノ狀態ニ於テ慎重ニ考慮研究ヲ致シテ居リマシテ、何等決定シタ所ハアリマセヌ、隨テ御尋ノ次第ニ對シテハ、是レ以上御答スルコトハ、現時ノ狀態ニ於テ出來マセヌカラ、左様御承知ヲ願フテ置キマス(拍手)

〔小山松壽君登壇〕

○小山松壽君 只今山本農林大臣ノ御答辯ニ當リマシテ、自作農ノ維持創設ノ施設ハ原内閣ノ時カラ決定テ實行致シタモノデアルト云フヤウナ御話ガゴザイマシタ、是ハ私カラ改メテ御説明ヲ申上ゲルマデモナク本施設ハソレヨリモ前カラ逓信省ノ保險積立金デ致シテ居タコトハ、是ハ御説明ヲ要サヌト思ヒマス、唯私ノ申上ゲタノハ、國家ガ一分三厘ヲ補給シテ、三分五厘ノ負擔ヲ以テ自作農ノ維持創設ヲスルト云フコト、此施設ヲシタノハ五十一議會、加藤、若槻内閣ノ時デアルト云フコトヲ私ハ申上ゲタノデアアル、是ハ何方デモ宜シイコトデアリマシテ、規則ノ發布ニナツテ居ルコトデアリマスカ、此處デ御説明ヲ申上ゲルヲ要シマセヌ、次ニ三分五厘ト五分ノ差異ノコトニ付テ大臣ヨリ御説明ガゴザイマシタガ、私ハ是ハ了解ガ參リマセヌ、何故ナ

ラバ、三分五厘ト五分ノ間ニ一分五厘ノ差違ガアル三分五厘ハ二十五年デアリ、五分ハ三十五年デアアル、年限ガ長イカラ毎年々々負擔シテ償還シテ行ク所ノ其負擔關係ハ、決シテ現施設——只今ヤツテ居ルモノト其間ニ甲乙差違ガナイ、斯ウ云フ御話デアリマス、ソレデアリマスカ私ハ先刻申上ゲマシタ、二十五年ヲ三十五年ト云フ風ニ引延シテ參シタラバ、負擔割合ニハ甲乙ハアルマイ、サリナガラドウシテモ御考ニナラナケレバナラヌコトハ、現施設ハ三分五厘デ一分三厘ノ補給デアリマスカ、二十五箇年ニシテ其自作地ハ自分ノ所有ニ移ルノデアリマスカ、此施設ヲシヤウトスルノハ高率デアリマスカ、モウ十年間年貢同様ナモノヲ納メナケレバ自分ノ所ノモノニナラナイ(拍手) 斯ウ云フコトデアアルカラ、一日モ早く小作ヨリ自作ニ移ツテ、自分ノモノトシテ村ノ者ニモ幅ヲ利カセヤウト云フノニハ二十五年先デアツテ、マダ十年向フニ負擔シテ參ラナケレバナラヌコトハ、思想感情ニ於テ差違ガアリハシナイコトハ、思想感情ニ於テ差違ガアリハシナイコト考ヘルノデアアル、ソレデモ些トモ差支ナイト云フ御答デアレバ、ソレハ別デアリマス(拍手) 若シ此問題ニ付テ理解ヲ有セラレ、熱誠ヲ有セラレラバ、現施設ニ更ニ國庫ノ負擔ヲシテ、サウシテ此施設ヲ成ベク現制度ニ近イモノニシ、或ハ其資金ヲ擴張シテ參ルト云フコトデアリマスカ、私共ハ強ヒテ此質問等ハ試ミナイ積リデアリマス、其次ニ道府縣町村其他ノ團體ハ現在ノ通り、又此施設ノ貸付ハ矢張現在施設ノ通り團體本位トシテ居ルノダ、唯例外ニ個人ヲ認メルノデ、小山君ハ此點ニ付テ誤解ガアリハシナイカト云フ御話デアリマス、私ハ現施設ニ例外ヲ認メテ居リマセヌ、其原則ヲ何デ御變ヘニナルト云フコトニ付テ心配ガアルカラ御尋スルノデアアル、此例外ヲ御認ニナラヌデ現施設ト同様ニオヤリナラバ、私ハ何モ此憂ヲ將來ニ貽ストハ申上ゲマセヌ、次ニ危險ガ伴フト云フコトデアレバ、府縣デモ町村デモ、產業組合デモ農會デモ、同ジデヤナイカ、ソレ等ノ

モノガ危險ヲ負擔シテ、國家ガ負擔ヲシナケレバ宜イト云フコトノ議論ハ立ツマイト云フ御話デアリマスカ、是ハ大變ニ違フト思ヒマス、國家ガアルト云フコトニナレバ事情ニ通ジマセヌ、府縣、町村、產業組合、農會等、是等ノ團體ガ致スト云フコトデアリマスナラバ、直接其事情ニモ通ジ、且ツ色々ノ評議機關モ持ツテ居リ、評價等モ致シテ、サウシテ其償還等モ誤リナイヤウニ隣保相助ケテ、政府ノ施設ヲ援助シヤウト云フコトニ依テ、初メテ麗ハシイ結果ヲ舉ゲ得ルモノト私ハ考ヘルモノデアアル、國家ガ遠クカラ中央ニ於テ之ヲ統一シテ、サウシテ地方ヲ統括シテ行クト云フヤウナコトニ付テ、其間ニ遺憾ハナイカト私ハ心配致スモノデアアル、殊ニ貸付ケマシタ資金ノ回收、若クハ年賦償還等ノ取立テハ、是ハ何人ガ致スノデアリマス、思フニ、個人貸付ト云フコトニナリマスカ、思フニ、個人貸付之ヲ取扱フデアリマセウ、國家事務ヲ若シ府縣知事ニ委任サレルト云フコトニナルナラバ、府縣知事ガ此衝ニ當ルデアリマセウ、私ハ左様ニナリマスカ、小作人ト國家ノ役人ト、其間ニ思想ノ疎隔ヲ來タスト云フヤウナ虞アレアルコトヲ私ハ心配スルモノデアリマス(拍手) 之ヲ地方ノ團體ガ致シマスカ、能ク事情ニ通ジテ居リ、明ケ暮レ顔ヲ見合セテ居ル仲デアリマスカ、圓滿ニ行クデアラウト私ハ思フノデアリマス、又其次ニ小作爭議ハ、現在ノ施設デモ起ルデハナイカト云フヤウナ御話ガアリマシタガ、私ハ小作爭議ガ現在ノ施設デモ起ルコトヲ甚ダ遺憾ニ存ジマス、故ニ私ハ最初申上ゲタ、是等ノ施設ハ農村ノ堅實ナル安固ヲ圖リ、農業經營ヲ安心シテ行ケルト云フコトガ、社會立法ノ一ツデアルト云フコトヲ私ハ申上ゲテ居ルノデ、小作爭議ノ頻發スルコトヲ喜ブモノデアリマセヌ、去リナガラ現在ノ施設ハ三分五厘デ、國家ハ一分三厘ノ補給ヲシテ居ル、尙ホ負擔ヲ輕クスル爲ニ二十五年位デ完了スルモノデアアル、然ルニ五米ト云フ高率デ借りルナラバ、切メテハ買入レル時ノ地代ト云フ

モノハ安イモノヲ望ムヤウニナリハシナイ
カ、此施設ガ二ツニ行ハレト云フ所ニ私
ハ心配ガアリマシタカラ、其一例トシ申
上ダタノデアリマス、尙ホ大藏當局ガ只今
御答辯ニナリマシタガ、預金部委員會ノ了
解ヲ得タルヤ否ヤ御尋申上ダテ置キマシ
タガ、是ハ御答モナカッタヤウデアリマス、
預金部ニハ御話ニナリマシタカ、ナリマセ
ヌカ、之ヲ私ハ伺フテ置ク、何故ト云
ハ、先例ガアリマス、下圖元政務總監
ガ朝鮮產米計畫ヲ立テマシタ時分ニ、資金
運用ニ付テ當時ノ濱口大藏大臣ハ、慎重ニ
此問題ヲ御取扱ニナリマシタ先例ヲ以テ、
私ハ御尋申上ダテ居ルノデアリマス（拍手）
逓信當局ニ重ネテ御尋申上ダマスガ、只今
御答辯ニ依リマス、簡易生命保險積立
金運用ニ付テハ、農林當局ト何等合議ヲシ
ナイ、又施設モ自分ノ思フヤウニシテ參
ノデアル、斯ウ云フ御話デアリマシタガ、
是ハ篤ト、モウ少シ御調査御研究ノ上デ御答
ヲ願ヒタイト思ヒマス、私ハ左様ニハ感ジ
マセヌ、ソレカラ運用資金ノコトニ付テ、
今小山君ハ何年二千三百萬圓、何年二千五
百萬圓、千八百萬圓、二千萬圓ト申シタガ、
サウ云フヤウナコトハ逓信當局ハ認メナイ
ト云フ御話デゴザイマス、勿論斯様ナ問題
ニ付テハ、私ハ敢テ茲ニ言葉ヲ多ク用ヒマ
セヌガ、昨年十二月十八日ト記憶致シマス
ガ、簡易生命保險運用委員會ニ於テ一ツノ
問題ガ起リマシタ、ドウ云フ問題ガ起
タカ、當時山本農林大臣ハ自作農維持創設ニ
付テ、昭和四年度ノ豫算ニ提出シタイト云
フコトニ付テ御努力ニナリテ居リマシタ時
分ニ、他ノ閣僚ト意見ノ一致ヲ見ズ、遂ニ
田中總理大臣ガ自分ニ委セロト云フノデ一
任セラレテ居リマシタ當時、此資金ハ簡易
生命保險積立金ヲ以テ運用スルモノデア
ルト云フコトヲ、當局ノ御話ノヤウニ新聞ガ
傳ヘタト云フコトニ原因致シマシタ、當時
ノ預金部委員會ニ於テハ、其委員デアリマ
ス所ノ兩三名ノ人カラ——殊ニ簡易生命保
險ヲ大限内閣當時制定致シマシタ其時ノ立
法者ノ一人デ、深ク此問題ノ將來ヲ憂ヘラレ

テ居リマス所ノ藤澤、松本兩博士ハ、其預
金部委員會ニ於テ此資金ノ運用ニ付テ、山
本農林大臣ガ預金部ノ了解モ得ズシテ、自
儘ニ其資金ノ運用ヲ彼此スルコトハ怪シカ
ラヌコトデアルト云フノデ、甚シク久原逓
信大臣ニ向テ其責任ト所信ヲ質シ、遂ニ久
原逓信大臣ハ此預金部ノ運用ノコトニ付キ
マシテハ、何等自分ニ一言ノ相談モアリマ
セヌシ、若シ將來相談ガアリマシテモ、預
金部ノ運用ハ致シマセヌト、其時言責ヲ取
ラレタ例ガアリマスカラ、只今ノ御答辯ハ
其時ノ關係等ニヨリシテ、將來ヲ考慮セラ
レテノ御答ト考ヘマスガ、既ニ憲政會内閣
當時ニ主張致シマシタ二十五箇年ノコトニ
付キマシテハ、豫算外國庫ノ負擔トナルベ
キ契約ヲ要スルノ件トシテ、帝國議會ノ協
贊ヲ經テ居ルノデアリマスカラ、今之ヲ覆
ヘサレルト云フコトニナリマス、非常ニ
國家ノ重大事ガ起ラウト思ヒマスガ、併
シ是ハ御答ニナラナクテモ、私ノ意見ダケ
ハ申上ダテ置キマス、若シ此場合ニ御答シ
テ差支ガアルナラバ、是ハ御答ハ要シマセ
ヌ

（國務大臣山本錦二郎君登壇）

○國務大臣（山本錦二郎君） 目下ノ簡易生
命保險積立金ニ依ル自作農ノ維持創設制度
ト、今提案シテアリマス方法トノ間ノ金
利ノ差ニ付キマシテ、重ネテノ御尋ガアッ
ヤウデアリマスガ、ソレハ政府ガ現在ノ所
デハ一分三厘ヲ補給致シテ居ルノデアリマ
スカラ、一年ニ此方面ニ放出スル所ノ資金
ガ此以上何千萬圓ニナリマシテモ、引續イ
テ一分三厘ノ補給ヲ繼續シテ行クコトガ出
來マスレバ、是ハ洵ニ結構至極ナコトデア
ル、然レドモ御承知ノ通り今回ノ規模ハ甚
ダ小サイデヤナイカト云フコトヲ小山君ガ
言ハレテ居ル、其規模デスラ、三十五箇年
ノ間ニ一億五千萬圓ト云フ資金ヲ出サナケ
レバナラヌノデアル、之ニ對シテ一分三厘
ヲ補給シテ行クト云フコトニ相成リマシタ
ナラバ、國家ノ負擔ト云フモノハ是非常
ナモノニナルノデアリマスカラ——殊ニ財
政ノ緊縮ヲ高唱サレテ居ル所ノ其小山君

ガ、此以上尙ホ補給ヲスルノガ宜シイデヤ
ナイカト云フ御議論ヲスルノハ、私ハ寧ロ
其本意ヲ解スルニ甚ダ苦ムノデアリマス、
是ハ出來レバ結構デアル、出來レバ結構デ
アルガ、今日ノ財政狀態デハ補給ヲスルト
云フコトハ頗ル困難デアル、ソレ故ニ年々
拂フ所ノ年賦金ハ變更ヲ來ササル範圍ニ於
テ年限ヲ延長シテ、農民ヲシテ土地ヲ取得
セシメルト云フノガ今回ノ立前デアルト云
フコトヲ御承知ヲ願ヒタイノデアル（拍手）
ソレカラ貸付ヲスル場合ニ府縣ヲ主體トシ
テ貸付ヲスルナラバ、ソレハソレデ宜シイ
ガ、併シソレニシテモ例外ニ於テ國家ガ直
接貸付ヲスルコトハ非常ニ危險デハナイ
カ、斯ウ云フ御尋デアッタヤウデアリマス
ガ、此例外ト云フ所ニ、即チ今回ノ法制ノ
妙味ガ存シテ居ルノデアル、是ハ小山君ハ
恐ラクハ其處マデ御考ニナリテ居ラヌカモ
知レマセヌガ、簡易保險ノ——重ネテ申シ
マス、簡易保險ノ今日ノ制度ニ於テハ、逓信
次官カラモ申シマシタ通り還元主義ト云フ
制限ガアルノデアル、即チ被保險者ノ多イ
所ニ大體ニ於テ此資金ヲ又戻シテヤルト云
フ、此原則ノ下ニ簡易生命保險ノ資金ヲ運
用サレテ居リマス、夫故ニ自作農維持創設
ト云フ立場カラ致シマスレバ、是ハ最も緊
要ナルモノデ、最も其方面ニ多額ノ融通ヲ
シナケレバナラヌ場合ニ、必シモソコニ融
通スルコトガ出來ナイ場合ガ生ズル、府縣
ノ場合ニ於テモ同ジデアル、府縣ヲ通ジテ
ヤル場合ニ、若クハ市町村ヲ通ジテヤル場
合ニ、其市町村若クハ府縣ノ財政ノ狀態ニ
依テハ是ダケノ起債ヲスルコトガ出來ナ
イ、即チ自作農維持創設ニ要スルダケノ金
額ヲ自己ノ負擔ニ於テ、自己ガ起債シテ實
行スルト云フコトハ、困ル場合ガ生ゼヌト
モ限ラナイ、又府縣ノ場合ニハ起債ニ付テ
内務省ノ認可ヲ經ナケレバナラヌ、事ニ依
ルト云フテ内務省トシテハ其府縣ノ財政狀
態ニ鑑ミテ、是以上ノ起債ハイカヌト云フ
コトニナルカモ知レナイ、サウ云フ場合ニ
於テ、即チ其地方ニ於テ自作農維持創設ハ
極メテ緊要デアッテ、之ニ多額ノ資金ヲ要ス

○議長（元田肇君） 大口政府委員

（政府委員大口喜六君登壇）

○政府委員（大口喜六君） 再應ノ御質問デ
アリマシタガ、私ハ實ハ先刻明瞭ニ御答シ
タ積リデアッタノデアリマス、小山君ノ御問
ニナリマス運用委員會ノ了解ヲ得タト云フ
コトハ、ドウ云フコトデアリマセウカ、若
シ私ガ此處デ此演壇ニ於キマシテ此了解ヲ
得タリト言ハウトシマスレバ、ドウシテモ
是ハ委員會ガ正式ニ開キマシテ、サウシテ
其運用委員會ニ於テ斯ク——ノコトヲヤラ
ウト思ウガ如何デアルカト云フコトヲ諮問
致シマシテ、ソコデアサウ云フコトガ出來上
ルナラバ宜シイト云フ決議ヲ經マシタノデ
ナケレバ、明瞭ニ私此處デア了解ヲ得テ居
ルト云フコトハ言ヘナイノデアリマス、其手
續ハ致シテアリマセヌ、併ナガラ先刻申ス
通り、事ガ頗ル重大デアリマスカラ、此案
ヲ提出スルニ當リマシテ、會長カラ委員諸
君ノ個人ニ向ヒマシテ、今回斯ノ如キ案ヲ
此趣意デア出スト云フノデ諸君ノ了解ヲ得
テ希望ヲ以テ、其事ヲ申述ベテアル事實ガ
アルト申スノデアリマス、是ダケヲ申上デ
マス

○小山松壽君 只今農林大臣及大藏當局ヨ
リノ御答辯ニ依リマシテ、私ハ此問題ニ對
スル所ノ質疑——尙ホ私ノ懷イテ居ル所ノ
疑問ヲ了解スルニ至リマセヌ、サリナガラ
本問題ハ頗ル細目ニ互ニ質問應答ヲシテ、
徹底ヲ期スル場合ガナケレバナラヌト考ヘ
マシテ、委員會ニ付議サレタ場合ニ譲リマ
ス

○議長（元田肇君） 田中万逸君

○田中万逸君 本案ニ對シマシテ同僚小山

君より廣汎ニ農ノ御質問ガアリ、私ノ問ハントスル大半ハ盡サレマシタガ故ニ、私ハ簡單ニ農村問題ヲ中心ト致シマシテ二三質問ヲ致シタイト存ズル次第デアリマス、本案ハ現内閣ノ所謂積極政策ノ最も重要ナル一ツデアリマス、産業立國ノ基礎ヲ成セルモノデアリマシテ、彼ノ兩稅案議案ト共ニ政友會ノ二枚看板トサヘ稱ヘラレタ所ノ案デアリマス、隨テ過タル總選舉並ニ各方面ノ選舉ニ方リマシテ、選舉演說ノ最も重要ナル一大項目ト致シテ、多數ノ投票ヲ贏チ得ラレタル所ノ法案デアリ、一方ニ於キマシテハ、一昨年來山本農林大臣、三土大藏大臣、此兩大臣ガ三年越シノ確執ノ主因ト致シマシテ、内閣不統一ノ醜態ヲ暴露セシコト一再止ラザル所ノ故事來歴ニ當ム所ノ案デアリ、現内閣ニ取テ頗ル特級ヒ兼ネタル所ノ案デアリマス、内閣ト致シテハ頗ル特級ヒ兼ネタル案デアルケレドモ、併シ政友會ト致シテハ有ユル選舉ト云フ選舉ニ於ケル演說ノ一大題目トシテ、醇朴ナル所ノ農民ノ投票ヲ贏チ得タル所ノ其責任上、本案ノ實現ニ努力スベキコトハ、政治道徳上當然ナルコトデアルト斷言スルニ躊躇致サナイデアリマス(拍手)然ルニ會期三分ノ二ヲ經過致シタ今日ニ當テ、漸ク其提出ヲ見ルニ至ルト云フコトハ、選舉當時ノ御言葉ニ對シテ何ト云フ體タラクデアリマスルカ(拍手)元來政黨ノ看板ニ掲ゲラレル程ノ重要ナル所ノ法案ガ、會期ノ三分ノ二ヲ過シタ頃ニ、漸ク閣議ノ決定ヲ見ルト云フガ如キコトハ、眞ニ不誠實不誠意且又不用意極マル所ノコトデアッテ、此哀レナ取扱方ニ依テ案其モノ、價值、即チ權威モ測リ知ルコトガ出來ルノデアリマス、論ヨリ證據デアリマス、試ニ其成案ヲ一覽致サレタナラバ、曩ニ世上ニ問ハレタ所ノ此自作農地法案、即チ農地金庫法案ニ較ベマシテ非常ナ程庭ガアル、當時山本農林大臣ハ農村救済ノ國策ヲ樹立スル爲ニ、此自作農地法案ヲ提出スルモノデアルトサヘ壯語セラレタコトヲ私ハ記憶致シテ居リマス、然ルニ拘ラズ今同提出サレマシタル本

案ニハ、其抱負總論ノ片鱗スラモ認ムルコトガ出來ナイデアリマセヌカ、要スルニ本案ハ羊頭ヲ掲ゲテ肉ヲ售ルモノデアッテ、山本農林大臣ノ面目ノ爲、兎ニモ角ニモ三年越シノ爭論ノ片ヲ付ケタ問ニ合セノ案ニ過ギナイコト云フコトハ、一目瞭然ノ事實デアリマス、而モ此骨抜き案ヲ會期切迫致シタ今日俄ニ提出セラレテ、果シテ貴衆兩院ヲ通過スル成算アリヤ否ヤ、先ヅ此點ヲ御同致サナケレバナラヌデアアル、斯ク私ガ質問ヲ致シマスル、當局大臣ハ勿論其成算アリト月並メノ御答辯デアラウト思ヒマスルガ、月並メノ御答辯デアッテモ宜シ、山本農林大臣ノ職責上、其責任上且ツ政治道徳上、將來ノ爲ニ此點ヲ確然ト私ハ承シテ置キタイト思フデアアル(拍手)而シテ更ニ御同致シテ置カナケレバナラヌ事ハ、農林當局ニ於テハ自作農創設ノ決意ヲ致サレバ、一昨年來ヨリ引續イテ今日ニ至ルマデ、案其モノ、内容ガ頗ル杜撰デアッタニモ拘ラズ、其目的ノ美ナルコトヲ奇貨ト致シテ、之ヲ選舉ニ利用シテ遂ニ種々ノ紛爭ヲ醸サレタ結果トシテ、漸ク今日ニ至テ此骨抜き案ヲ提出サレタコトハ、吾々ヨリ見テ政治道徳上許サベカラザル大罪惡デアルト確信ヲ致シテ居リマスルガ(拍手)山本農林大臣ハ率直ニ此點ニ對シテ所見ヲ承リタイトデアリマス、次ニ御同致シタコトハ、山本農林大臣ガ本案提出ノ際ニ述ベラレタ如ク、即チ本案提出ノ趣旨ニ述ベラレタ如ク、本案ハ小作爭議ノ對策デアルト、斯様ニ言ハレマシタ、即チ農林大臣ガ多年御主張ヲナサレテ居ラレル其御主張ニ依リマスレバ、自作農ノ創設ニ依テ小作爭議ヲ解決シテ、而シテ農村問題ニ對シテ根本的ノ政策ヲ確立スル爲ニ、本案ヲ提出サレタノデアアルト、斯様ニ申シテ居ラレマス、然ルニ今回提出ノ此法案ハ、前刻モ申上ゲマシタ通り、洵ニ規模ノ狭小ナ妥協本位ノ鵠的ノモノデアッテ、而モ當局ノ責任者デアアル所ノ農林大臣ヲ度外視シテ、漸ク勝田文相ノ考案ニ成タト云フ、山本農林大臣ヨリ見タナラバ、自作農デナクシテ寧ロ他作農デ

アルト云フノガ當然デアルト、吾々ハ考ヘルノデアリマス(拍手)即チ最初ノ案ト現在ノ案トヲ對比シテ見マスレバ、三十五箇年ト云フ長星霜ダケハ同ジデアリマスルケレドモ、其資金ニ於キマシテハ、前ニ提出サレタモノハ年額八千萬圓デアッタニモ拘ラズ、僅ニ三千万圓ノ限度トナルト云フ、其半バニモ達セザル所ノ僅少ナル所ノモノデアリマス、而シテ創定セラルベキ所ノ自作農ノ段別ト云フモノハ、最初ノ六十三万町歩ニ較ベテ、是亦其半バニモ達セザル所ノ僅ニ二十六万町歩ト云フ僅少ナル所ノデアリマス、即チ小作農地總面積デアル所ノ二百七十八万餘町歩ニ比ベマシタナラバ、僅二十分ノ一デアアル、其一割ニ足ラザルト云フガ如キ、所謂九牛ノ一毛ニ比スベキモノデアリマスルガ、斯ノ如キ貧窮ナル施設ニ依テ、如何ニ農村ニ於ケル所ノ階級闘爭ヲ調和致シ、其根本問題ニ對シテ解決ヲ下シ得ルヤ否ヤ、蓋シ百年河清ヲ待ツト同一デアルト言ハザルヲ得ナイデアリマス、殊ニ小山君モ質問セラレタ如ク、從來ノ簡易保險積立金ノ運用ニ依ル自作農ノ創設ハ、農家ノ負擔スル所ノ利息ハ三分五厘デアアルニモ拘ラズ、本案ハ更ニ一分五厘高イ所ノ、實ニ五分ノ利息ヲ負擔シナケレバナラヌコトニナッテ居リマス、就テハ從來ノ三分五厘ノ利子ヲ負擔致シマシタ場合ニ於テ、此場合ニ於テコソ、十數倍ノ希望申請者ガアリマシタケレドモ、五分利負擔ノ其上ニ、地代ト致シテ四分ノ一ノ現實出資ヲシナケレバナリマセヌ關係上、從前通り其申請者ハ十數倍ヲ超ユル如キ多數ヲ出サナイト云フコトハ、言フ迄モナキ話デアリマス

(元田議長議長席ヲ退キ清瀬副議長代リ著席)
隨テ斯様ナ負擔ノ下ニ於テ、果シテ小作農カラ自作農ニ進出シ得タ所ノ新ナタル自作農者ガ、其現勢力ヲ維持致シマシテ、依然トシテ自作農ノ資格ヲ保持スルコトハ頗ル困難デアッテ、折角作上ゲタ所ノ自作農者モ、數年ヲ出デズシテ又々元ノ小作農ニ還元スルト云フ所ノ憂ヲ懷カザルヲ得ナイノデアリマス、即チ現在ノ農村ハ地主ト云ハズ、自作農ト云ハズ、將又小作農ト云ハズ、總テ行詰リノ狀態デアッテ、農村困憊ノ窮極ニ達シテ居ルト云フコトハ、天下公知ノ事實デアリマス、而モ農作ハ必シモ農村ニ取テ福音デアリナイデアリマス、農作ニ伴フ所ノ必然ノ結果ト致シテ襲ヒ來ル所ノ米價ノ低落ハ、深刻ニ御互農民ノ生活ヲ脅威致シテ居ルデアリマセヌカ、吾々ハ平素農村ノ振興ヲ力説セラル、現内閣トシテ、此場合其平素ノ御主張ノ如ク、疲弊困憊ノ窮極ニ達シテ居リマス所ノ農村ヲ救済スベク、其根本政策ノ確立ヲ期スルト云フコトガ、當然ノ事デアアルト考ヘテ居ルノデアリ、然ルニ此貧窮極マル所ノ自作農外一二ノ不徹底ナル所ノ提案ヲ爲シタノミニテ、事足レリトセラレルノハ、向後現内閣ハ農村振興ヲ口ニスルノ資格ナキモノト斷定セラレタモ、蓋シ返シ言葉ハナカラウト思フノデアリマス(拍手)山本農林大臣ハ農村疲弊ノ結果ト致シテ年々八千町歩乃至一万町歩ノ自作農ノ減少シテ行ク所ノ事實ヲバ、ヨモヤ御存知デナイ筈ハナカラウト思フノデアリマス、又現在ノ小作農ノ思想的傾向ト云フモノハ、耕地ヲ購入致シテ自作農トナルヨリハ、寧ロ小作農トシテ耕作權ヲ確立ヲ期シ、斯クシテ他人ノ土地ヲ耕スコトヲ以テ得意ト致シテ居ル所ノ傾向ヲ、是亦御存知ナイ筈ハナカラウト思フノデアリマス、果シテ然ラバ自作農ノ一本槍デハ、到底農村問題ノ根本解決ヲ爲ス能ハザルノミナラズ、一面ヨリ見テ本案ハ時代ニ逆行セル所ノ地主擁護ノ政策デアルト云フ誹ハ免レナイノデアリマス、現内閣ハ何ガ故ニ農村振興ノ根本政策ヲ掲ゲテ、所謂産業立國ノ實ヲ明ニ致サントセラレナカッタカ、或ハ此貧窮ナル自作農外一二ノ提案ヲ以テ、農村振興ノ根本策トセラレテ居ルノデアアルカ、此點ヲ明瞭ニ御答ヲ願ヒタイノデアリマス、最後ニ御同致シタイトハ、小山君ヨリ御話ガアリマシタガ、更ニ私ハ自作農ト小作立法トハ互ニ兩立セナケレバナラヌト考ヘマスル關係上、重ネテ此點ヲ

御同致シマス故ニ、詳細ナル御答ヲ御願致シテ置キマス、山本農林大臣ハ本案ノ實施ニ依テ小作爭議ノ對策ヲ示シメント云フコトヲ提案ノ趣旨ニ於テ御述ニナリマシタ、併シ吾々ヨリ見タナラバ、斯ル貧弱ナル所ノ自作農ノ創設維持案ヲ以テ、農村ニ於ケル重大ナル社會問題デアル所ノ小作爭議ヲ解決スルガ如キハ、到底出來得ナイコトデアッテ、恰モ竿竹ヲ以テ天上ノ星ヲ叩キ落サントスルノ同様デアルト私ハ思ハザルヲ得ナイノデアリマス、即チ假ニ本案ガ支障ナク實行セラレタ致シマシテモ、三十五箇年ノ間ニ僅ニ二十六萬二千五百町歩ノ自作農ガ出來上ルノミデアッテ、之ヲ七百二十八萬町歩ノ小作農地ノ總數別ニ比較致シテ見マスルト、僅ニ一割足ラズデアリマス、而シテ他方ニ於テハ先刻モ述ベマシタガ如ク、農村衰退ノ結果ト致シテ年々八千町歩乃至一萬町歩ノ自作農ガ減少致シテ參リマスルガ故ニ、此點カラ見タナラバ、三十五箇年後ニ於テハ蓋シ「プラス、マイナス」デアッテ、一方ニ於テハ自作農ヲ助成致シマシテモ、一方ニ於テハ時代ノ力ニ依テ自作農ガ減退致シテ參リマスルガ故ニ、絶エズ二百七八十萬町歩ノ小作農地ガ殘存致シテ居ルト云フコトニナリマス、即チ耕地ノ總面積ニ對スル所ノ五割五分内外ノ小作地ガ、依然トシテ小作爭議ノ對象トシテ農村ニ殘存サレルト云フ勘定ニナルノデアリマス、故ニ自作農ノ創設維持ヲ行フト同時ニ、此小作爭議ニ對スル根本政策ヲ確立スルコトハ、當然過ギル程當然ナリト申サナレバナリマセヌ、小作爭議ノ内面的事實ト致シマシテハ、地主ト小作人トガ共ニ困リマスルノミナラズ、小作爭議必然ノ結果ト致シテ農耕地ノ荒廢ト、農產物ノ產額減少トヲ招來致シマスルガ故ニ、國策上ノ見地ヨリ致シテ速ニ基準法ヲ制定致シテ、地主ト小作業者ノ權利義務ヲ明確ニ致シテ、爭議終熄ノ方法ヲ講ジナレバナラヌノガ當然ノコトデアルト考ヘマス、然ルニ政府ハ之ヲ高閣ニ束ネテ顧ミントハセズ、自作農ノミヲ提出致シマシタコトハ、農村政策ト致シ

テハ全ク前後ヲ誤マタレタル所ノ處置デアッテ、世上ニ於テ本案ハ地主偏重ノ策デアルト云フ所ノ批評ニ對シテ、吾々ハ強ナ無理デナイ批評デアルト感ゼザルヲ得ナイノデアリマス、殊ニ最近ニ於ケル小作爭議ノ狀勢ヲ通覽致シマスルニ、一層吾々ハ左様ノ感ヲ懷カザルヲ得ナイノデアリマス、コト數年前ノ小作爭議ハ諸君モ御存知ノ如ク、小作者側ノ團結ノ力ニ依テ絶エズ地主側ヲ壓伏シテ居タト云フコトハ事實デアリマス、然ルニ最近ノ趨勢ハ全ク主客顛倒ノ形ト相成テ居リマシテ、小作者側ノ勢力ヨリモ地主側ノ勢力ノ方ガ反撥ノ強クナタト云フコトハ、動カスベカラザル事實デアリマス、此事實ヲ最モ能ク證據立テルモノハ、土地返還ノ訴訟事件ガ小作爭議ノ發生數ニ比ベマシテ著シク増加シテ居ルコトハ、生キタル證據デアリマス、現ニ昨年ノ秋ヨリ本年ニ掛ケテ、小作爭議ハ例年ニ較ベテ減少ハシテ參リマシタガ、此減少ノ原因ハ我が帝室及國家ノ慶典デアアル御大典ノ關係、又ハ豐作ノ影響等、其原因ハ種々アリマスガ、其中ニ於テ小作者側ノ勢力ノ衰ヘタコトハ、見通スベカラザル一大事實デアリマス、即チ昨年ノ春開カレマシタ所ノ第五回小作官會議ニ於キマシテモ、小作者側ノ勢力ガ衰ヘテ、地主側ノ勢力ガ反撥的ニ増大シテ來タコトヲ明ニ確認サレタ事實ト云フモノハ、諸君ノ記憶ニ新ナル所デアラウト思ヒマス、吾々ハ農村振興ノ爲、此機レナル所ノ小作者者、僅ノ賠償金ヲ與ヘラレテ永久ニ耕地カラ驅逐サレテ居ル所ノ小作者者ニ對シテ、黨派觀念ヲ離レテ眞劍ニ其對策ヲ講ジナレバナラヌト考ヘテ居リマス、然ルニ小作者者ノ勢力ガ減退シタコトヲ奇貨トシテ、是等同情スベキ多數農民ノ權利ヲ擁護スベキ小作法ヲ提出シナカッタコトハ、農村振興ヲ口ニスル所ノ現内閣ノ一大失策デアルト私ハ斷ゼザルヲ得ナイノデアアル、殊ニ山本農相ハ先般小作調査會ニ於テモ、農地金庫案ノ審議ヲ求メラレタ其際ニ、農地金庫案ヲ議會ニ提出スルト同時ニ、小作法ヲ提案スベシトノ言明ヲ

與ヘラレタト聞キマスガ、果シテ然リトシタナラバ、一體何時小作法ヲ提案セラレルノデアルカ、今日尙ホ提案セラレナイ所ヲ見レバ、小作調査會ニ於ケル言明ト云フモノハ如何ニナッタノデアルカ、農地金庫案ガ全ク骨抜きニサレタ關係上、小作調査會ニ於ケル所ノ言明ヲ拋棄セラレル外ナイトシテ、小作法ヲ提案セラレナカッタノデアアルカ、此三點ニ對シテ明確ナル御答辯ヲ要求致シマシテ、私ノ質問ハ是デ打切りヲ致シマス

〔國務大臣山本錦二郎君登壇〕

○國務大臣(山本錦二郎君) 田中君ノ御尋ニ對シテ御答ヲ致シマス、第一ハ御意見デアッタヤウナ御尋デアリマシタガ、會テ農林省案トシテ世間ニ見エタモノハ八千萬圓ノ金ヲ以テヤルト云フモノデアッタガ、今回ノ分ハ金額ハ僅ニ三千万圓ニナッテ、而モ全然骨抜きニナッタト云フヤウナ御説デアリマスガ、少シモ骨抜きニハナッテ居リマセヌ、田中君ハ前ノ所謂農林省案ナルモノモ、今日提案サレテ居ル此政府案モ、恐ラクハ深ク御研究ニナッテ居ラナイ結果、斯様ナ御意見ガ出ルノグラウト思フ、以前農林省案トシテ世間ニ傳ヘラレタモノモ、金額ハ八千万圓デアリマスガ、債券即チ農地金庫ヨリ發行スル債券ヲ以テ、八千万圓宛三十五箇年ノ間資金ヲ供給スルト云フ案ニナッテ居タノデアアル、今回ノ分ハ同ジク三十五箇年間、金額ハ三千万圓、而シテ預金部ノ資金ヲ主體トシテ、若シ預金部ノ金ガ足りナカッタ時ニハ、此特別會計ヨリ發行スル債券ヲ以テ之ヲ補充シテ、兎ニ角三千万圓宛ハ動かナイ金額トシテ、之ヲ三十五箇年實行シヤウト云フ案ニナッテ居ル、而モ其主體ニ於テ金額ガ違フダケデアッテ、而シテ一方ニ於テハ公債デ、一方ニ於テハ特別會計カラ資金三千万圓ヲ調達スルト云フコトデアッテ、一方ニ於テハ金庫ニ於テ調達スル金八千万圓ト云フダケデアッテ、其骨組ニ於テハ變テ居ラナイ、金額ガ減少ノ經濟狀態、内部ウ、併ナガラソレハ周圍ノ經濟狀態、内部ノ財政狀態、之ニ鑑ミテ金額ハ三千万圓ヲ

適當ナリト認メテ之ヲ提案致シテ居リマス、併ナガラ是ガ財政關係カラ若シ此以上ニ金額ヲ増加スルコトガ出來マスレバ結構デアリマス、田中君ナドハ成ベク斯様ナモノハ多ク世間ニ出サナイヤウナ方ガ宜イト云フヤウナ、不斷カラノ民政黨諸君ノ御主張デアリマスガ、此三千万圓ニナッタト云フコトハ、寧ロ其御主張ニ合致シタモノデアライケナイ、其主義ニ於テハ贊成デアアルガ、金額ガ少クシテ是デハ仕方ガナイグラウト云フナラバ、アナタ方ノ方デ五千万圓ナリ一億圓ナリニ修正シテ下サルナラバ、其時ニ考慮スルコトニ致シマス、ソレカラ斯様ナ規模デハ小作爭議ノ解決ニハ何モナラヌデハナイカト云フヤウナ御意見デアッタヤウデアリマスクレドモ、私ハ此規模デモ相當小作爭議ノ解決ニ資スルコトハ出來得ルト思フノデアリマス、年々七千五百町歩、之ヲ從前ノ分ト合セテ一萬町歩宛自作農ヲ設定シテ、即チ今日ノ小作農ヲ自作農ニ直スト云フコトガ出來ルト云フコトデアッタナラバ、是ガ小作爭議ノ解決ニ少シモ資スル所ナシト云フコトハ誰カ言ヘルコトデアリマセウカ、ソレカラ今回ノ制度ハ現行法ニ較ベテ利息ガ高イカラ、隨テ、一旦小作農ヲ自作農ニ直シテモ、再び小作ニ墮落シテシマウデアラウト云フヤウナ御尋ガアリマシタガ、是ハ即チ田中君ガマダ能ク御研究ニナッテ居ラナイ結果デアアル、小作人ガ年々負擔スル年賦金ト云フモノハ、從來拂テ居ル小作料ノ範圍ニ止メテアルト云フコトハ、現行法モ亦今回提案シタル法制モ同ジコトデアアル、但シ現行法ニ於テハ補給ガアリマスカル、年限ガ早ク濟ムト云フノデアアル、處ガ此提案ハ補給ガナイカラ年限ガ長クナルト云フダケデアリマシテ、小作人ノ年々拂フ年賦金ニハ大差ガナイノデアリマスカル、隨テ是ガ爲ニ再び自作農ニ墮落スルト云フ憂ハ決シテナイノデアリマス、又自作農ガ年々減少スル場合ニ於テ、斯様ナ法制ハ尙更役ニ立タヌデハナイカ、斯様ナ御意見ノヤウデアリマシタケレ

ドモ、自作農ガ漸次減少シテ來タト云フ現象ハ大正十一年迄デアリマシテ、其後ハ多少少シ、自作農並ニ自作小作ヲ兼業スル者ノ數ガ増加致シテ居リマス、是ハ管見シイカラ統計ヲ舉ゲテハ此處デ申シマセヌガ、委員會等ニ於テハ數字ヲ示シテ之ヲ御説明申上ゲルコトガ出來ルト思フノデアアル、ソレカラ斯ウ云フヤウナ自作農ノ維持創設ト云フス様ナ制度ハ、結局地主擁護ニナルデハナイカト云フヤウナ御言葉ガアリマシタケレドモ、是ハ屢々繰返サレル御言葉デアリマスケレドモ、是ハ能ク御考ヲ願ハナケレバナラナイ、若シサウ云フコトデアッタナラバ、現行ノ簡易生命保險ニ依ル處ノ法制ヲモ地シマヘト云フ結論ニナルノデアアリマス、田中君ナドノ如キハ恐ラク其處迄ノ御考デアアルマイト思フ、サウスレバ決シテ今日ノ現行法ト違ハナイ、唯補給ガ有ルカ無イカト云フダケノ違ヒデアアル、此提案シタル處ノ自作維持創設案ト云フモノヲ非難スル道理ハ、其處カラハ生レテ來ナイダラウト思ヒマス、若シ現在ノ此提案シタル所ノ本案ヲ何處迄モ地主擁護デアアルカラス様ナモノハイケンイト云フコトハ、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ、現行制度即チアナタ方ノ時代ニ於テ、若槻内閣ノ時代ニ於テ基礎ヲ定メラレタリト云フ此簡易保險ノ此制度ヲ、アナタ方自身トシテ呪フヤウナモノデアルト云フ結論ニナラザルヲ得ナイノデアアル、小作法ヲ何故速ニ制定シナイカト云フコトニ付テハ、是ハ重ネテ申シマセヌ、鈴木文治君ノ御尋ノ時ニ會テ詳シク御説明申上ゲテ置キマシタカラ、之ヲ繰返スコトハ致シマセヌ、終リニ臨ンデ私ハ一言申上ゲマス、即チ政友會ハ之ヲ以テ天下ニ宣傳シテ、其責任ヲ果ス上カラシテ已ムヲ得ズス様ナモノヲ提出致シタ、而モ小サクナッテシマタケレドモ、已ムヲ得ズ之ヲ提出致シタ、是ハ政治道德ニ反シタモノデアアルト、斯様ナ御結論ニナラレタヤウデアリマスガ、私ノ政治道德ト解シテ居ルノハ、田中君ノ政治道德トハ餘程違フテ居ル、苟モ天下ニ宣言シ、公約シタル問題デアラナラバ、其實

現ヲ期スルト云フコトガ、是ガ政治家ノ政治道德ナリト信ズルノデアリマス、其規模ノ大小ノ如キハ其時ノ周圍ノ狀況、經濟ノ狀況、財政ノ狀況ト照シテ適當ノ所ニ之ヲ定メナケレバナラヌ、ソレガ自分ノ思フ通りニナラヌカラト言フテ、打違フテシマウト云フナラバ、ソレコソ政治家ノ政治道德ハ其處ニ破壞サレルノデアリマス

〔田中万逸君登壇〕

○田中万逸君 只今山本農林大臣ヨリ私ノ質問ニ對シテ御答辯ガアリマシタガ、其御答辯ノ中ニ於キマシテ、私ガ本案ト並ニ農地金庫法案ト、此兩案ニ對シテ研究ヲ致シテ居ナイガ故ニ、私ノ言フガ如キ質問ヲ致シタト言ハレタノデアリマスガ、寧ろ私ヨリシテ見タナラバ、山本農林大臣ハ自己ノ主張通り政策トシテ爲スコトガ出來ナイデ、遂ニ内閣ノ大紛擾ヲ招イタ結果、勝田文相ノ救済ニ依テ漸ク本案ガ出來タノデアッテ、寧ろ山本農林大臣ノ方ガ案ノ研究ヲセラレザルモノト謂ハザルヲ得ナイノデアリマス、更ニ又前ノ案ト本案トハ骨組ニ於テ何等相違ハナイ、斯様ナコトヲ言ハレタト共ニ、小山君ニ對シテハ小ハ大ヲ兼ルト云フガ如キ御答辯ヲ爲サタノデアリマス

〔鈴木文治君登壇〕

○鈴木文治君 自作農ノ創設維持ニ關スル

○鈴木文治君 自作農ノ創設維持ニ關スル本案ハ、今期議會ニ提出セラレタル政府ノ諸法案中ニ於テ、最も重要ナル所ノ一ツデアルト信ズルノデアリマス、隨テ此法案ノ審議ニ當リマシテハ、固ヨリ慎重ニ當ラナケレバナラナイノデアリマシテ、私モ亦本案ノ御提出並ニ其説明ヲ承リマシテ、御尋ヲ致シタイト思ヒマスコトハ頗ル其數ガ多イノデアリマス、併ナガラ既ニ私以前ニ質疑セラレタル所ノ御兩君ノ御質疑、並ニソレニ對スル政府當局ノ御答辯等ヲ伺ヒマシテ、大分私ノ御尋致シタイト思ヒマスコトノ質疑應答ハ終ヘタヤウナ感ジガ致スノデアリマス、ノミナラズ事柄ガ事柄デアリマスカラ、唯斯ノ如キ本會議ノ議場ニ於テ質疑應答ヲ試ミルト云フコトヨリモ、寧ろ微細ナ質問ニ付テハ、詳細ニ互ニ考ヘルノデアリマスカラ、私ハ唯極メテ簡單ニ、前質疑者ノ質疑セラレマシタコト、成ベク重複ヲ避ケマシテ、唯三點ダケニ付テ其要旨ヲ申述ベテ、御答辯ヲ御願致シタイト思フノデアリマス、私ノ御尋致シマスル第一點ハ、本案ヲ御提出ニナリマスル本來ノ趣旨ニ付テ御同致シタイトデアリマス、是ハ先刻農林大臣自ラ一應ノ御説明ガアリマシタケレドモ、尙ホ私ノ満足シ得ナイ點ガアルノデアリマスカラ、重ネテ

○副議長(清瀬一郎君) 鈴木文治君

御尋申上ゲタイノデアリマス、即チ本案ヲ御提出ニナリマシタ趣旨ハ、一般的ニ且ツ概括的ニ昨今ノ農村ノ疲弊ヲ救済シヤウトスル、所謂農村振興策ニ出デタノデアアルカ、抑、又小作爭議ノ頻發ノ情勢ニ鑑ミテ、是ガ對策トシテ、小作人ノ地位ノ救済、其引上ト云フコトヲ目的トセラレタモノデアルト云フコトヲ御同致シタイトデアリマス、勿論是ハ兩者相關聯シテ居ル事デアリマスルケレドモ、本案ニ於テ重點ヲ置カレタル所ガ何處ニアラカト云フコトヲ、先ツ明ニ致シテ置キタイト思ヒマス、若シ小作人ノ地位引上、其窮狀ヲ救済シ、小作爭議ノ對策ニ備ヘヤウトスルコトデアリマスルナラバ、本案ニ依テ果シテ能ク其目的ヲ貫徹シ得ルヤ否ヤ、私ハ頗ル疑ニ堪ヘナイ者デアリマス、ト申シマスル理由ハ、長シイ説明ハ省略ヲ致スノデアリマスルガ、先般私ハ本議場ニ於テ一般質疑ヲ致シマスル際ニモ、此點ハ申上ゲタノデアリマスルガ、私ハ本案ヲ御提出ニナルニ付キマシテハ、其前提ノ條件トシテ、先行條件トシテ、若クハ本案同時ニ小作立法ニ關スル御提案ガナケレバナラナイ筈デハナイカト私ハ考ヘルノデアリマス、私共ノ見ル所ニ依リマスルナラバ、政府ハ如何ニ御考ニナルカ分リマセヌガ、今日小作爭議ガ頻發ヲ致ス、小作爭議ガ激増ヲ致シテ參リマスコトノ抑、ノ理由ハ二ツアルト思フノデアアル、一ツハ即チ小作料ガ依然トシテ尙ホ不當ニ高率デアルト云フコトデアアル、私ハ敢テサウ申上ゲルノデアリマスルガ、詳シイ引例ハ省略致シマスルケレドモ、是ハ公正ナル學者ガ色ミト研究致シマシタ結果、日本全國ノ小作料ニ付テハ、尙ホ二割乃至三割位引下ゲ得ベキ餘地ガアルト云フコトヲ明ニ致シテ居ルノデアリマス、又是ハ吾々自身始終當面シテ居ル所ノ事柄デアリノデアリマシテ、此小作料ガ尙ホ依然トシテ不當ニ高率デアルト云フコト、今一ツハ耕作權ト云フモノガ十分ニ確立セラレテ居ナイ、即チ小作料ノ高率デアルト云フコト、耕作權ガ十分ニ確立ラシテ居ラナイ

コト、此二ツノ事ガ所謂小作爭議頻發ノ
恐ラクハ最大ニシテ絶對ノ原因デアルト考
ヘザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)是ガ故
ニドウシテモ茲ニ小作立法ヲ急ガナケレバ
ナラナイノデアアル、小作立法ヲ完成スルコ
トニ依テ、地主對小作ノ關係ヲ公正ニ處理
シ、耕作條件ヲ調整シ之ヲ公正ニスルコト云
フコトハ、小作爭議對策ノ根本的條件デア
ルト私ハ確信スルノデアリマス、此問題ヲ
先ヅ解決致シタルナラバ、或ハ本法案ノ
如キヲ御出シニナル所ノ理由モ、或ハ
薄ラカモ知レナイ、或ハ三千万云々ノ問
題モ起ラズニ濟ンダカトモ思フノデア
ル、併シ此根本ノ問題ニ付テハ、過日
モ農林大臣ノ御答辯ニ依リマスレバ、目下
デ尙ホ調査審議ヲ進メテ居ルト云フ
コトデアリマシタケレドモ、如何ニシテ
何時頃此小作立法ノ問題ニ付テ纏テ御考
ヲ御持チニナシテ、立法ノ形ニセラレハ御
積リデアアルカト云フコトニ付テハ、御伺ス
ルコトガ出来ナカッタノデアリマスガ、私ハ
是ガ即チ根本ノ問題デアルト思フノデアリ
マス、私ハ少クトモ此小作立法ノ問題ガ先
ニ出テ、或ハ少クトモ一緒ニ出ナケレバナ
ラナイモノト思フノデアリマシテ、此小作
立法ノ問題ト、只今ノ所謂此自作農創設ノ
問題ト、相乖離スルモノデアリマセヌ、
寧ロ相連シテ行クベキモノダト思フノデア
リマシテ、サウスルノデナケレバ、私ハ小
作爭議ノ對策ト云フモノハ當ヲ得タル途ヲ
講ズルコトハ出来ナイモノダト信ズルノデア
リマス、政府ハ小作爭議ノ問題ニ對シテ、
小作立法主義ト云フモノヲ、自作農創定
主義ト云フモノヨリモ輕シト云フ御考ヲ御
持ニナシテ居ルノデアルカ、果シテ然リト致
シマスナラバ、小作爭議ノ解決ノ如キハ、前
途益々困難ヲ來スモノト考ヘザルヲ得ナイ
ト思フノデアリマス、此點ニ對スル政府ノ
御所見ヲ御同致シタイノデアリマス、ソレ
カラ第二點ハ、是ハ先刻來段々質疑應答ガ
繰返サレテ居ルコトデゴザイマスレドモ
念ノ爲ニ重ねテ唯簡單ニ御同致シタイノデ
アリマスルガ、本法案ヲ解釋致シテ見マス

ルト、是ハ國家及小作人ノ負擔ニ依テ、結
局ニ於テ地主ヲ保護スル結果ニナリハスマ
イカト云フ疑ヲ、依然トシテ私ハ懷カザル
ヲ得ナイノデアリマス、何故カト申シマス
ルト、耕地ノ價格ト云フモノハ御承知ノ通
リ近年段々下テ參テ居リマス、大正八年
ノ頃迄ハ騰貴ノ一方デアリマシタガ、大正
八年頃ヨリ以後段々下テ參ルノデアリ
マス、然ルニ茲ニ政府ガ毎年三千万圓ト云
フ巨額ノ費用ヲ出シマシテ、自作農ノ維持
創定ニ當ラウト云フコトニナリマスルナラ
バ、所謂耕地ノ下テ來ル傾向ト云フモノハ
止マルノデアリマス、止マリマスルノミナ
ラズ、寧ロ將來ニ於テハ、耕地ノ價格ハ上
テ行クノデハナイカト思フノデアアル、是ハ
私共ノ素人流入ノ考デアアルカモ知レマセヌ
レドモ、經濟ノ原則デナカラウカト考ヘル
ノデアリマス、サウ致シマスナラバ、將來
ハ段々價格ガ下テ來ルニ隨テ、小作料ト
云フモノガ漸減ノ傾向ガアリ、段々小作料
ガ下テ參リマシテ、小作人ノ負擔ガ減テ
行クニ拘ラズ、茲ニ政府ガ年々三千万圓ノ
金ヲ支出セラレテ、前後三十五箇年ニ亘テ
御支出ニナルノデアルト致シマスナラバ、
私ハ結局ニ於テ小作人ガ將來ニ於テ得ベキ
所ノ耕地ノ低下ニ依テ、小作人ハ不當ノ損
害ヲ受ケルモノデハナイカト私ハ思フノデア
リマス、此點ニ付テ疑ヲ質スノデアリマ
ス、間違ガナケレバ結構ナラバデアリマス、
隨テ先刻來モ屢々質問應答セラレタノデア
リマスガ、斯ウナテ參リマス、結局所謂
地主ノ土地賣逃ガ云々ノ問題ニ迄及バザル
ヲ得ナイコトニナルノデアリマス、今日御
承知ノ通り、小作爭議ノ刺激ノ然ラシムル
所デアアルカドウカ知レマセヌケレドモ、地
主ハ所謂土地ヲ持餘シテ居ル者ガ多クナ
テ來タノデアリマス、又地主ノ土地ノ價值
ニ對スル觀念モ段々變テ參リマシテ、國家
的ノ觀念、歴史的ノ觀念カラ土地ヲ所有シ
テ居ラウト云フノデハナク、土地ヲ所有シ
テ居ルコトヲ一種ノ收益ノ客體トシテ考ヘ
テ居ルヤウナ傾向ガ段々多クナテ來タト
云フコトハ、明瞭ナル事實デアラウト私ハ

信ズルノデアリマス、斯ウ云フヤウナ傾向
ガアルノデアリマスカラ、斯ノ如キ傾向ガア
ル際ニ、即チ三千万圓カラノ金ヲ年々出シ
テ、所謂自作農ヲ創定スルコトニナリマス
ナラバ、結局所謂小作人ノ將來耕地ノ低下
ニ依テ得ベキ利益ヲ奪フコトニナリハシナ
イカト云フコトヲ思ハザルヲ得ナイノデア
リマス、是レ即チ此法案ト云フモノニ付テ
政府ハ其點ヲ御考デアアルカドウカ知レマセ
ヌケレドモ、結局ニ於テ地主ノ土地賣逃
ト云フモノヲ保護スル結果ニナリハシナイ
カト云フ疑ヲ持タザルヲ得ナイノデアリマ
ス、第三ニハ、本法案ニ依リマシテ、小作人
ノ負擔ト云フモノガ却テ益々殖エテ參リマ
シテ、小作人ヲ窮地ニ陥レル結果ニナリハ
シナイカト云フコトヲ憂フルノデアリマス
本法案ニ依リマス所ノ年賦償還金ノ割出
方法ハ、何ヲ標準トシテ御決メニナシタノカ
知レマセヌケレドモ、世間傳フ所ニ依リ
マスナラバ、現行法ノ大體ノ小作料、是ハ
先刻農林大臣ノ御答辯ノ中ニモアッタヤウ
デアリマスガ、現行ノ小作料ト云フモノヲ
標準トシテ土地ヲ所有スルコトニナシタ
ラバ、小作人ガ地租其他ノ公課及地方ノ諸
費用ト云フモノヲ負擔シテモ、現在ノ小作
料ト云フモノヲ納メテ行クナラバ、結局三
十五年ノ後ニ確實ニ土地ノ所有權ヲ獲得ス
ルコトガ出来ルヤウニスルノダト云フ御説
明ノヤウニ伺フノデアリマスガ、然ラバ是
ハ先刻ノ話ト關聯スルヤウニナルノデアリ
マスガ、而モ今日ニ於テハ低落ノ傾向ニ
向テ居ル、小作料モ低落ノ傾向ニ向テ居
ル、又學者ノ説ヲ聽キマシテモ、小作料ニ
於テハ尙ホ遞減ノ餘地ガアルヤウニ聞イテ
居ルノデアリマス、然ルニ本法案ニ依リマ
ス、三十五年ノ將來ニ互ル所ノ小作料ノ
問題ヲ、今日ノ程度ニ於テ決メテシマウノ
デアアル、サウ致シマス土地價ノ低落ニ依
ル所ノ土地ヲ獲得セントスル所ノ小作人ノ利
益、小作料ノ低落ニ依ル所ノ小作人ノ將來
ノ利益ト云フモノガ、全然本法案ニ依テ犧
牲ニ供セラレル結果ニナリハシナイカト思
フノデアリマス、斯ウ云フ風ニナル上ニ、

小作人ト云フモノハ從來ハ小作人トシテ田
モ畑モ持タナイモノデアリマスカラ、所謂
水呑百姓ト云フ立場カラ致シマシテ、所謂
色々ノ費用、交際費ト云フモノモ掛ラズニ濟
ンデ居ルタモノガ、土地ヲ所有致シマスレバ
土地ノ所有者トシテノ立場カラ、色々ノ負
擔ヲシナケレバナラヌコトニナル、只今迄
ノ小作料デモ之ヲ納メルコトガ困難デアリ
マスガ故ニ、小作爭議ト云フモノガ頻發致
シマシテ、國家社會全體ノ大問題トナシタ
ルコトハ申上ゲル迄モナイノデアアル、而モ
此上ニ尙ホ小作人ノ負擔ガ——金額ハ大シ
タモノデハナイカモ知レマセヌガ、小作人
階級ノ負擔トシテハ可ナリ重イ負擔ガ將來
土地ヲ所有スル爲ニ殖エテ參リマスナラ
バ、今日スラ窮地ニ陥レテ居ル小作人ト云フ
モノハ、將來益々窮地ニ陥リハシナイカト云
フコトヲ思ハザルヲ得ナイノデアリマス、
斯ウ致シマス上ニ、又所謂定期ニ於テ年賦
償還金ヲ支拂フコトガ出来ナイ、色々ナサ
ウ云フ風ニ故障ガ起リマシタ場合ニ於テバ、
或ハ土地ヲ取上ゲラレルトカ、外ニ賣渡サ
レルト云フヤウナコトニナシタ參リマス、
折角小作人ガ土地ヲ欲シイ爲ニ色々ノ算段
ヲ致シマシテ、本法案ニ依テ土地ヲ求メヤ
ウト致シマシテモ、確實ニ土地ノ所有權ヲ
獲得スルコトガ出来ナイヤウニナリマスナ
ラバ、從來地主對小作人ノ間ニ起リツ、ア
ル所ノ階級的反感、憎惡ト云フモノガ、聽テ
ハ是ガ國家ニ轉嫁サレル結果ニナリハシナ
イカト云フコトヲ虞レルノデアリマス、斯
ウ云フ風ニナリマスナラバ、是ハ農村ノ實
情ヲ御承知ノ御方ハダナタデモ御考ニナ
シテ居ルコトダト私ハ思ヒマスガ、今日ノ農
村ノ疲弊困憊ノ狀態ト云フモノハ、サラダ
ニ農民ノ心理ヲシテ惡化セシメントスル傾
向ガアル、斯ウ云フ實狀ニ在ルノデアリマ
スカラ、若シ將來杞憂デアラナラバ結構デ
アリマスレドモ、サウ云フ風ニナリマシ
タナラバ、國家ノ爲ニ非常ニ由々敷大事デ
アルト信ズルノデアリマスガ、此點ニ對シ
テ政府ハ如何ナル御考ヲ持テ居ルノデア
リマスガ、御同致シタイノデアリマス、以

上三點ニ付テ政府ノ御答辯ヲ求ムル次第アリマス

○副議長(清瀬一郎君) 山本農林大臣

○國務大臣(山本悌二郎君) 鈴木君ノ御尋

ニ對シテ御答ヲ致シマス、本案立案ノ趣意ハ元來何レニ在ルノデアルカ、農村振興ト云フコトデアルカ、或ハ小作爭議解決ノ爲デアルカト云フヤウナ御尋デゴザイマシタガ、大體ニ於キマシテ小作爭議ノ解決ト云フガ如キコトハ、鈴木君モ再三御話ノアル通り、是ハ小作立法ニ俟タナケレバナラヌト思フテ居リマス、小作立法ヲ政府ガ今ヤ銳意研究中デアルト云フコトハ、前回鈴木君ノ御尋ニ對シテ申上ダテ置イタヤウナ次第デアリマスルガ、之ヲ何時提出スルカト申セバ、今回ノ議會ニハ間ニ合ヒマセヌケレドモ、近キ機會ニ於テ之ヲ提出スルマデノ運ビニ致シタイト云フ誠意ヲ持テ居リマス、而シテ本案ノ目的ハ、大體ニ於テ無論生産狀態ヨリ見タル農村振興ニ在ルコトハ、申スマデモナイノデアリマスルガ、其結果ト致シテ、小作爭議ニモ相當良好ナル結果ヲ齎スト云フコトヲ、當局ハ信ジテ居ルノデアリマス、ソレカラ地價ハ將來下落スベキモノデアリ、又下落スベキ傾向ヲ持テ居ルノデアアルガ、ソレヲ今日ノ地價ヲ以テ、之ヲ小作人ニ取得セシムルト云フコトニナツタナラバ、是ハ即チ地主ヲ得シテ小作人ヲ損セシムルモノデアナイカト云フヤウナ御尋ガゴザイマシタガ、地價ハ大正八年ノ非常ナル暴騰ノ後ヲ受ケテ、大正九年ニ非常ニ下落ヲ致シタ、其以降ハズト今日ニ至ルマデ、大體平衡ヲ保テ居リマスルノデ、之ガ將來大ニ下落シヤウト云フガ如キコトハ、當局トシテハ未ダ考ヘテ居ラナイノデアリマス、第三ニハ、小作料モ同じク將來下落スル、低下スル傾向ヲ持テ居ルガ、ソレヲ今日ノ小作料ヲ以テ直ニ賣買ノ契約ヲ結バセルト云フコトデアッタナラバ、是亦小作人ヲ苦メルモノデアナイカト云フ御尋デアリマシタガ、小作料ガ低下シテ行クト云フコトニ付テハ、當局ニ於テハ未

ダ確タル根據ヲ以テ小作料ガ低下シテ行ツノデアアルカト云フ豫定ノ下ニ、茲ニ法制ノ考ヲ定メルト云フ譯ニハ參ラヌノデアリマス、私共ト致シマシテハ、大體小作料ノ問題ハ、小作爭議ノ解決如何ト云フコトニ係ル問題ト思ヒマスカラ、小作立法ト相伴ウテ是ガ適當ノ程度ニ落著クモノト信ジテ居リマス

○鈴木文治君 尙ホ不滿ノ點ハゴザイマスルケレドモ、巨細ノ點ニ互リマシテハ、委員會ニ於テ御尋申上ダタイト思ヒマス、是ニテ私ノ質問ハ打切ト致シマス

○副議長(清瀬一郎君) 栗原彦三郎君

(栗原彦三郎君登壇)

○栗原彦三郎君 只今上程セラレテ居リマスル自作農創設維持助成基金特別會計法案ト云フ非常ニ長イ案ニ付テ、詳細ナル質問ヲ試ミタイト考ヘテ居ラヌノデアリマスルガ、先輩小山先生、田中先生、其他鈴木君ノ質問等モアリマシテ、大體私ノ問ハント欲スル所ヲ御問ニナツテ居リマスルガ故ニ、私ハ極ク簡單ニ三四點ク御質問申上ダタイト思フノデアリマス、此機會ニ於テ特ニ諸君ニ一言申シテ置キタイ事ハ、白魚ノヤウナ手ヲシテ労働問題、或ハ農村問題ヲ説ク者ヨリ、私ノヤウニ臍臍ダラケノ手ヲシテ、長イ間農業労働ニ從事致シ、粒々辛苦ノ體驗ヲ持テ、農民ノ利福ノ爲ニ戰ハントスル者ノ痛切ナル叫ヲ、御聽キ願ヒタイト云フコトデアリマス(拍手)自作農ガ年々小作農ニナリ、或ハ農業労働者トナツテ行ク者ノ數ガ、非常ニ多イコトハ、一面ニ於テ何等ノ目的モナク、都會ニ集テ來ル労働者ガ多クナル結果トナリマシテ、或ハ失業問題ノ上カラ、都市政策ノ上カラ、總テノ點カラ考ヘマシテ、國家ノ爲ニ憂慮ニ堪ヘナイ事デアリマス、併ナガラ此自作農ガ年々減少シテ行クト云フ此事實ニ對シテ、如何ナル方法ヲ以テ之ヲ保護シテ行カト云フ事ニ付テハ、私ハ農業保險ノ制度ヲ實施スルヨリ外ニ途ガナイト云フコトヲ確信致シテ居ル者デアリマス(ソレハ質問デアリマスカト呼フ者アリ)立派ナ質問デアリマスカラ

御聽キ下サイ、私ハ農村ニ生レ、長イ間農業労働ニ從事致シテ居リマシタ關係カラ、自作農ガ自作農タルノ地位ヲ維持スル爲ニ拂フ所ノ苦心ト、努力ニ對シテハ、自カラ經驗ヲ致シテ居ル所ノ一人デアリマス、而シテ農村ニ於テ自作農ガ減ビテ行ク所ノ狀態ヲ研究致シマシテ、又歐羅巴ニ於ケル農業保險發達ノ徑路ニ照シマシテ、我國ニ於テモ農業保險ヲ是非實施シナケレバナラナイト云フコトヲ痛感致シテ居ル者デアリマス(質問デアリマスカト呼フ者アリ)質問デアリマス、農業保險ヲ一度實施セラレマシタナラバ、自作農ガ減ビテ小作農ニナリ、農業労働者トナルト云フ憂ガ、全ク除カレバカリデナク、只今上程セラレテ居リマス所ノ、自作農創設案ガ實施セラル、ヤウニナルガ爲カハ分リマセヌガ、假ニ實施セラレタト致シマシテモ、小作農カラ自作農ニ漸ク引上ダタモノガ、再び田畑ヲ失フテ小作農ニナルト云フ心配ガナイノデアリマスルガ、若シ農業保險ノ制度ガ實施セラルルト云フコトデナケレバ、萬ガ一ニモ此法案ガ通過シ、此法案ノ實施ニ依テ、自作農ガ澤山出來マシテモ、農業上ノ不慮ノ災害、或ハ病氣或ハ火災、或ハ兵役ニ服シテ農業ヲ爲スコトガ出來ナクナツタト云フヤウナコトデ、忽チ田畑ヲ失ヒ、家ヲ失ヒ、小作人トナル、更ニ零落シテ農業ノ日傭人トナル、已ムヲ得ズ故郷ヲ離レテ労働生活ヲシナケレバナラナイト云フヤウニナルノデアリマス、政府ハ既ニ農業保險ノ一部デアリマス所ノ家畜保險法ヲ提案シ、又林業保險ヲ提案スルト云フ御考ヲ以テ、現ニ各府縣ニ對シテ、林業保險實施ノ考ヲ以テ、林業保險ニ對スル豫備ノ知識ヲ命ジテアルノデアリマス、自作農維持ノ上ニ唯一無二ノ有效ナル制度デアアル所ノ、又本案ト姉妹關係ヲ持タナケレバナラヌ所ノ、保險制度ヲ御提案ニナラナイト云フノハ、抑、如何ナル理由デアアルカ、是ガ私ガ政府ニ問ハントスル所ノ第一ノ質問デアリマス(早クヤレ早クヤレト呼フ者アリ)……農業保險ナドニ付テ御知識ヲ持テ居ラナイ所ノ方ニガ、餘リ

大キナコトヲ言ハナイヤウニ御願致シマス——今ヤ世界ヲ通ジテ失業問題ニ悩マサレナイ國ハナイノデアリマスルガ、列國ノ植民政策モ亦甚シク行詰リマシタ結果、何レモ内地植民ニ腐心シツ、アル所ノ狀態デアリマスガ、我國ニ於テモ、外ニ適當ナル植民地ヲ得ルコトガ出來ナイ以上ハ、失業問題ニ關シマシテハ、世界ノ現勢ニ順應致シマシテ、内地植民ニ付テ相當ノ考慮ヲシナケレバナラナイノデアリマス、ソレヨリ更ニ大切ナルコトハ、農村ヨリ失業者ヲ出サナイト云フコトデナケレバナラナイト考ヘルノデアリマスガ、政府ハ開墾助成法ニ依テ耕作地ノ擴張ヲ圖リ、機械農業獎勵ニ依テ、農村經濟ノ改善ヲ圖ラントヤラレテ居ルノデアリマスガ、食糧問題ヤ農産物ノ生産費等ノ點カラスレバ、是亦無理ナラヌコトデアアルガ、今日ノ農村ニモツト適切ナル所ノ問題ハ、現在ノ農民ヲシテ其生活ヲ安定セシムルト云フコト、即チ細ニナガラモ、現在ノ農民ヲシテ安心ヲシテ、現在ノ農村生活ヲ繼續シテ行クトノ出來ルヤウナ、方策ヲ講ズルト云フコトデナケレバナラナイノデアリマス、是ハ我國現下ノ農村社會問題ニ對スル最モ緊要ナル施設デアリマスルガ、農家ノ經濟ヲ安定シ、農民ヲシテ安心シテ農村生活ヲ繼續セシメ得ルノハ、實ニ農業保險制度ノ實施ノ外ハナイト信ズルノデアリマス、政府ハ農業保險ヲ實施スルノ御考ハナイカ、是レ私ノ質問ノ第二點デアル、政府ハ本法ノ施行ニ依テ三千万圓迄ノ資金ヲ投ジテ、多數ノ自作農ヲ創設セントスルノデアアルガ……

(此時發言スル者多シ)

○副議長(清瀬一郎君) 靜肅ニ願ヒマス

○栗原彦三郎君(續) 本法ノ御陰ニ依テ(原稿ヲ讀ムナト呼フ者アリ)——讀マナクテモ出來ルノデアアルガ、便宜上讀ムノデアアルカラ、諸君ガ長クヤレト言ヘバ、聊カ研究シテ居ル所ガアルカラ、何時間デモヤレマスカラ御安心ヲ願ヒマス——政府ハ三年三千万圓或ハソレ以上ノ金ヲ掛ケテ、多數ノ自作農ヲ作ラントセララル、ノデアリマ

スルガ、然ラバ如何ナル方法ニ依テ此自作
農ヲ保護シテ行カウト云フノデアリマス
カ、農業ハ皆様モ御承知ノ通り、他ノ商業
ヤ工業トハ違テ、家ノ中デ作業スルコトノ
出来ナイ仕事デアリマス、廣イ野原ニ於テ
作業シナレバナラナイモノデアリマスカ
ラ、或ハ風ノ害、或ハ水害、或ハ旱害、或
ハ蟲ノ害、或ハ雹ノ害、或ハ霜ノ害、或ハ
雪ノ害等、色々ノ害、即チ氣象上ノ不慮ノ
災害ニ依テ非常ナル禍ヲ被ルモノデア
ル、又はバカリデナク働イテ居ル所ノ其主
人公ガ病氣ニ罹リ、或ハ入替ヲスルト、斯
様ナコトニ依テ農業ヲ爲スコトガ出来ナイ
ト云フヤウナ場合ガ澤山ニ生ズルノデア
リマス、此場合ニ於テ折角拵ヘマシタ所ノ自
作農ガ其生活ヲ維持シテ居ルコトガ出来ナ
イ爲ニ、再ビ小作農トナリ、或ハ農業労働
者トナリ、更ニ零落致シマスレバ流浪労働
者トナラナクバナラナイノデアリマスル
ガ、折角多クノ小作農ヲ拵ヘマシテモ、之
ヲ保護シテ之ヲ維持スル所ノ方法ガ講ゼラ
レナクバ、佛造テ魂ガ入ラナイト云フ結果
ニナルノデアリナカ

〔此時發言スル者多シ〕
○副議長(清瀬一郎君) 靜肅ニ願ヒマス
○栗原彦三郎君(續) 是レ私ガ政府ニ問ハ
ントスル所ノ第三點デアリマス、モウ一點
政府ニ御伺シナクバナラナイコトハ、彼
ノ足尾銅山ニ於ケル鑛毒ノ爲ニ、其損害ヲ
被リツ、アリ、或ハ又近キ將來ニ於テ非常
ナル禍ヲ被ラナクバナラナイ所ノ利根
川、渡良瀬川沿岸ニ於ケル栃木、群馬、埼
玉、茨城、千葉、東京、一府五縣十五郡ニ於
ケル七八万町歩ニ渉ルアノ土地ニ對シテモ
政府ハ自作農ヲ拵ヘヤウトスルカ否カト云
フコトヲ御伺シタイノデアリマス
〔此時發言スル者多シ〕

○副議長(清瀬一郎君) 靜肅ニ願ヒマス
○栗原彦三郎君(續) 諸君、足尾銅山ニ於
ケル鑛毒ノ狀態ガ如何ナル狀態ニアルカト
云フコトヲ簡單ニ申上ゲマシテ、諸君ノ御
參考ニ供シマセウ(參考トハ何ダ)ト呼フ
者アリ) 今足尾銅山ニ於ケル所ノ鑛毒ノ狀
態ハ、煙毒ト鑛毒トノ二ニ因テ非常ナル
災ヲ受ケテ居ルノデアリマスルガ(ソレガ
質問カ)ト呼ヒ此時發言スル者多シ) 諸君靜
ニ聽キ給ヘ——足尾銅山ニ於ケル所ノ鑛毒
ノ現狀ヲ申上ゲマスルナラバ……
〔ソノナ事ヲ申上ゲナクテモ宜イ〕ト
呼ヒ其他發言スル者多シ)

○副議長(清瀬一郎君) 靜肅ニ願ヒマス
○栗原彦三郎君(續) 足尾ニ於テ毎日其鑛
業ニ依テ非常ニ猛烈ナル毒ガ少クとも一日
ニ七八百坪若クハ千坪内外宛、非常ニ猛烈
ナル毒泥、或ハ毒砂礫ガ出ルノデアリマシ
テ、是ガ明治三十年七月二十五日時ノ鑛山
監督局長南挺三カラ鑛業主古河市兵衛ニ對
シテ指令ヲ發シタ所ノ豫防命令ニ依テ……
〔此時發言スル者多シ〕鑛毒——堆積場ニ
溜メテ居リマスル所ノ毒ノ數量ハ、其當時ニ
於テ三百五十万立方坪ニ達シテ居ルノデア
リマス、其毒ガドノ位猛烈ナル毒デアルコト
言ヘバ、明治三十年ニ堆積シテアツタ所ノ毒
ハ、既ニ二十年三十年ノ間、雨ニ曝サレタ
リ風ニ曝サレテ居ルニ拘ラズ、今日……
〔此時發言スル者多シ〕非常ニ猛烈ナル所ノ
毒デアリマス、此毒ガ足尾銅山ノ中段デア
ル所ノ即チ渡良瀬川ノ水源地デアル所ニ、
少クとも三百五十万立方坪以上ノモノガ積
重テアルノデアルガ、是ガ一朝流れ出シテ
來マスレバ、栃木、群馬、埼玉、茨城、千
葉、東京、一府五縣十五郡ハ悉ク毒砂漠ト
ナツテシマウノデアリマス、如何ニ政府ガ努
力ヲ致シマシテ自作農ヲ創設致シマシテ
モ、其方面ニ創設致シマスコトハ此雨雪、
山津浪或ハ大洪水等ニ依テ二年、三年、五
年、十年ノ後ニ當然受ケナクバナラヌ、
此非常ナル被害ヲ受ケマシタナラバ、何モ
ナラナクナツテシマウデアリマセウカ、政
府ハ其目前ニ非常ナル被害ヲ見ツ、アル所
ニ、曾テ發シタル鑛毒被害地トシテ豫定サ
レル其方面ニ對シテ、自作農ヲ創設スル御
考ガアルカドウカト云フコトヲ御聞致シタ
イノデアリマス、尙ホ最後ニモウ一ツ御尋
致シタイコトハ、自作農ト云フモノハ永年ノ
間新聞紙上ヲ賑ハシタ所ノ重大ナル問題デ

アリマスガ故ニ、私ハ政府ノ提案サレル所ハ
少クとも人ヲ驚カスニ足ル位ノ、非常ニ立派
ナ案デナクバナラヌト考ヘテ居タノデア
リマス、然ルニ其提案スル所ヲ見マスル
ト、僅ニ八箇條、昔ハ法三章ト云フコトガア
リマシタガ、此僅ニ八箇條ニ於テ農村社會
政策ヲ實行シ、之ニ依テ農村ヲ安定シ、農民
ヲシテ安心セシムルヤウナ大抱負ノ實行ガ
出來ルト農林大臣ハ御考ニナツテ居ルノデ
アリマスカ、年々三千万圓以上ノ入ツ使ツ
行クト云フ大キナ説明ハアルガ、ドウ云フ風
ニ使フノコト云フ細カイコトハ一ツモ御示
シナツテ居ラナイ、即チ前達議員ハ、俺ガ
借金ヲスルカラ連帶保證人ニナレ、併シ其
金ハ吾々ガ勝手ニ使フノデアルト、斯ウ云
フ法案デアリマス、斯様ナ亂暴暴積ナ法
案、即チ昔ハ由ラシムベシ知ラシムベカラ
ズト云フコトガアツタガ、今日其筆ヲ應用
シテ言ヘバ、細カイコトハ皆勅令ニ由ルノ
デアル、即チ議員ハ借金ノ保證人ニナレ、
金ハ此方デ使フノデアルト、斯様ナ案ヲ御
出シニナルコトハ、御無理デハナイカ如何
カト云フコトヲ御聞キスルノデアル、吾々
ハ地方ヘ參リマシテ何ガ故ニアノ案ニ賛成
シタカト云フコトヲ問ハレマシテモ、コン
ナモノニ賛成シタト云フコトハ出來ナイノ
デアルカラ、寧ろ政府ハ斯様ナ案ハ引込マ
セテ、モット綿密詳細ナル案ヲ出シテ、本當
ニ吾々ガ喜ンデ協賛シ得ルヤウナモノヲ出
ス御考ガ有ルカ無イカト云フコトヲ御尋致
スノデアリマス、以上私ノ質問シタ四點ニ
付キマシテ、十分ナル御答辯ヲ下サルヤウ
御願致シマス
〔國務大臣山本錦二郎君登壇〕

○國務大臣(山本錦二郎君) 只今ノ御尋ニ
御答致シマス、第一ノ御尋ハ、農業保險ノ
方ガモット大切デハナイカ、自作農法案ヲ出
スニ先ツテ、若クハ之ト同時ニ、農業保險法
ヲ制定スル必要ガアルデハナイカト云フ御
尋デアリマスガ、既ニ畜産保險法ヲ本年提
案致シテ居リマス、森林保險ニ付キマシテ
ハ今殆ど成案ヲ得テ居リマスアレドモ、此
議會ニ提出スル迄ニハナルマイと思ヒマ

ス、一般農業保險ニ對シテハ頗ル困難ノ問
題デアリマスカラ、是ハ今研究中デアリマ
ス、農業保險ノ必要ナルコトニ於テハ、當
局ハ決シテ否認ヲ致シマセヌ、其次ニハ農
村ノ農民ノ生活ノ安定ヲ期スルコトガ先決
問題デハナイカ、自作農案ヲ出スニ先ツテ、
農村ノ生活安定ニ關スル方法ヲシナクバ
ナラヌト云フ御質問デアリマシタガ、農村
ノ農民ノ生活ノ安定ヲ圖ルト云フ計畫ニ對
シマシテハ、當局ハ現ニ議會ニ提出致シマ
シタル豫算ノ中ニモ各種ノ計畫ガ現ハレテ
居リマスカラ、ソレヲ御覽下サルヤウニ願
ヒタイ、ソレカラ鑛毒地ニ自作農ヲ設定ス
ルノ意思ガアルカドウカト云フ御尋デアリ
マシタガ、是ハ鑛毒地ノ中デモ、自作農ヲ
設定スルニ適當ナル所ハ之ヲ設定致シマス、
適セザル所ハ設定ヲ致シマセヌ、ソレカラ
案ノ綱領ガ確ト能ク分ラナイ、箇條ガ少
イカラ分ラナイト申サレマスガ、此立法ノ
組立ハ此法案ニ悉ク具備シテ居ルノデアリ
マス、是ガ運用ノ綱領ニ付キマシテハ、詳
シイコトハ委員會ニ於テ申述ベルコトニ致
シマス
○副議長(清瀬一郎君) 以上ヲ以テ質疑ヲ
終了致シマシタ——日程第十五、右議案ノ
審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シ
マス

第十五 右議案ノ審査ヲ付託スベキ委
員ノ選舉
○原惣兵衛君 本案ハ政府提出肥料管理法
案外一件ノ委員ニ併セ付託セラレムコトヲ
望ミマス
○副議長(清瀬一郎君) 御異議アリマセヌ
カ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ原君ノ動議ノ如ク決シマシタ
カ
○原惣兵衛君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ
提出致シマス、即チ此際、日程第二十八、
昭和三年勅令第二百九十九號、治安維持法中
改正ノ件、承諾ヲ求ムル件ヲ繰上ゲ議題ト
爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラ

○原惣兵衛君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ
提出致シマス、即チ此際、日程第二十八、
昭和三年勅令第二百九十九號、治安維持法中
改正ノ件、承諾ヲ求ムル件ヲ繰上ゲ議題ト
爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラ

レンコトヲ望ミマス
○副議長(清瀬一郎君) 御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ原案ノ動議ノ如ク決シマシタ、日程ハ變更サレマシタ、即チ第二十八、昭和三年勅令第二百二十九號、即チ治安維持法中改正ノ緊急勅令ニ付キ承諾ヲ求メルノ件ヲ議題ト致シマス、委員長ノ報告ヲ求メマス、委員長井坂豐光君

第二十八 昭和三年勅令第二百二十九號

〔治安維持法中改正ノ件〕(承諾ヲ求ムル件)

委員長報告

一 昭和三年勅令第二百二十九號(治安維持法中改正ノ件)(承諾ヲ求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和四年二月二十八日

委員長 井坂 豐光

衆議院議長元田肇殿

〔井坂豐光君登壇〕

○井坂豐光君 昭和三年勅令第二百二十九號、治安維持法中改正ノ件、承諾ヲ求ムル件ノ委員會ノ經過ヲ御報告致シマス、本委員會ハ先月十九日ヨリ二十八日迄ノ間ニ於テ六回、此時間數十七時間ト十分、速記録ノ頁數百五十頁ニ達シテ居ルノデアリマス、委員中ニ於テ、齋藤君、勝田君、横山勝太郎君、比佐君、内ヶ崎君、斯波君、原夫次郎君、水谷君、宮古君、中谷君等ノ熱心ナル質疑ガアリマシテ、政府ハ一々之ニ對シ應答ヲ致サレマシタ、今本案ニ付キマシテ、各委員諸君ノ質疑ヲ御紹介スルコトハ到底長時間ヲ要シマス故ニ、本問題ニ付テ最モ緊要ナル所ノ質疑應答ヲ御報告致スコトニ致シマス、齋藤委員ヨリ本案ノ審議ヲ進メマスニ付キマシテ、政府ニ向テ參考材料ノ提出ヲ要求サレマシタ、其一ハ明治二十三年以來、屢々緊急勅令ガ發布セラレテ居リマス、此緊急勅令ノ書類ト、ソレカラ議會ニ於テ承認シタモノモアリ、又不承認

ニ終タモノモアリマス、又審議未了ニ終タモノモアル、ソレヲ區別シテ提出ヲ願ヒタイ、其次ハ外國ニ於ケル國體變革ニ關スル犯罪取締法規、是ハ既ニ政府ヨリ吾々委員ニ提出サレテ居リマシタ所ノ治安維持法立法比較ヲ見マシテ、其不足ノ點ハ更ニ提出ヲ願フコト云フコト、第三項ハ、昨年檢舉サレマシタ、所謂共產黨事件、此事件ハ今ヤ全國ノ裁判所ニ於テ審理中デアリマス、既ニ第一審ノ判決ヲ受ケタル者モアリ、又受ケナイ者モアル、此緊急勅令ハ共產黨事件ヲ本トシテ現ハレタモノデアルト信ジテ居リマスカラシテ、共產黨ノ内容ハ如何ナモノデアルカト云フコトヲ知ルニ付テ、是非之ヲ見タイモノデアアル、故ニ共產黨事件ノ一件記録、ソレカラ此一件記録ニ含マレテ居リマス所ノ判決書ノ寫シ、被告人ノ住所、年齢、職業、判決書ニアリマスガ、判決書以外ニ、分リ易ク御記載ノ上提出ヲ願ヒタイト云フ三ツノ材料ノ提出ノ要求ガアリマシタ、之ニ對シマシテ、政府ハ共產黨事件ノ記録ハ現在大部分ハ控訴中デアアル、事件未済デアアルカラシテ、記録全部ヲ提出スルト云フコトハ寔ニ困ル、併シ特ニ必要ナル判決ノ寫シ、ソレカラ被告人ノ住所、職業、年齡、職業、住所、是ハ既ニ公判ニ附セラレマシタル所ノモノニ付テハ提出致シマスガ、公判ニ付セナイモノニ付テハ提出スルコトハ御免ヲ蒙リタイ、ソレカラ豫審終結決定書ヲ提出サレルコトニ相成マシタ、ソコデ齋藤委員ハ政府ニ對シテ本案ニ對スル質疑ヲ開始サレタノデアリマス、同委員ハ本案ハ政府ハ治安維持法ノ改正ハ、昨年三月十五日ニ全國ニ互ニ齊ニ檢舉サレタル所ノ共產黨事件ニ鑑ミテ改正ヲ思付カレタモノデアアルカ、又該事件ト何等ノ關係ナクシテ此改正ヲ思付カレタモノデアアルカト云フ質疑ガアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ、共產黨事件ニ付テ現レタル事態ニ鑑ミテ、改正ノ必要ヲ認メマシタト云フ答ガアリマシタ、ソコデ齋藤委員ハ、共產黨事件ニ鑑ミテ治安維持法ノ改正ヲ發議セラレタト云フモノナラバ、此共產黨事件ハ治安維持法

中ノ刑罰ガ輕イカラ起タモノデアルト云フ、實際上ノ根據ガナクテハナラナイ、現在ノ治安維持法タケデハ不備デアアル、此不備ニ乘ジテ共產黨ノ如キガ斯ル不逞ノ行爲ヲ起スモノデアルト云フ、何ガ據ルベキ事實ガナクテハナラヌト云フコトノ質疑ヲ致サレマシタ、政府ハ、刑罰法規ハ適當ニ制定サレテ居リマシテモ、ソレガ爲ニ總テノ犯罪ヲ防グコトハ出來ヌト云フコトハ申ス迄モナイ、又如何ニ刑罰法規ヲ設ケテ居リマシテモ、絕對ニソレニ依テ犯罪ノ防止ガ出來ルト云フマデハ確信スルコトハ出來ナイ、少クトモ犯罪ヲ爲ス人ガ少クナルデアラウト云フコトハ豫期セラル、モノデアアル、國體ノ變革ヲ目的トスル結社ニ對シテハ、從來ノヤウナ治安維持法ノ如キ輕イ刑罰ヲ以テ之ニ臨ムト云フコトハ甚ダ面白クナイ、日本共產黨ノ如キ事態ガ發生シ得ナイモノ、治安維持法ノ科刑ガ其宜キヲ得ナイモノ、確ニ其一部分ヲ爲シテ居ルト考ヘルト云フ答辯デアリマス、其上ニ刑罰法規ヲ設ケ、ソレニ依テ總テノ犯罪ガ絕對ニ無クナルトハ考ヘテ居ラナイ、隨テ治安維持法ノ科刑ガ現在政府ガ考ヘテ居ル通りノモノガ初メカラ出來テ居リマシテモ、ソレニ依テ此法律ノ違反者ガ絕對ニ生ジナクモモノデアラウトハ毛頭考ヘテ居ラヌ、併ナガラ少クトモ日本共產黨ノ事件ノ如キ重大ナル事態ノ發生ハ、或ル程度迄ハ之ヲ減少シ得ルデアラウト云フヤウニ考ヘルノデアリマス(簡單々々)ト呼フ者アリ)又將來ニ於テモ此刑罰法規ヲ以テ臨シタナラバ、此法律ノ違反者ガ絕對ニ出來ヌト考ヘテ居ル譯デハ無論ナイノデアリマス(簡單)ト呼フ者アリ)少クトモ國民ヲシテ警戒スル所アラシメテ、其事態ノ重イノ輕イ程度ニ止メルト云フコトタケハ出來ルノデアリマスト云フ答辯デアリマス(簡單々々)ト呼フ者アリ)重要法案デアリマスカラドウカ御静聽ヲ願ヒマス、ソコデ齋藤委員ハ政府ノ方デ緊急ノ必要ヲ認メマシタ事由トシテ、二ツノ事實ヲ舉ゲテ居ラレマス、其第一ハ、共產黨事件ノ檢舉ニ漏レタル所ノ殘

黨ガ、尙ホ活動ヲ繼續シテ居ルト云フコトガ一つノ事實デアアル、第二ノ事實トシテ舉ゲラレテ居ルハ、露國ノ第三「インタル」ナショナル」ガ、東洋勤務者共産大學ノ日本留學生ヲ續々歸朝セシメ、共產黨組織準備擴大ニ從ハシメル所ノ情報ガ到達シタ云フコトデアリマス、是等ノ事實ニ付テ詳細シキ所ノ説明ヲ求メラマシタ、ソコデ政府ハ第一ノ質疑ニ對シマシタ、檢舉ニ漏レタル所ノ首魁ガ凡ソ十人位デアリマス、是ハ秘密結社デアリマスカラシテ、政府ニ分テ居ル事實以外ニ分ラナイコトガ幾ラデモアルノデアリマスルガ、其後ノ檢舉ニ依リマシテ、其當時ノ分ラナクタ事實モ澤山分テ居ルノデアリマス、正確ニ申ス譯ニハ無論行カヌノデアリマスガ、兎ニ角政府ノ方デ之ガ確ニ關係ガアルト認メタ者デ、尙ホ檢舉シ得ザル者ガ其當時ニ於テ相當タノデアリマスガ、隨テ是等ガ果シテ檢舉ニ依テ全然屏息シテシマフカ、或ハ活動ヲ續ケテ居ルト云フ、具體的ノ事實ハ舉ラナクタノデアリマス、ケレドモ先ヅ活動シテ居ルデアラウト推測シテ、サウ云フ者ガアル以上ハ、急イデ治安維持法ノ改正スルノ必要ガアルノデアラウト云フノデ、特別議會ニ改正案ヲ提出致シタノデアアル、然ルニ議會開會後ニ至リマシテ、活動シテ居ルト云フ事實ガ段々舉テ參リマシテ、緊急勅令制定ノ奏請ヲ致シタ六月十二日ニ突然分テ居ルハナイ、其後二段々分テ來マシテ、其事實ガ相重テ參リマシタカラ、六月十二日ニ急々緊急勅令ヲ制定スル外ハアルマイト云フコトニナクタノデアリマス、日本共產黨ノ殘黨ガ如何ナルコトヲ致シタカト云フ概略ヲ申シマス、彼等ハ我が皇室ノ帝國議會全部ニ對スル特別ノ御優遇ニ對シテ非議致シ、我が國民舉テ感激スル最大盛儀ノ舉行ニ對シテ絕對ニ反對ヲ唱道致シマシタ、尙ホ國體ノ變革ヲ盛ニ主張シマシテ、彼等ハ彼等ノ所謂大衆行動ニ依テ、帝國議會、府縣會ヲ破壞スベキコトヲ主張シ、彼等ハ彼等ノ檢舉ニ對シ、虛構ノ事實ヲ流布シテ、暴力對抗ヲ宣傳シタノデアリ

マス、彼等ハ共產黨檢舉ヲ暴力ニ依テ奪回
センコトヲ煽動シタルアリマス、彼等ハ
軍隊殊ニ支那派遣軍ノ攪亂ヲ煽動シタル
アリマス、彼等ハ支那ニ於ケル本邦人ノ
虐殺ヲ當然ノ事デアリト致シタル、支那
出兵ニ對スル労働者、農民ノ反抗ヲ煽動シ
タルアリマス、彼等ハ有ル爭議ノ大衆行
動ヲ煽動シタルアリマス、彼等ハ暴力
ニ依ル世界革命ヲ煽動シタルアリマス、
彼等ハ第三「インターナショナル」ノ指揮ヲ
受ケマシテ、我國ニ於テ労働者、農民ノ獨
裁ニ依ル民衆の革命ノ政府樹立ヲ唱道シタ
ルアリマス、サウシテ實行手段トシテ彼
等ノ組織ノ再興ニモ著手致シタル、概括
的ニ申シマス、斯様ナ事實ガ現レテ參リマ
シタルノ、彼等ガ愈々活動シテ居ル上云フ事
實ガ確メラレタ次第アリマス、第二ノ事
實情報ノ到著シタル所ハ内務省、外務省デ
アリマス、情報ノ出所ハ國家ノ爲ニ絕對ニ秘
密ニスベキコトデ、共產黨ノ行動ニ對スル
情報ガ何處カラ來ルト云フコトガ分レバ、
將來情報ガ來ナクナリマスカラ、此際上
ダナイ方ガ宜カラウト信ジマス、第三「イ
ンターナショナル」ガ留學生ヲ前後シテ日
本ニ歸ラシテ、黨ノ組織擴大ニ著手セシメ
ル模様ガアルト云フ情報ガ參リタルアリ
マス云フ答デアリマス

「簡單々々」ユツクリヤリ給ヘト呼ヒ
其の發言スル者多シ

○副議長(清瀬一郎君) 靜肅ニ願ヒマス

○井坂豐光君(續) ソレカラ齋藤委員ハ更

ニ問フ發シマシタ、其間ハ昨年三月十五日

ニ一齊ニ檢舉セラレマシテ、特別議會ガ開

會致シタルハ五月六日デアリマス、此間ニ

於テ五十日餘アルノデ、政府ノ方デ治安維

持法改正ノ必要ヲ認メラレテ特別議會ニ改

正案ヲ提出セラレタ、其當時ノ政府ノ考デ

ハ、改正案ハ必要デアルケレドモ、緊急ノ

必要ハナイト云フコトノ見込デアッタヤウ

ニ思ハレマスガ、是ハドウモ吾々常識上カラ

判斷シテ、斯ノ如キ大事件ガ檢舉セラレテ

カラ、五十日餘ノ間ニ於テ政府ガ治安維持

法ノ改正ノ必要ヲ感ゼラレタケレドモ、緊急

ニ改正スル必要ハナカッタト云フヤウナコ
トハ、常識上受取レヌデアリマス、此點ハ
如何デスト云フ質問デアリマス、之ニ對シ
政府ハ、治安維持法案ハ成ベク早く改正シ
タケレバナラヌト考ヘテ特別議會ニ提出
致シマシタ、其當時委員會ニ於テ、何故ニ
此短期議會ニ提出シテマデ改正ヲシナケレ
バナラナイカト云フ質問ガ屢、アリマシタ、
ソレニ對シテ政府ハ、共產黨ノ殘黨ガ尙ホ
活動シテ居ルモノト思ハレハ、隨テ速ニ之
ヲ改正シテ置クコトガ必要デアルト思フ
申シマシタ、其當時ニ於テハ、緊急勅令ヲ
出ス程度マデ緊急デアルトハ考ヘテ居ラナ
カッタデアリマス、是ハ申ス迄モナク、憲
法第八條ニ依ル緊急ノ場合ト云フ、極メテ
切迫シタル議會ヲ待タレヌト云フ緊急デ
アルコトハ申ス迄モナイコトデアリマス、
ソコデ政府ハ前議會ニ於キマシテハ、成ベ
ク急ガナケレバナラヌト云フコトハ、無論
考ヘナカッタノデ、特別議會ニ此案ヲ提出
致サナケレバナラヌ、次ノ議會マデ絕對ニ
待テヌト云フコトマデハ其當時ノ狀態デハ
考ヘ及バナカッタデアリマス、然ルニ前刻
申上タ事實ガ舉テ參リマス、是デハ到底
底次ノ議會迄待ツコトハ出來ヌ、一日モ早
ク法律ノ改正ヲ必要トスルト云フコトニ考
ヘマシテ、緊急勅令ノ發布ヲ奏請スルヤウ
ニナリマシタ次第デアリマス、ソコデ齋藤
委員ハ更ニ質疑ヲ續ケマシテ、緊急勅令ノ
根柢トナルベキ事實ガ前議會開會後デナケ
レバナラヌト云フ理窟ニ因レテ、斯ノ如キ
説明ヲセラル、ノデハナイカト思フ、故ニ
政府ハ治安維持法改正ノ必要ヲ認メラレ
タト云フ眞情ヲ、本委員會ニ於テ亦裸々ニ
説明ヲ願ヒタイト云フ質疑デアリマス、此
處デ政府ハ之ニ答ヘテ、齋藤君ノ御意見ハ
洵ニ親切ナコトデアリ、自分ハ此處ニ赤裸々
ニ事實ヲ申上ゲテ居リマス、議會ノ開會中
ニ於キマシテハ、成ベク早く此法律ヲ制定
シナケレバナラヌト云フコトデ、政府ハ短
期議會ニ拘ラズ法律ノ改正案ヲ提出致シマ
シタ、マダソレガ位ノ程度デアルト云
フコトハ政府ハ分、テ居ラス、共產黨ノ殘黨

ガマダ遺憾デアアルガ殘、テ居ル、彼等ハ活動
ヲ停止シナイノデアラウケレドモ、唯ドウ
云フ風ナ事ヲスルノデアアルカト云フコト
ハ、マダ確實ニ事實ヲ提テ居ラスノデアリ
マス、故ニ政府ニ於テ次ノ議會迄待タヌト
云フコトマデノ覺悟ヲ決メルダケノ材料ヲ
持テ居ラナカッタノデ、所ガ議會開會後
ニ到リマシテ、共產黨ノ殘黨ノ活動ガ中
ニ到リタルト云フコトノ證據ガ現レテ參リ
マシタ、ソコデ是ハ事態容易サラズト考ヘテ
居リマス中ニ、更ニ又露西亞ノ東洋労働者
共產黨大學ノ留學生ヲ續々歸朝セシメルト云
フ情報ニ接シタル次第デアリマス、是デハド
ウシテモ次ノ議會迄待ツコトハ出來ヌト云
フコトデ、已ムヲ得ズ此緊急勅令ノ發布ヲ
奏請シタルデアリマス、ソコデ齋藤委員ハ
更ニ質疑ヲ續ケラレマシテ言ハル、ノニ
ハ、特別議會開會後ニ於テ事實ガ漸次具體
的ニ分明ニナリ、此治安維持法ノ改正ヲシ
ナケレバナラヌ必要ヲ生ジ、緊急勅令ヲ發
布セラレタト云フ説明デアリマスガ、議會
開會後樞密院ニ諮詢セラル、間デモ四十日
餘アル、樞密院ニ諮詢セラレテカラ樞密院
ノ議決スル迄十八日間アルノデアリマス、
六月十二日ニ提出サレマシテ、樞密院ノ議
事ハ二十九日ニ終タラデアリマスカラ、其
間十八日間アル、隨分長イ間デアリマシテ
以テ發布セラル、迄ニ五十餘日間、約六十
日ノ時日ガアルノデアリマス、斯様ニ緩慢
ナル經路ヲ辿テ制定セラレテモ差支ナイ程
度ノモノデアアルナラバ、私ハ臨時議會ヲ何
故ニ召集セラレナラナカッタノデアアルカ、國民ノ
權利義務ニ重大ナル關係ヲ持テ居リマス
刑罰法デアリマスカラ、臨時議會ヲ召集シ
テ國民代表者ノ承諾ヲ得テ、所謂普通立法
ニ依テ此案件ヲ解決セラル、ト云フコト
ハ、政府ハ之ヲ執ルベキ立憲ノ常道デア
ルヤウニ思ハレハ、之ニ對スル政府ノ所見如
何ト云フコトデアリマス、ソコデ政府ハ答
ヘテ言ハレハ、樞密院ニ緊急勅令ノ御
諮詢ニナリマス迄ノコトハ、先刻申上ゲタ
通り、ソレ迄ニ事實ガ段々明確ニナツテ來

テ、ドウシテモ緊急勅令ノ發布ヲ奏請シナケ
レバナラヌト云フ必要ヲ感ジタルデアリマ
ス、其間事柄ガ分、テ居ルノニ、何モ延シテ
居、タト云フヤウナ譯デハナイノデアリ
マス、又樞密院ノ議事ノ經過ハ、是ハ樞密
院ノ議事ノ進行如何ニ依ルコトデ、政府ノ
力ニ依テ如何トモスルコトガ出來ナイノデ
アリマス、幾日掛リマシテモ已ムヲ得ナイ
コト、思ヒマス、其外ニ緊急勅令ノ發布ノ
途ハナイノデアリマス、其點ハ御了解ヲ願
ヒタイ、而シテ帝國議會ヲ召集スルノ違
アルノニ、何故召集ヲシナカッタカトノ御尋
對シテハ、憲法第八條ノ場合ハ憲法第七十
條ノ場合ト異ナリマシテ、臨時議會ヲ召集
スルノ違ナキト云フ場合デアナイノデ、
詰リ次ノ議會迄ドウシテモ待テヌ、今早ク
制定シタル方ガ宜イト云フ場合ガ定メテアル
モノト考ヘル、臨時議會ヲ召集シナケレバ
ナラヌ場合デアナイト認メテ居リマス云フ
答辯デアリマス、ソコデ齋藤君ハ憲法第八
條ノ場合ニ於テ帝國議會ヲ召集スルコトガ
出來ナイ場合ニ於テ、始メテ此緊急勅令ヲ
バ制定スベキモノデアツテ、苟モ召集スル餘
裕ノアルトキハ、之ヲ召集セズシテ緊急勅
令ヲ發布スルコトハ違憲デアアル、憲法法規
ノ上カラ見て違憲デアルト云フ強イ議論ガ
アリマシタ、又憲法第七十條、即チ他ノ一
方ニ於テハ議會ヲ召集スルコト能ハザルト
キト云フ文字ガアル、憲法第八條ニ拘泥シ
ノ場合ト云フ文句ガアル、此文句ニ拘泥シ
一方ニ於テハ召集スルコト能ハザル場合、
一方ニ於テハ召集スルコトガ出來ルノニ召
集スル必要ナシト云フ解釋ガアル、我國憲法學
者清水博士ノ憲法論一節ヲ朗讀サレマシ
テ、左様ニ結論サレマシテ、政府ハ議會ヲ
召集スル追ガアツテモ議會ヲ召集スル必要
ガナイ、唯次ノ議會ヲ待ツ追ガナイ場合ニ
ハ、其間ニ於テ緊急勅令ヲバ發布シテ差支
ナイト云フ解釋ノヤウニ思ハレハ、此解釋
ハ立憲政治ノ大精神ヲ前提トシテ憲法第
八條ヲ解釋致シマス云フ、憲法ガ立法
權ヲ行フニ付テハ、議會ノ協賛ヲ求ムベシ

ト云フ規定ノ趣旨ト相容レヌヤウニ思フ、此解釋ニ付キ政府ハ如何ナル所見ヲ有セラレカト云フ質問アリマス、之ニ對シ政府ハ答ヘテ曰ク、憲法第八條ノ解釋ニ付テハ仰セテ通り色々學者ノ意見ガアリマス、而シテ其意見ハ齟齬ノ意見ト共ニ頗ル有力ナルモノトシテ、敬意ヲ表スルニ吝カナラヌモノデアリマス、御承知ノ通り憲法第八條ト、憲法第七十條トハ異ナルノデアレ、憲法八條ハ議會開會セザルトキハ臨時議會ノ召集ヲ要セズシテ、緊急勅令ノ發布ガ出來ルノデアルト云フ解釋モ、亦有力ナル解釋トシテ存在シテ居ルノデアル、政府ハ此後ノ方ノ解釋ヲ採用シテ居ル次第デアリマス、ト云フ答辯アリマス、次ニ勝田委員カラ政府委員ニ對スル質問ノ一部ヲ紹介致シマス、同委員ハ日本共產黨ニ屬シテ居ル者、即チ昨年ノ三月十五日ノ檢舉ノ當時ト、ソレカラ特別議會ノ當時ト、緊急勅令制定ノ當時ト、茲ニ現在ノ此時期ニ分テ共產黨ノ數ヲ質問サレマス、之ニ對シ政府ハ答ヘテ曰ク、檢舉當時ニ於キマシテハ、約ソ四百乃至五百人位ノ見當デアリマス、ソレカラ特別議會ノ當時ハ五百六十人位アルデアラウト云フ見當ガ付イテ居リマス、今日ノ所デハ起訴サレテ居ル令ガ約五百人位デ、合セテ七百人程度ノモノデアルト考ヘテ居リマス、ソレカラ緊急勅令制定ノ當時ニ於キマシテハ、露國カラ大分留學生ガ入テ來ルト云フ情報ガ續々アツタノデ、相當ニ其活動ノ爲ニ増加スルノデアラウト云フ見當ガ付イテ居ルデアリマス、更ニ勝田委員ハ彼等ノ不穩ナル行爲ノ分明セシ時期ニ付キマシテ質問サレマス、ソレニ對シ政府ハ文書ヲ以テ答ヘテラレタノデアリマス、是ハ本案ニ對シ「緊急勅令必要ノ理由」トシテ諸君ニ御報告致サナケレバナラヌノデアリマス、是ハ第十項ニ分レテ居リマス、「一、彼等ハ我が皇室ノ殊遇ヲ誹謗シ、我が國民ガ譽ヲ感戴スル最大ノ盛儀ノ舉行ニ絕對反對ヲ唱道シ、國體ノ變革ヲ主張セルコト、右ノ事實アルヲ知リタル月日左ノ如シ、五月十九日及六月二日入手シタル文書、二、

彼等ハ彼等ノ所謂大衆行動ニ依テ帝國議會府縣會ヲ破壞スベキコトヲ主張セルコト、右ノ事實アルヲ知リタル月日左ノ如シ、五月十九日及六月五日入手シタル文書、三、彼等ハ彼等ノ檢舉ニ對シ、虛構ノ事實ヲ流布シ、暴力對抗ヲ煽動セルコト、右ノ事實アルヲ知リタル月日左ノ如シ、五月十九日及六月二日並同月四日入手シタル文書、四、彼等ハ共產黨檢舉者ヲ暴力ニ依リ奪還スベキコトヲ煽動セルコト、右ノ事實アルヲ知リタル月日左ノ如シ、六月二日入手シタル文書、五、彼等ハ軍隊、特ニ支那派遣軍ノ攪亂ヲ煽動セルコト、右ノ事實アルヲ知リタル月日左ノ如シ、五月十九日及同月二十五日並六月二日入手シタル文書及被疑者ノ逮捕、六、彼等ハ支那ニ於ケル本邦人ノ虐殺ヲ當然ナリトシ、支那出兵ニ對スル労働者農民ノ反抗ヲ煽動セルコト、右ノ事實アルヲ知リタル月日左ノ如シ、五月二十六日、同月三十一日、六月一日、同月二日及同月七日、入手シタル文書、七、彼等ハアラユル爭議ノ大衆行動ヲ煽動セルコト、右ノ事實アルヲ知リタル月日左ノ如シ、六月二日同月五日及同月六日、入手シタル文書、八、彼等ハ暴力ニ依リ世界革命ヲ煽動セルコト、右ノ事實アルヲ知リタル月日左ノ如シ、五月十九日、六月二日及同月六日入手シタル文書、九、彼等ハ第三「インテリナシヨナル」ノ指揮ヲ受テ、我が邦ニ於テ労働者農民ノ獨裁ニ依リ民主的的革命政府ノ樹立ヲ唱道セルコト、右ノ事實アルヲ知リタル月日左ノ如シ、五月十九日、六月二日、同月五日及同月六日入手シタル文書、十、彼等ハ細胞組織ノ再興ニ著手シタルコト、右ノ事實アルヲ知リタル月日左ノ如シ、六月十一日付某地方長官報告文書、以上デアリマス、其他各委員ヨリ有益ナル質疑ガ多クアツタノデアリマス、之ヲ一々御紹介致シタイノデアリマス、先刻來簡單々々ノ聲ガ頻ニ聞エマスガ故ニ、是ハ速記録ニ依テ御熟讀ヲ願ヒタイノデアリマス、最後ニ宮古委員ヨリ質問打切ノ動議ガアリマシテ、質問ヲ打切りマシテ、而シテ討論ニ移リマシテ、

討論終結ノ結果、本案ニ承諾ヲ與フベシト云フ方ガ九名、否トスル方ガ八名、一票ノ差ヲ以テ可決サレタコトヲ茲ニ報告致シマス(拍手)
○副議長(清瀬一郎君) 質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——原夫次郎君
〔原夫次郎君登壇〕
○原夫次郎君 私が茲ニ質問致サナケレバナラナイコトハ、一昨日委員會ノ場合ニ、ドウシテモ委員會ニ於テ此質疑ヲ爲サナケレバナラナイ關係ニ在リタノデアリマス、然ル所政友會側ニ於テ是非共一昨日質問ノ打切ヲシナケレバナラヌト云フ動議ガ出マシタ爲ニ、私ハ此質問ヲ本會議ニ留保シテ、其質問打切ガ一名ノ多數ヲ以テ可決サレタノデアリマス、私が茲ニ質問致サントスル所ノモノハ、ドウシテモハ委員會ノ繼續トシテモ、之ヲ明ニシテ置カナケレバナラナイ點ガ二ツアルノデアリマス、其第一ノ點ト致シマシテハ、委員會デハ極メテ此案ノ重大ナルノニ鑑ミテ、慎重審議致シタノデアリマス、然ル所此委員會ニ於テ唯司法當局ダケガ最も熱心ニ其答辯ニ當ラレ、内閣總理大臣兼外務大臣並ニ内務大臣等ハ、此委員會ニハ餘リニ顔出ガ出來ナイ、ソコデ審議ガ進マナカッタノデアル、就中先程來此委員長ガ御報告ニモナッテ居ルノデアリマス、委員長初メ吾々委員ニ於テモ、ドウシテモ了解ガ付カナイ點ガアルノデアリマス、ソレデ此浩瀚ナル速記録ヲ見マシテモ、ドウシテモ分ラナイ點ガアル、此點ハ先ヅ此緊急勅令ガ發セラレタルニ至リタル根源ノ問題デアル、此根源ノ問題ニ付テ、原國務大臣並ニ司法當局ノ答辯ニ依リマスルト云フト、昨年三月十五日以來檢舉セラレタル共產黨事件ノ経路ハ、日本共產黨ト云フモノガ第三「インテリナシヨナル」ノ日本支部デアルト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、大正五年三、四月ノ頃デアリマスガ、第三「インテリナシヨナル」ノ幹部カラ致シマシテ、此日本ニ於ケル共產主義ヲ主張シテ居ル連中ニ對シマシテ、日本ニ於テモ速ニ黨ヲ結ベキ旨ノ指

令ヲ受ケマシテ、ソレデ其指令ニ基イテ、結局五色温泉ノ會合ガ行ハレテ、結黨スルト云フコトニナッタノデアリマス、其後莫斯科ニ於ケル共產大學ニ行ッテ居ル連中、是モ矢張第三「インテリナシヨナル」トノ關係ニ於テ、此方カラ派遣ヲシテ居ルノデアリマス、サウシテ日本ニ於ケル去年ノ三月十五日ノ檢舉ガアツタト云フコトカ、向フニ分リマシタカラ、將ニ共產黨ガ消滅スルカモ知レヌカラ、才前達ハ歸ッテ速ニ再舉ノ運動ヲスルヤウニト云フ命ヲ受ケテ、此方ニ來タト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、兎ニ角第三「インテリナシヨナル」ハ本部デアリ、日本ノ共產黨ハ其支部デアル、斯ウ云フ關係ヲ持ッテ居ルヤウデアリマス、斯ウ云フ説明ガ、司法當局カラアッテ居ルノデアリマス、而シテ是ト同時ニ尙ホ原司法大臣ハ國務大臣トシテ、日本共產黨トシテ今回檢舉シタル者ハ、主義ハ前カラ奉ジテ居タノデアリマス、或ハ彼等ノ仲間ノ中デ第三「インテリナシヨナル」ノ日本支部ト云フ考ハ、無論持ッテ居タニ相違アリマセヌガ、愈、日本共產黨トシテ、第三「インテリナシヨナル」ノ何ト申シマセウカ、公認ヲ受ケルトカ、何トカ云フノデアリマセウガ、サウ云フ手續ヲ致シマスル前提トシテ、此黨ノ組織及綱領等ヲ發表シタルノガ一昨年ノ十二月四日、山形ノ五色温泉デ秘密裡ニヤリマシタ、ソレカラ先程警保局長ガ申シマシタ通り、彼等ハ翌年露西亞ニ參リマシテ、サウシテ第三「インテリナシヨナル」ノ本部ニ於キマシテ、彼等ノ決メタ綱領政策等ニ付テ批判ヲ受ケ、サウシテ指令ヲ受ケテ歸ッテ來マシテ、初メテ活動ニ這入ッタノデアリマス、其活動ニ這入ッタノハ、丁度其後ノ調査ノ結果ニ依リマス、主トシテ衆議院議員ノ選舉ノ時ニ、最も活動ヲ開始スルト云フ方針デアッタト云フコトカ、事實ノ真相ニナッテ居ルノデアリマス、又共產黨大學ニ留學シテ居ル者ハ、政府ノ今迄ノ調べ所ニ依リマス、前後ヲ通ジテ四十四名アリマス、此外ニアルカモ知レマセヌガ、政府デ今迄知ッタノガ四十四名ア

ルノデアリマス、サウシテ此人ガ何ト云フ氏名ノ人カト云フコトハ、今日マダ公ノ席ニ於テ申上グベキ時期ニ達シマセヌ、ソレカヲ費用ハ何處カラ出テ居ルカト云フコトハ、是ハ今迄調ベタ所ニ依リマス、第三「インスターナショナル」カラ出テ居ル、又初カラ何名ト云フコトハ無論申シテ参リマセヌ、一度ニ皆歸テ來ル譯デハナイノデアリマス、秘密行動デ所謂潜入スルノデアリマスカラ、初カラ何名ト云フコトハ申シテ居リマセヌ、第三「インスターナショナル」ガ留學生ヲ前後シテ日本ニ歸ラシテ、黨ノ組織擴大ニ著手セシメタモノガアルト云フ情報ガ參テ居ルノデアリマス、此情報ノ到著シタル所ハ内務省、外務省デアリマス、情報ノ出所ハ御承知ノ通り、是ハ國家ノ爲ニ秘密ニシテ居リマスガ、留學生ヲ日本ニ歸ラシテ、黨ノ組織擴大ニ著手セシメタル模様ガアルト云フ情報ガ參テ居ルノデアリマス、此點ニ付テ吾々ハ同僚ト共ニ内務省ニ對シテ是ガ質疑ヲ致シタルノデアリ、然ル所内務大臣ハ出席ヲセナイデ、横山警保局長ノ答辯ニ依リマス、サウ云フヤウナ風ナハキリシタル情報ハ得テ居ナイノデアリ、斯ウ云フヤウナ答辯ヲ好イ加減ニ致シテアルノデアリマス、又外務當局ニ此點ヲ尋ネマスルト云フト、外務大臣ハ出席ナクシテ、森政府委員ノ答辯ニ依リマス、云フト、外務省デハサウ云フヤウナ情報ガアルヤウデアアルレドモ、確タルコトハ分ラナイ、斯ウ云フ答辯ニナッテ居ルノデアリマス、是ニ於テカ司法當局ノ答ヘル所ト、内務省並ニ外務省ノ答ヘル所トハ、其間ニ大ナル相違ガアルノデアリマス、一體吾々ハ此重大ナル法案ヲ控ヘテ、若シ露西亞ノ莫斯科ノ共產大學ニ於テ日本人ガ養成セラレテ、其養成セラレタル人間ガ隙間ヲ見テ我が國ニ歸テ來ルト云ウテ、歸テ來テカラ我國デ共產黨ノ旗揚げ致スト云フコトデアリマスナラバ、其根本ハ何處ニアルカト云フト、露西亞ノ國デ是等ノ仕事ガ爲サレルノデアリマス、ドウシテモ是ハ根本義ニ相

成ルノデアリマスカラシテ、昨年ノ臨時議會當時ニ於キマシテハ、田中總理大臣ガ聲明サレタル如ク、又司法省、内務省等ガ當時ニ於テ如何ナル事ヲ聲明シマシタカト申シマスレバ、少クモ田中總理大臣ハ、此共產黨事件ガ起リタガ爲ニハ自分ハ、拔本塞源ノ途ヲ講ズルコトヲ考ヘテ居ルノデアリ、又上御一人ニ對シテ奏上ヲ致ス場合ニ於テハ、九賜寸斷ノ思ガアルナゾト云フコトヲ申サレテ居ルノデアリマス、何ガ拔本塞源デアアルカ、露西亞ノ莫斯科大學——共產黨大學デ日本留學生ヲ、ソレヲ其儘ニ養成セシメテ置イテ、ドウシテ我が日本ノ共產黨ヲ撲滅スルコトガ出來ルノデアリマセウカ、私共ハサウ云フヤウナ根本問題ガ現内閣ニ必ズ存在致シテ居ルコト、確信ヲ致シテ居ラナラバ、然ル所委員會ニ於テ一昨日田中總理大臣ハ、午前中僅ニ三十分ノ時間ヲ以テ委員會ニ臨マレテ、而シテ其答辯セラレタノガ、僅ニ十五分バカリ答辯セラレテ、其答辯ニハ矢張對露關係ニ於テハ多少思及ボシテ居ルノデアリ、レドモ、併ナガラ司法省ガ聲明ヲ致シテ居ルガ如キ事實ハ、未ダ自分ハシツカリ之ヲ是認スルニ至ラナイト云フヤウナ風ナ答辯ガアッタノデアリマス、何タル事デアリマセウカ、此緊急勅令ヲ發布スル當時ニ於テノ現内閣ノ勢ト云フモノハ、實ニ凄マシイ勢デアッタノデアリ、殆ド我が國家ガ引續返ルヤウニ大架梁ニ宣傳セラレタノデアリマス、而シテ其後今日迄約一年ノ間、隣リノ露西亞デ此共產黨ノ分子ヲ製造ヲ致シテ居ル其根本ニ向ッテ、斧鉞ヲ加ヘナイト云フ現内閣ノ道方デアアル、ソコデ考ヘルト云フト、私共ハドウモ現内閣ノ此緊急勅令ト云フモノハ、所謂世間デ噂致スガ如ク、是ハ一種ノ宣傳デアッテ、或ル政略ノ下ニ斯ウ云フ緊急勅令ヲ出シタモノデヤナイカト云フコトヲ非常ニ疑フノミナラズ、委員會ニ於テノ結論ト致シテハ、此露國ノ問題ガ最も必要ナル問題デアアルノニ拘ラズ、一度此點ニ向ッテ吾々ガ追究ヲ致スト云フト、忽チ政友會ノ委員諸君カラ質問打切りノ動議ヲ提出致サ

レマシテ、餘儀ナク此處デ質問シナケレバナラヌト云フ破目ニ立至タノデアリマス、一體我國ト露西亞トノ間ニ於テハ、既ニ大正十四年ニ修交條約ガ結バレテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ日本ノ國家ニ關スル破壊行動ヲ目論ムガ如キ事柄ハ、露西亞トシテハ必ズ爲シテハナラヌト云フコトハ言フ迄モナイ、又政府當局ニ於テハ、人ニ依テ第三「インスターナショナル」下露國政府トノ關係ガ、如何ナル關係ニ結バレテ居ルカト云フコトニ付テモ、洵ニ内務省ト司法省ト外務省トノ間ニ答ガ區々ニ相成テ居ルノデアリマス、ソコデ私ハ先ツ田中外交大臣兼總理大臣ニ伺フノハ此點デアリマス、全體是ダケノ大キナ重要ナル非常立法ヲ敢テ爲シテ置イテ、而シテ露西亞ト日本トノ此言語道斷ナル關係ヲ、何故ニ今日迄此儘ニ打棄テ置クノデアアル、未來永劫恐ラクハ今日ノ儘ニヤッテ居ラナラバ、日本人ダケハ非常ニ重イ刑罰ヲ以テ虐メラレテ、而シテ御隣リノ露西亞ヘ行ケバ、莫斯科デ以テ日本國家ヲ倒スヤウナ者ヲ養成ヲ致ス、何タル不都合ナ事デアリマセウカ、是デ我が國家ノ進運ヲ期スルコトガ出來マセウカ、又是デ以テ此緊急勅令ヲ維持シテ、ドウシテ我が國家ガ保全ヲ行ケマセウカ、之ニ關スル田中外交大臣兼總理大臣ノ御意見ヲ伺フノデアリマス、第二ト致シマシテハ、内務大臣ニ對シテデアアル、是ハ極メテ簡單デアリマス、内務大臣ハ委員會ニ顔ヲ出サレルコトガ少カッタノデ、吾々ハ能ク御尋スルコトガ出來ナカッタノデアアルガ、一體昨年此事件ガ起リタ場合ニ於テ、先程申上デル如ク、現内閣ハ舉テ當時ノ鈴木内務大臣ノ指圖ノ下ニ、非常ナル世間ニ宣傳ヲ致シ、非常ナル大事件ガ勃發シテ、ドウシテモ之ヲ何トカシナケレバナラヌト云フ所デ、此治安維持法ノ改正案ヲ提出致シタノデアアル、又當時ニ於テ我國ニ於ケル勞農黨ノ解散ヲ斷行シタコトモ事實デアアルノデアリマス、然ル所昨年ノ十二月二十二日、彼ノ本所公會堂ニ於テ開カレタル所ノ勞農新黨ノ結黨式ニ際シテ、十二月二十二日、三日共ニ準備會ヲ

開キ、其處デ綱領、宣言等ヲ總テ委員ニ付託ヲ致シテ、色々世間ニ宣傳ヲ致シタノデアリ、然ル所現内閣ガ昨年此共產黨ノ事件ガ起リタ場合ニ於テハ、忽チニシテアノ勞農黨ナルモノヲ解散ヲ命ジタノデアアル、而シテ現内閣ノ方針ト致シテハ、今後如何ナル準備行爲ノ名儀デアラウガ、何シヤウガ、少シデモ此共產黨ノ臭ヒノスル新黨ノ組織ニ對シテハ、斷然解散ヲ命ズルモノデアアルト云フコトヲ天下ニ聲明ヲ致シテ置キナガラ、昨年ノ十二月二十二日、三日ノアノ本所公會堂ニ於ケル所ノ結黨準備式ニ當ッテハ、極メテ此新黨準備會ノ爲ニ鬪弄ヲセラレテ、而シテ二日ノ間モ天下ニ色々ノ宣傳ヲ致シテ置キナガラ、遂ニ三日目ニ漸ク逡巡躊躇シテ是ガ解散ヲ命ズルニ至リタト云フ、非常ナル手溫イ遣方ヲ爲シテ居ル、ソレ等ヲ以テ見マスルト云フト、ドウモ此只今議題ニナッテ居ル緊急勅令ナルモノハ、現内閣ガ政略ノ爲ニ斯ノ如キ勅令ヲ發セラレタモノデアルト云フコトハ、今日稍明ニナッテ居ルコト、思フノデアリマス(拍手)以上ノ二點ニ對シテ田中總理大臣兼外務大臣並望月内務大臣ノ詳細ナル御答辯ヲ願ッテ降壇スル次第デアリマス

○副議長(清瀬一郎君) 田中總理大臣(國務大臣男爵田中義一君登壇)

○國務大臣(男爵田中義一君) 只今ノ原君ノ御尋ニ對シマシテハ、委員會ニ於テ齋藤君ヨリモ同様ニ御尋ガアリマシタ、私ハ此處デ繰返シテ申スノデアリマス、此露國ノ宣傳ニ付キマシテハ、甚大ナル注意ヲ拂ッテ居ルノデアリマス、殊ニ共產黨事件ノ發生後ハ、一層其點ニハ注意ヲ拂ヒ、地方的ニモ、又直接私ガ露國ノ代表者ニモ、亦日本ノ代表者ニモ注意ヲ與ヘ、或ハ抗議ヲシ、種々ナ手段ヲ執ッテ居ルノデアリマス、此事ハ此處デ申シテ置クノデアリマス、將又將來ノ事付ニキマシテハ、今後ノ事ニ屬スルコトデアリマスルカラ、此處デ諸君ニ申上デル譯ニハ參ラヌノデアリマス、殊ニ只今御尋ノ中ニ、私ガ司法大臣ノ説明サレタコトヲ否認シタカノ如キ御言葉モアッタヤウ

デアリマスガ、サウ云フコトハ決シテ無
イノデアリマス、私ハ絶對ニ否認ハ致シマ
セヌ(拍手)

○副議長(清瀬一郎君) 望月内務大臣

(國務大臣望月圭介君登壇)

○國務大臣(望月圭介君) 昨年十二月ニ新
黨準備會ノ解散ヲ致シマシタノハ、是ハ治
安ヲ害スルト認メマシタカラ、此解散ヲ命
ジタノデアリマス、之ニ付キマシテハ本會
議ニ於テモ、亦委員會ニ於テモ、政府當局
ヨリ詳細ヲ申上ダテ居ル等デアリマス、ソ
レト少シモ其理由ハ變ラヌノデアリマス、
左様御承知ヲ願ヒマス

○原夫次郎君 簡單デアリマスカラ此席カ
ラ……

○副議長(清瀬一郎君) 宜シウゴザイマス

○原夫次郎君 只今田中外交大臣兼總理大
臣カラノ最後ノ御言葉ニ依リマス、自分
ハ司法當局殊ニ原司法大臣ノ言ハレタ事柄
ヲ自分ハ是認ハシナイ——是認ハシナイト
云フコトヲ承タノデアリマス、サウ云フコ
トデアリマス云フコト、一體原司法大臣ガ
委員會ニ於テ國務大臣トシマシテ答辯ヲ致
シマシタルコトハ、總理大臣ノ是認ハシナ
イト云フコトハ、ドウ云フコトデアリマス
(否認ダ——ト呼フ者アリ) 若シ彼ノ邊ノ
人達ガ聞イテ居ル如ク、否認ハシナイト云
フ言葉ハ何ノコトデアリマスカ、ソレヲ原司
法大臣ガ言ウタ事柄ト同様ニ考ヘテ居ラル
ルト云フコトヲ、明ニ認メラレルカドウカ、
是ハ我國ニ取テノ一大重大問題デアリマ
ス、此點ヲ伺ヒタイノデアリマス、尙ホ私
ノ先程申上ダタノハ、昨年ノ事件ガ勃發致
シタノハ三月十五日デアッテ、ソレカラ今日
迄露西亞ニドウ云フ抗議ノ申込ヲセラレ、
若クハ今日迄ドウ云フ解決ニナッテ居ル
デアルカ、若シ露西亞ガ何時迄モノ修交
條約ヲ破壞スルヤウナ行爲ガアリ、我が國
ニ取テ、又重大ナル問題ガ時々露西亞
ノ爲ニ脅カサレルト云フコトデアリマス
ナラバ、遂ニ吾々ハ我國ノ立場トシテ此日
露修交條約マデモ破毀セネバナラスト云フ
立場ニ至ルベキ、重大ナル問題デアルト思

フノデアリマス、其點ニ向ッテ更ニ田中總
理大臣ノ御答辯ヲ明確ニ并聽致シテ置キタ
イノデアリマス、恐ラク再ビ出ラレルカド
ウカ、甚ダ疑問デアリマスガ、若シ立タレ
ナケレバ私ノ言フコトヲ御承認相成ッタク
ト、認メマス

(國務大臣男爵田中義一君登壇)

○國務大臣(男爵田中義一君) 原君ハ只今
私ガ司法大臣ノ言ハレタコトヲ是認ハシナ
イト仰セニナッタノデアリマスガ、私ハサウ申
シタノデハナイ、否認ヲシタコトハナイ
斯ウ申シタ、即チ大體ニ於テ原君ノ言ハレ
ルコトヲ認メルノデアル、ソレカラ尙ホ如
何ナル抗議ヲシ、又如何ナル手續ヲシ、而
シテ其結果ガドウナツタコト云フコトニ付
キマシテハ、此處デ諸君ニ御話ヲスルコト
ヲ遠慮スベキダト心得テ居リマス(拍手)

○副議長(清瀬一郎君) 小俣政一君

(此時發言スル者多シ)

〔小俣政一君登壇〕

○副議長(清瀬一郎君) 靜肅ニ願ヒマス
○小俣政一君 只今委員長ノ報告ヲ詳細ニ
承リマシテ、其委員長ノ報告ニ關聯ヲ致シ
マシテ政府ノ質問ヲ致シタイノデアリマス
ルガ、私ノ御尋スルコトハ、主トシテ司法
大臣ノ所管ニ付テ御尋申シ、又内務大臣カ
ラ御答ヲ願ハナケレバナラヌコトモアル
デアリマス、政府ハ、陛下ノ臣民ヲ死刑ニ
處スル嚴罰ヲ制定ヲシテ、共產主義者ヲ絶
滅セントセラレルノデアリマスルガ、苟モ
世界ニ比類無キ國體ヲ擁護シ、皇國ノ基礎
ヲ微動ダモセシメザルト云フ其根本的精神
ニ於テハ、異存ハナイノデアリマス、但シ
其峻嚴ナル勅令ノ制定ニ依テ、共產主義者
ニ彈壓ヲ加ヘ、仍テ以テ國家ノ治安ヲ維持
セントスルハ、之ノミニ依テ治安ヲ維持セ
ラル、ト思ヘバ、ソレハ大ナル誤リト謂ハ
ナケレバナラヌノデアリマス、思フニ共產
主義者ト云ハズ、總テ過激ナル思想ノ蔓延
ヲ防ガントスルノニハ、其由テ來ル根本ニ
適ッテソレヲ極メ、而シテソレニ對シテ對策
ヲ講ズルト云フコトガ、眞ニ國家ニ忠ナル
所以デアラウト思フノデアリマス(拍手)徒

ニ枝葉末節ニ因ハレ、其源ヲ極メザルニ至
テハ、天下ノ迂愚洵ニ極リト謂ハナケレ
バナラヌノデアリマス、要スルニ施政其宜
シキヲ得ザル爲、見渡ス處我國ノ現狀ニ於
キマシテハ、中産階級以下ノ國民ノ生活ト
云フモノガ著シク脅威サレテ居ル、隨テ思
想界ハ益、混亂ヲシツ、アル時ニ當リ、本案
ノ制定唯其モノニ依テ危險思想ヲ取締ラン
トスル如キハ、痴人夢ヲ語ルモノデアルト
謂ハナケレバナラヌノデアル(拍手)今ヤ帝
都ノ治安ハ……

(此時發言スル者多シ)

○副議長(清瀬一郎君) 靜肅ニ願ヒマス

○小俣政一君(續) 亂レテ居リ、輦轂ノ下
帝國ノ首都タル治安ノ維持サヘ保タレナイ
有様デアル、金力ト權力ト暴力ハ跋扈跳梁
ヲシテ、議員ハ誘拐サレ、或ハ其身邊ヲ脅
カサレテ居ルノデアル、大體帝都治安ノ衝
ニ當ル所ノ警視總監ハ言フ迄モナク親任待
遇ヲ辱フシテ居ル、隨テ其人選ハ特ニ細心
ノ注意ヲ拂ッテ任命ヲシナケレバナラヌト
云フコトハ、言フヲ俟タザル所デアル、然
ルニ現總監宮田光雄君ノ福島縣知事タリシ
當時ノ行動ハドウデアツカ、彼ガ福島縣知
事デアツタ時、即チ大正八年ニ行ハレタル全
國府縣會議員選舉ノ行ハレタル時ニ當テ、
彼ハ只見川水利權ノ問題ニ付テ二十萬圓ノ
賄賂ヲ收受シタノデアル、而シテ其收受シ
タル賄賂ヲ以テ候補者ヲ買収……

(賄賂トハ何ダ)ト呼ヒ其他發言スル
者多シ

○副議長(清瀬一郎君) 靜肅ニ願ヒマス

○小俣政一君(續) 其收受シタル二十萬圓
ノ金ヲ以テ候補者及議員ヲ買収ヲシタ事實
歷然トシテ居ルノデアル、御承知ノ通り福
島縣ハ河野磐州翁ノ開拓ニ依テ、縣會ノ分
野ハ常ニ舊黨政系ガ絕對多數ヲ占メテ居
タノデアル、然ルニ宮田光雄君ガ久保田金
四郎ヲ警察部長トシテ、此宮田知事ト久保
田警察部長ガ共謀ヲシテ、議員ノ買収切崩
シヲ爲シテ、一舉ニシテ福島縣會ハ政友會
絕對多數黨タラシメタル事實ガアルノデア
ル、斯ル人物ヲシテ帝都治安ノ衝ニ當ラシ

ムルト云フノハ、帝都ノ治安ガ維持サレナ
イ所以デアルト思フノデアル……

○副議長(清瀬一郎君) 小俣君——小俣

君——議長ハ質疑者ノ質疑ヲ制限スル意思
ハアリマセヌケレドモ、此議題ニ即シテ質
問アランコトヲ望ミマス、今暫ク聽イテ居
リマスガ、併ナガラ餘リ議題ト離レマス
制限スルコトアルベキコトヲ豫告シテ置キ
マス

○小俣政一君(續) 惟フニ國家ノ治安ヲ維

持シ、皇國ノ基礎ヲ危フカラシメザル最モ
重大ナ問題ハ、搜查機關ノ公正ナル發動ニ
俟タナケレバナラヌト思フノデアル(拍手)
然ルニ搜查機關ノ第一線ニ立ツ所ノ警察機
關ハ警視廳ヲ初トシテ、全國ノ警察機關
悉ク賴ムニ足ラズトセバ、國家ノ治安ハ何
レニ依テカ求メラレルデアリマセウカ(拍
手)搜查機關ノ中デ憲兵ト云フ機關ハ、姑
茲ニ措クトスルモ、此場合ニ於キマシテハ、
國民ハ單リ司法權ヲ賴ミトスルノデアル、
然ルニ其司法權ノ威信ガ疑ハレ、檢事局ノ
政黨化ガ叫バレルニ至ッテハ、國民ノ自由
ト權利ハ何レニ依テ保障サレルデアラウカ
(拍手)斯ノ如キ狀勢ニモ拘ラズ、政府ハ唯
本法ノ制定ニ依テ治安ヲ維持シ得ルト思ハ
レルデアラウカ、原法相ハ司法權ノ獨立、
檢察制度ノ改善ニ御熱心デアルト承知シテ
居ルガ、檢事局ノ政黨化ト云フ非難ニ對シ
如何ナル考ヲ有セラレルノデアルカ、本員
ハ檢事局ノ政黨化ヲ疑フモノデアル、原法
相ハ本員並ニ世ノ疑惑ヲ一掃スル爲ニ、誠
意アル御答辯ヲ願ヒタイ、然ラバ何故ニ檢
事局ノ政黨化ヲ疑フニ至レルカ、本員ハ具
體的事實ニ付テ法相ニ御尋ヲスルノデア
ル、唯議論バカリデハ原法相ハ御納得ニナ
ラヌデアラウト思ヒマスカラ、我輩ハ具體
的事實ヲ指摘致シマシテ、檢事局ガ政黨
化シテ居ルカ居ラヌカト云フコトヲ御尋ス
ルノデアル、昨年ノ二月行ハレタル衆議院
議員ノ選舉ニ付テ、此選舉取締、選舉違反
ニ對スル司法權ノ發動ガ公正デアツタカド
ウカヲ御尋スルノデアル、先ツ其事實ヲ一
二例ヲ引イテ申上ダマスナラバ、世間デハ

新ウ云フコトヲ言フテ居ル、鈴木喜三郎君ト關係ノアル鳩山一郎君ノ系統ニ屬スル者ニ對シテハ、司法權ノ發動ガ及バナイト世間ハ言フテ居ルノデアル(拍手)即チ其例ヲ申スナラバ、東京府第一區カラ立候補シタル鳩山君ノ直系デアル所ノ本田義成ト云フ候補者ガアルノデアルガ、是ガ選舉違反ノ事實ガ歴然タルノデアル、東京府裁判所ニ於テハ宮里ト云フ檢察官主任トナッテ違反事實ニ付テ、的確ナル調査ヲ進メタル所、鳩山君ノ系統デアルガ爲ニ、本田君ノ選舉違反ノ衝ニ當リ宮里檢察官ハ、突如トシテ濱松區裁判所ヘ逐ハレタルハドウデアルカ、又山梨縣ヨリ立候補シタル大崎清作君ノ買収事實ニ付キマシテ、甲府地方裁判所ノ檢察正ハ、的確ナル事實ヲ握リテ居ル、而シテ之ヲ起訴スベキ意見ヲ持テ居ルタニモ拘ラズ、此甲府地方裁判所ノ檢察正ハ、突如トシテ轉所ヲ命ゼラレタルハ如何ナル理由デアルカ

〔治安維持法ト何ノ關係ガアルカ〕ト呼ヒ其他發言スル者多シ
○副議長(清瀬一郎君) 靜肅ニ願ヒマス
○小俣政一君(續) 本員ノ質問スル所ハ、治安維持法ト最モ重大ナル關係ヲ有スル所ノ具體的問題ニ付テ、御尋ヲスルノデアル——先日政府不信任案問題ガ提出セラレタル場合、鳩山一郎君ハ政府委員席ニ居ラレテ、本員ニ對シ暴言ヲ吐イタルデアル——又目下展開シテ居ル所ノ東京市ノ疑獄事件ニ對スル所ノ檢察局ノ行動ハ、政略的ニ行ハレテ居ルハシナイカ、本員ハ冤罪ニ依テ過般奇怪千萬ニモ、刑務所ニ八十一日間收容ヲ受ラレタルノデアルガ、冤罪ニ依テ斯様ナル取扱ヲ受ケタルコトガアル——其際東京府裁判所ノ渡邊檢察官ナルモノガアルカ、此渡邊檢察官ハ鈴木喜三郎君ノ御聲掛リデ、田舎カラ東京地方裁判所ヘ昇格ヲシタル人デアルガ、此渡邊檢察官ガ言明シタ洵ニ奇怪千萬ナ言ガアル

〔何モ關係ガ無いデヤナイカ〕ト呼ヒ其他發言スル者多シ
○小俣政一君(續) 大關係ガアル——此渡邊檢察官ト云フモノガ、本員ニ向ッテ言明シタコトガアルガ、其言葉ガ頗ル奇怪千萬ナアリマスカラ、原法相ノ御答ヲ願フノデアルガ、ドウ云フコトヲ言ハレタカト云フト其渡邊檢察官ノ言フノニハ
〔清瀬副議長議長席ヲ退キ元田議長復席〕
近藤達見君、國枝捨次郎、伊藤仁太郎等ハ、金錢收受ノ關係ヲ明白ニ自白シテ居ルノデアルカ、何故オ前ダケハ強情ヲ張ルノデアル、オ前モ必ズ近藤ノ國枝、或ハ伊藤ト同ジヤウニ、金ヲ取ツタノデアラウト云フコトヲ、獨斷テ責メタルノデアル——
〔治安維持法ト關係ガ無い〕ト呼ヒ其他發言者多シ
○小俣政一君(續) 治安維持法ト大關係ガアル——又江東青物市場ノ疑獄ノ中心人物ハ増田由太郎ト云フ者デアルガ、此増田由太郎ガ召喚セラレル前日、司法省參與官磯部尙君ガ増田由太郎ヲ訪問シテ、長時間ノ打合ヲシタル事實ガアルノデアル、而モ磯部君ハ檢察局ヲ屢、訪問シテ、自分ハ取調ヲ受ケタルコトハナイ、火ヲ放ケニ來ルノデアルト、或人ニ言明ヲシタルデハナイカ(拍手) 果シテ然ラバ此市ノ疑獄ノ裏面ニハ、政府並ニ與黨ガ策動シタコトハ爭フベカラザル事實デアル——尙ホ原法相ニ御尋スルコトガアルガ、所謂刑事訴訟法ノ手續ニ付テ御尋ヲスルノデアル、江東青物市場疑獄ノ中心人物デアル所ノ増田由太郎ガ、保釋中自殺ヲ企テタルコトガ新聞紙上ニ報道セラレテ居ル、斯ノ如キ場合ニハ、刑事訴訟法ノ手續トシテ、罪證湮滅ノ虞アルモノトシテ、當然保釋ヲ取消サナケレバナラヌノデアルガ、是ハ如何様ナル手續ニナッテ居ルノデアルカ、其當時ノ新聞ヲ私ハ此處ニ朗讀ヲ致シマス、増田由太郎氏自殺ヲ企ツ、小俣代議士豐浦理事ニ申譯ナイト書置シテ(即チ増田由太郎)……
○議長(元田肇君) 小俣君——小俣君——小俣君……
○小俣政一君(續) ……「市疑獄事件ノ發展カラ、遂ニ江東青物市場問題ニマデ及ビ、

前頭取増田由太郎氏ノ收容カラ、代議士小俣政一、豐浦理事事ノ收容ヲ見ルニ至リ、増田氏ハ先キニ保釋出獄シタガ、二氏ハ引續キ收容中デ、増田氏ハ事件發生以來、自己ノ不徳カラ二氏ニ迷惑ヲ掛ケタルガ良心ノ苛責ニ耐ヘ兼テ、出獄後ハ只管本所區區網町二七ノ自宅ニ引籠リテ謹慎シテ居タガ、二三日前家人ノ隙ニ日本刀ヲ割腹自殺ヲ圖ツタガ、家人ニ發見サレテ果サナカッタト云フ事件ガアル……

○議長(元田肇君) 議長ヨリ一言致シマス、只今小俣君ハ緊急勅令ニ關係アリトシテ質問サレテ居ルサウデアリマス、議長ハ只今出マシタモノデスカラ——然ルニ緊急勅令ニ關係ノ遠イ選舉違反ト云フヤウナ事ニ付テノ御話ガ多イヤウデアリマスノデ、諸君モ靜肅ニ御聽キヲ願ヒマス同時ニ、小俣君モ十分ニ用語ヲ御慎ミナリ、且ツ緊急勅令ニ關係ノ無いコトデアレバ、議長ハ許ス譯ニ行キマセヌ(拍手)
○小俣政一君(續) 其増田由太郎ノ書置ト云フモノハ、小俣並豐浦ヲ冤罪ニ陥レテ申譯ガナイト書イテアツタ、斯ノ如キ次第デアルカラ、本員ハ治安維持法ト云フモノヲ制定スル根本精神ナルモノハ、共產主義者ヲ絶滅ヲシヤウ、國體ノ基礎ヲ安固ナラシメヤウトスルノデアルト信ズルガ爲ニ、唯此治安維持法ノ制定、ソレノニ依テ治安ヲ維持セラレタルカドウデアアルカト云フコトヲ御尋スルノデアル(拍手) 此治安維持法ノ精神ヲ徹底ヲセシムルノニハ、少クトモ捜査機關ト云フモノガ、政黨政派ヲ超越シテ活動ヲシナケレバナラヌト思フノデアル(拍手) 然ルニ此捜査機關デアアル所ノ……

〔此時發言スル者多シ〕
○議長(元田肇君) 靜肅ニ願ヒマス
○小俣政一君(續) 檢察局ガ今ヤ政黨化シテ居ルト云フコトガ、天下非難ノ的トナッテ居ルノデアリマス、何故檢察局ガ政黨化ヲシテ居ルカト云フ事實ニ付テ御尋ヲスルナラバ、先達モ遠藤正次ト云フ者カラシテ、要路ノ五大官ニ向ッテハ何故ニ捜査ノ手ヲ

染メナイノデアアルカ(拍手)之ヲシモ尙ホ檢事局ノ政黨化デナイト言ヒ得ルノ勇氣ガ原法相ハアルノデアアルカドウカ、此點ヲ伺ヒタイノデアアル(拍手) 而モ與黨ノ者ハ、大泥棒ガアツテモ、如何ナル犯罪者ガアツテモ、之ヲ檢舉シナイ、野黨ノ者デアルナラバ、冤罪ニ陥レテモ苦マセヤウト云フヤウナ態度ヲ執ルニ至ッテハ、甚ダ奇怪千萬デアルト謂ハナケレバナラヌ

○議長(元田肇君) 小俣君、緊急勅令ニ關係ガアルダケヲ御述べ下サイ
○小俣政一君(續) 關係ガアリマス
○議長(元田肇君) 緊急勅令ニ關係ノナイ質問ハ許シマセヌ、一寸議長ヨリ注意致シマス、小俣君ノ發言中ニ或ハ不穩當ノ言葉ガアリハセヌカト云フコトニ付キマシテハ、速記録ヲ調ベナケレバ議長ハ分リマセヌカラ、速記録ヲ調ベテ相當ノ處置ヲ取リマス、而シテ小俣君ハ關係アリト申シマスケレドモ、治安維持法ニ直接ノ關係ガナク、又間接ニシテモ甚ダ乏シイヤウニ思ヒマスカラシテ、小俣君ニ更ニ御注意申上デマス、治安維持法ニ關係ノアル點ニ付テ御質問ヲ進メラレントコトヲ注意シテ置キマス
○小俣政一君(續) 先ヅ以上ノ諸點ニ互リマシテ、原司法大臣ノ御答辯ヲ煩ハシ、其御答辯ヲ俟テ更ニ私ハ質問ヲ繼續致スノデアリマス

〔此時發言スル者多シ〕
○議長(元田肇君) 靜肅ニ願ヒマス、原司法大臣
○國務大臣(原嘉道君登壇) 只今ノ小俣君ノ質問ハ、總テ緊急勅令ニ關係ナイコト、思ヒマスカラ、本員ハ答辯致シマセヌ(拍手)
〔小俣政一君登壇〕
○小俣政一君 原司法大臣ハ只今本員ノ質問ニ對シテ、治安維持法ニ關係ガナイカラト云フ御言葉デアアルガ、治安維持法ト直接密接ノ關係ノアル問題ニ付テ、本員ハ而モ具體的ノ事實ヲ基礎トシテ御尋ヲシタノデアアルガ、以上ノ質問ニ對シテ御答辯ガナイ時ニ於テハ、本員ハ天下民衆ト共ニ、檢事

局ノ政黨化ト云フコトヲ大臣ガ肯定ヲシタ
ト云フコトヲ思フノデアル(拍手)若シ答辯
ヲスレバ宜シ、答辯ガ出来ナケレバ、本員
ノ所謂檢察局ハ政黨化セリト云フコトニ對
シテ、司法大臣答フル所ヲ知ラズト云フコ
トニナルノデアル(拍手)若シ司法大臣答フ
ル所ヲ知ラズトスレバ、即チ檢察局ノ政黨
化ヲ司法大臣自ラ認メテ居ルノデアル、斯
ノ如クニシテ暗黒政治ガ布カレ、此暗黒政
治ノ下ニ於テ、此勅令ガ幸ニ議會ヲ通過シ
タ所ガ、共產主義者ヲ絶滅スルナドハ愚カ
ノ事、過激思想ノ取締ナドハ、現内閣ノ下
ニ於テハ斷ジテ不可能デアルト云フコトヲ
斷言スル者デアアル(拍手)原法相ハ日頃司法
權ノ獨立、檢察制度ノ改善ト云フコトヲ口
ニ叫バレテ居ルノデアルガ、所謂羊頭ヲ掲
テ狗肉ヲ售ルモノデアアル、斯様ナ者ガ私ハ
大臣ノ椅子ニ居ラレト云フコトハ、天下
民衆ト共ニ大ニ悲シム者デアアルト云フコ
トヲ茲ニ聲明シテ壇ヲ降りマス(拍手)

〔此時發言スル者多シ〕

○議長(元田肇君) 討論ニ入りマス、齋藤
隆夫君

〔齋藤隆夫君登壇〕

〔此時發言スル者多シ〕

○議長(元田肇君) 靜ニ願ヒマス―各方
面トモ靜肅ニ願ヒマス

○齋藤隆夫君 諸君、政府ハ昨年ノ六月二
十九日緊急勅令ヲ發布シテ治安維持法ヲ改
正シ、憲法第八條ニ基キテ議會ノ承諾ヲ求
メテ來タノデアリマス、議會ハ之ニ承諾ヲ
與フベキヤ否ヤ、之ガ只今吾々ノ前ニ提供
セラレテ居ル所ノ問題デアリマス、先程委
員長ガ報告セラレマシタ如ク、委員會ニ於
キマシテハ一票ノ多數ヲ以テ承諾ヲ與フベ
シト決定致シマシタケレドモ、本員ハ委員
會ノ決議ニ反對シ、承諾ヲ與フベカラズト
主張スル者デアリマス(拍手)吾々ガ本案ノ
審議ヲ爲スニ方リマシテ、主トシテ攻究ス
ベキ問題ハ憲法上ノ觀察デアリマス、勅令
ノ内容ニ付キマシテモ意見ハゴザイマスケ
レドモ、是ハ今日論ズルノ必要ハ認メマセ
ヌ、ソレ故ニ本員ハ是ヨリ專ラ此見地ニ

立チマシテ、大要卑見ノアル所ヲ述ベテ吾
吾ノ主張ヲ明ニシタイ、固ヨリ本案ハ政黨
政黨ニ關係ヲ有スルモノデアリマセヌ、
憲法ヲ中心トシテ帝國議會ノ機能ニ及ビ、
國民ノ自由權利ニ大關係ヲ有スルモノデア
リマスルニ依テ、吾々ハ此考ヲ以テ本案ノ
討議ニ向ヒタイノデアリマス、尙又本案ハ
我が國體ノ變革ヲ目的トスル犯罪者處罰ニ
關スルモノデアリマス、今日何人ト雖モ此
種類ノ犯罪者ヲ處罰スルコトニ付テ反對ヲ
スル者ハアリマセヌ、既ニ吾々ハ三年以前
ニ治安維持法ニ協賛ヲ與ヘマシテ、斯ノ如
キ犯罪者ニ對シテハ相當嚴刑ヲ以テ之ニ臨
シテ居ルノデアリマス、故ニ問題ハ此種類
ノ犯罪者ヲ罰スルカ罰セナイカト云フコト
デハナイ、如何ナル立法手續ニ依テ、又如
何ナル程度ニ於テ之ヲ罰スルノガ、國家社
會ノ大局ヨリ見テ適當デアるか、之ガ意見
ノ岐ル、所デアリマス(拍手)然レニ世ノ中
ニハ此道理ヲ辨ヘズシテ、唯無條件ニテ緊
急勅令ヲ贊成ニスル者ヲ以テ愛國者ノ如ク
ニ思ヒ、之ヲ難責スル者ヲ以テ非愛國者ノ
如クニ思フガ如キ、無智無識ノ輩ハ此議場
ニ於テハ一人モ居ラレナイデゴザイマセウ
ガ、廣キ世ノ中ニ於テハ、斯ウ云フ没分曉
漢モ居ルノデアリマスカラシテ(拍手)本員
ハ此機會ニ於テ彼等ニ向テ強キ意味ノ警
告ヲ發シテ置キタイノデアリマス、憲法上
ヨリ見レバ、此緊急勅令ハ確ニ憲法違反デ
アリマス(拍手)ノウ(一)緊急勅令ノ性質
ニ付キマシテハ、本員ガ申ス迄モナク諸君
ハ十分ニ御承知デアル、又本員ハ一月二十
二日國務大臣ノ演說ニ對スル質疑ノ際ニ
當テ、此問題ニハ論及致シテ置キマシタ
セヌ、(簡單)「簡單」ト呼フ者アリ(政府ガ
緊急勅令ヲ發布スルニ付テ、第一ニ考ヘネ
バナラヌコトハ、所謂緊急ノ必要ト云フコ
トデアリマス、即チ公共ノ安全ヲ保持スル
ガ爲ニ、緊急ノ必要ガ目前ニ迫テ居ルヤ
否ヤ之ヲ第一ニ考ヘネバナラヌコトハ申ス
迄モナイコトデアル、此要件ヲ充シテ居レ
バ宜シ、若シ是ニ反シテ此要件ニ缺クル所

アリマシタナラバ、其勅令ハ違憲ノ勅令ト
言ハザルヲ得ナイノデアル、是ニ於テ吾々
ハ委員會ニ於テ、先ヅ此點ニ付テ政府ノ說
明ヲ求メタ所ガ、之ニ對スル原司法大臣ノ
答辯ハ、知名ノ法律家ニ似合シカラザル、
極メテ漠然タルモノデアリマシテ、吾々ヲ
承服セシムルニ足ルベキ何等ノ根據ハナイ
ノデアル、先ヅ第一ニ政府ハ何時頃緊急ノ
必要ヲ認メタノデアるか、即チ昨年開レタ
ル所ノ特別議會ノ開會前デアるか、又開會
中デアるか、或ハ開會後デアるかト尋ネ
マシタ所ガ、之ニ答ヘテ曰ク、特別議會開
會後、六月十二日即チ緊急勅令案ヲ樞密
院ニ提出シタル其日ニ於テ、初メテ緊急ノ
必要ヲ認メタノデアルト答ヘラレタ、然ラ
バ其日ニ於テ案如トシテ緊急ノ必要ト認ム
ベキ事實ガ起リタルデアルト云フコト、サウ
デハナイ、特別議會開會後ニ於テ、色々ノ
事實ガ起リタルニ依テ、ソレ等ノ事實ヲ綜合シ
テ最後ノ六月十二日ニ於テ、初メテ緊急ノ
必要ヲ認メタノデアルト答ヘラレル、然ラ
バ其事實トハ何デアルト云ヘバ、大體二
ツアルノデアリマス、第一ハ昨年檢舉セラ
レタ所ノ共產黨ノ殘黨等ガ、マダ捕縛ニ就
カナイ者ガアリマシテ、ソレ等ノ者ガ依然
トシテ活動ヲ繼續シテ居ルト云フ事實ガ
分テ來タト云フノデアル、是ガ何デ緊急
勅令發布ノ理由ニナリマスカ、政府ノ說
明ニ依レバ、大正十五年十二月四日、彼ノ
共產黨ノ一類ハ山形縣五色温泉ニ會合シ
テ、初メテ共產黨ノ組織ヲシタルデアル、
ソレカラシテ一年ト三箇月ノ後、即チ昨年
ノ三月十五日ニ全國ニ亘テ一齊ニ檢舉ヲ
致シタルデアル、併シ其當時ニ於テ一人モ
殘ラズ檢舉セラレタノデハナイ、其中ノ或
者等ハ檢舉ニ漏レテ逃亡シテ活動ヲ繼續シ
テ居タト云フコトハ、其當時カラシテ政
府ニハ分テ居タルデアル、現ニ昨年ノ特
別議會中ニ開カレタル治安維持法改正ノ委
員會ニ於テ、原司法大臣ハドウ云フコトヲ
言ウテ居ルカト云フト、共產黨ノ首腦者等
ガ全部收監セラレテ居ルカト云フニ、決シ
テサウデハナイ、是等ノ者ハ益々其目的ノ

遂行ニ進ミシ、アルト云フノガ現在ノ有様
デアル、昨年ノ特別議會開會中ニ於テ、既
ニ原司法大臣ハ斯ノ如キ言明ヲ爲シテ居
ル、之ヲ以テ見テモ其當時カラシテ、其首
腦者ノ或者等ガ檢舉ニ漏レテ、其目的ノ達
成ニ向テ進行シテ居ル、即チ活動ヲ續ケテ
居タト云フコトハ、政府ニ於テハ分テ居
タルデアリマス、又是ガ分テ以上ハ、之ヲ
檢舉スルニ於テ、決シテ政府ハ怠ラテ居ラ
ナイ、既ニ是等ノモノハ檢舉セラレテ今ハ
收監サレテ居ルノデアリマス、然レニ斯ノ
如キ事實ガ因ニナツテ、公共ノ安全ガ危殆ニ
迫リ、緊急勅令ヲ發布セネバナラヌ所ノ事
態ガ起リテ來タトハ、天下何人ト雖モ想像
スルコトハ出來ナイノデアル、第二ハ何デ
アルカト云フト、露西亞ニ在ル所ノ共產黨
大學、此共產黨大學ニ居ル所ノ日本ノ留學
生ヲ第三「インターナショナル」ガ續々日本
ニ歸朝セシメテ、我國ニ於ケル共產黨組織
擴大ニ從ハシムルト云フ、此情報ガ政府ニ
達シタル云フノデアル、一體サウ云フ情報
ハ何時何處カラ來テ政府ニ達シタルデア
るか、又其内容ハ如何ナルモノデアるかト
問ヘバ、政府ハソレハ答ヘルコトガ出來ナ
イト云フノデアル、ソコデ其共產黨大學ニハ
日本ノ留學生ガ幾名位居ルノデアルト云
ヘバ確カニハ分ラヌガ約四十名バカリ居
ル、其中ノ二十名バカリガ昨年ノ五月ヨリ
七月ニ亘テ日本ニ歸テ來タト云フ、唯是
ダケノコトデアリマス、諸君ハ之ヲ聞イデ
如何ニ考ヘラレルノデアリマス、僅カニ
十名バカリノ共產主義ニカブレテ居ル所ノ
書生等ガ、日本ニ歸テ來ルト云フ、是ガド
レダケノ大事件デアるか、又斯ノ如キコト
ガ分テ以上ハ、日本ノ警察機關ハ之ニ對シ
テ相當ノ準備ヲ爲シタルニ相違ナイ、國境
ニ於テ彼等ヲ捕縛スルコトニ付テ手落ノアル
譯ハナイ、又現ニ彼等ノ多數ハ既ニ捕縛セ
ラレテ今ハ收監サレテ居ルノデアリマス、
此位ノ事情ガ因ニナツテ公共ノ安全ガ危殆
ニ陥リ、緊急勅令ヲ發布シテ十年ノ體刑ヲ
一躍シテ死刑ト改ムルニアラザレバ、之ヲ
豫防スルコトガ出來ナイト云フコトハ、是

亦何人ト雖モ想像スルコトノ出來ルコトデ
ハナイノデアリマス(拍手)更ニ政府ハ委員
會ノ最後ノ日ニ於テ「緊急勅令必要ノ理由」

ト題スル文書ヲ吾々ニ示シタ、是ハ最前委
員長ガ御朗讀ニナリマシタニ依テ、本員ハ
之ヲ省キマス、此文書ヲ見マス、昨年ノ
五月十九日ヨリ六月ノ十一日ニ至ル此間ニ
於テ、地方長官ヨリノ報告、一派ノ共產主
義者等ガ我國ニ於テ爲シタル行動ガ列記シ
テアルノデアリマス、併シ是何モ昨年ノ
五月カラシテ六月ニ掛ケテ初メテ現レタ所
ノ事實デハナイ、現ニソレヨリ先ニ吾々ノ
手許ニ配付セラレマシタ所ノ政府ノ參考書
類第一ハ、露西亞ノ第三「インターナシヨ
ナル」ノ日本ニ對シテ活動スル概況ト題ス
ル文書及共產黨事件ノ第一審判決ノ概要デ
アリマス、此二ツノ文書ヲ見マスルト云フ
ト、茲ニ記載セラレテ居ルガ如キ事實ハ、
是等ノ文書ノ中ニ現レテ居ルノデアアル、別
ニ是等ノ事實ガ五月カラ六月ニ掛ケテ初メ
テ現レタモノト思料スルコトハ出來ナイ
ノデアリマス、又最後ニ於テ原司法大臣ハ
昨年ノ御大典ヲ引用シテ緊急勅令發布ノ理
由ニ供サレテ居ルノデアリマス、是ハ
政府トシテモ非常ナ考違ヒデアルノミナラ
ズ、何方カト言ヘバ不謹慎ノ甚シキモノデ
アル、昨年ノ御大典ニ當リマシテハ

〔此時發言スル者多シ〕

○議長(元田肇君) 靜肅ニ願ヒマス

○齊藤隆夫君(續) 昨年ノ御大典ニ當リマ
シテハ、我が國民ハ最モ忠誠ノ意ヲ表シ、極
メテ嚴肅ニ御大典ヲ迎ヘタコトハ諸君御承
知ノ通りデアル、現ニ田中首相モ一月二十
二日此ノ所ニ於テ施政ノ方針ヲ述ベラレタ
ル劈頭ニ於テ此事ニ言及セラレテ居ル、即
チ「我皇室及國家ノ盛衰ニ際シテ遺憾ナク我
全國民ヲシテ尊皇愛國ノ精神ヲ發揚セシメ、
國體ノ精華ヲ顯揚シマシタコトハ諸君ト共
ニ慶賀措ク能ハザル所デアアル」ト、斯ノ如
ク我が國民ハ舉テ此御大典ニ對シテハ最
モ誠意ヲ披瀝シテ之ヲ迎ヘテ居タルデア
ル、然ルニ緊急勅令ヲ發布シテ、所謂武裝
ヲシテ此御大典ヲ舉行シタト云フニ至リテ

ハ、實ニ國民ヲ侮辱スルモ亦甚シイモノデ
アリマス

〔此時發言スル者多シ〕

○議長(元田肇君) 靜肅ニ願ヒマス

○齊藤隆夫君(續) 故ニ今後政府ガ此緊急
勅令ヲ説明スルニ當リマシテモ、斯ノ如キ
理由ハ斷ジテ述べテハナラヌ、又今後此壇
上ニ立タル、所ノ贊成論者モ斯ノ如キ理由
ヲ以テ緊急勅令ヲ維持セラレ、コトハ控ヘ
ラレルガ宜カラウト思ヒマス、要スルニ斯
ノ如キ次第デゴザイマシテ、政府ガ緊急勅
令ヲ發布シタル理由トシテ述べアル所ノ根
拠ハ極メテ薄弱デアリマシテ、吾々ヲ承服セ
シムルニ足ルモノハ一ツモ無イノデアリマ
ス、殊ニ昨年ノ特別議會以前ニ於テハ其必
要ガ無カッタ、特別議會開會後ニ於テ初メテ
其必要ヲ感ジタト云フニ至リテハ、益以テ怪
シカラス所ノ言草デアアルト思フ、先程申シ
マシタル如ク、昨年ノ三月十五日ニ彼ノ共
産黨ヲ檢舉シ、之ガ本トナッテ治安維持法ノ
改正ヲ特別議會ニ提出シ、其委員會ニ於テ
原司法大臣ハ何ト申シテ居ルカト云フト、治
安維持法ノ改正ハ日本國家ノ爲ニ一日モ捨
置キ難キ緊急事デアアルト云フコトヲ言ウテ居
ル、然ルニ今日ニナルト全然其言ヲ翻シテ、
昨年ノ特別議會開會中ニ於テハ治安維持法
改正ノ必要ハ認メテ居タルケレドモ、緊急ノ
必要ハ認メナカッタノデアアル、緊急ノ必要ヲ
認メタルハ特別議會開會後約四十日ヲ過ギ
タル六月ノ十二日ニ於テ初メテ之ヲ認メタ
ト云フニ至リテハ、其虛妄ナルコト三歳ノ童
子ト雖モ欺クコトハ出來ナイノデアアル、一
體政府ハ何故ニ斯ノ如キ無理ナル理窟ヲ附
ケテ居ルカ、何故ニ斯ノ如キ虛妄ノ理由ヲ
述べアルノデアアルカト云フト、其心底ハ明ニ
讀メテ居ルノデアリマス、ソレハ何デア
ルカト云フト、御承知ノ如ク緊急勅令ノ根
本トナルベキ事實ハ、少クハモ前議會開會
後ニハ現レタノデナクテハナラヌ、前議會
開會前若クハ開會中ニ現レタモノナラバ、
其議會ニ於テ通常ノ立法手續ニ依テ此目的
ヲ達セバナラヌ、又會期ガ足ラナカッタナ
ラバ之ヲ延長シテ以テ其議案ノ運轉ヲ決セ

ネバナラヌノデアアル、然ルニ政府ハ其手續
ヲ誤シタモノデアリマスルカラ、今日ニ至リ
テ緊急勅令ノ根本トナルベキ事實ハ、前議
會ノ開會前ニ起リタト云フコトハ言ヘナイ
ヤウニナリテ來タ、次ニ開會後ニ直ニ起リタ
ノデアアルカト言ヘバ、然ラバ何故ニ開會後四
十日間モ之ヲ放任シテ置イタルデアアルカ
ト責メラレルモノデアアルカラ、是モ言ヘナイ
ヤウニナリテ、此處デ最後ノ窮策トシテ、特別
議會開會前デハナク、又開會直後デモナク、
開會後四十日ヲ過ギタ六月十二日ニ於テ初
メテ緊急ノ必要ヲ認メタルト云フガ、實ニ荒
唐無稽ノ妄説ヲ作ッテ此衆議院ヲ欺カント
スルノデアアル、斯ノ如キコトニ欺カル、モ
ノガ一人デモアッタナラバ、衆議院ノ一大恥
辱デアリマス(拍手)更ニ此點ニ付キマシテ
樞密院ニ現レタル意見ニ付テ一言述べテ置
キタイコトガマリマス、御承知ノ如ク樞密
院ノ議事ハ是迄秘密ニ附セラレテ吾々ハ之
ヲ知ルコトガ出來ナカッタノデアリマス、然
ル所ガ此緊急勅令ノ審議ニ當リマシテハ

〔此時發言スル者多シ〕

○議長(元田肇君) 靜ニナサイ

○齊藤隆夫君(續) 如何ナル方法ニ依リタ
ルモノカハ知リマセムガ、樞密院ニ於ケル
緊急勅令案審議ノ模様ハ、新聞紙ヲ通シテ
大體吾々ノ前ニ現レテ來タノデアアル、之ニ
依テ吾々ハ樞密院諸公ガ緊急勅令案審議ニ
當リテ抱カレテ居ル所ノ憲法及政治上並ニ
其態度ヲ知ルコトガ出來タノハ非常ニ愉快
ニ思フノデアリマス、御承知ノ如ク緊急勅
令案ハ樞密院ニ於ケマシテハ、贊否兩論者
ガ實ニ十八日間審議ヲ凝シテ、最後ニ於テ
國務大臣ガ總動員ヲ爲シテ、採決ニ加ハリ、
以テ之ヲ通過セシメタコトハ諸君御承知ノ
通りデアアル、而シテ樞密院ニ於ケマシ
テ議論ノ焦點トナリマシタモノハ、矢張緊
急ノ必要ト云フコトデアッタノデアアル、然
ルニ此點ニ關スル政府ノ説明ハ、反對論者ヲ
承服セシムルコトガ出來ナカッタノミナラ
ズ、贊成論者ト雖モ、一人トシテ之ニ満足
スルモノガナカッタト云フコトハ、實ニ奇怪
千萬ノ至リデアリマス(拍手)贊成論者トシ

テ最モ有力ナル顧問官ノ意見ヲ見マス、ト
斯ウ云フコトガアル、今日斯ノ如キ勅令ヲ
發布スベキ緊急ノ必要ハ絕對ニ認メルコト
ガ出來ナイ、出來ナイノミナラズ、之ヲ次
ノ通常議會ヲ待テモ決シテ遅クハナイノ
デアアル、併ナガラ政府ガ既ニ高等政策トシ
テ提出ヲシタ以上ハ、若シ之ニ反對ヲスル
ト云フコトニナルト、外部ニ對シテ責任ヲ
負ハナイ所ノ樞密院ガ、政府ノ施設ニ關
スルコト、ナルカラ、已ムヲ得ズ之ニ贊成
スルモノデアアルト云フコトヲ言フテ居ル(拍
手)是ハ何タル不合理千萬ナルコトデア
ルカ、本員ハ斯ノ如キ意見ヲ有セラレル樞密
顧問官ニ對シテ、緊急勅令案審議ニ先テ先
以テ樞密院ノ權能ヲ研究セラレタイト言
ヒタイノデアリマス、樞密院ハ善クモ惡クモ
憲法上ノ機關デアリマス、憲法上獨立ノ機
關デアリマス、而シテ此權能ハ憲法及官制
ニ於テ認メラレテ居ル、政府ノ左右シ得ベ
キモノデアハナイ、又此權能ヲ發揮スルコト
ガ...

〔此時發言スル者多シ〕

○議長(元田肇君) 靜肅ニ願ヒマス

○齊藤隆夫君(續) 樞密院本來ノ使命デ
アッテ、此權能ヲ拋棄シタナラバ、樞密院存
在ノ理由ハナクナッテシマフノデアアル、而シ
テ此權能ノ上ニ立ッテ眺メマシタナラバ、樞
密院ガ緊急勅令案ヲ審議スルニ當リテ、何ヨ
リ先ニ考ヘバナラヌコトハ憲法上ノ要件
デアアル、是ガ最モ大切デアアル、其外ノ何モ
ノヨリモ大切デアリマス、之ヲ外ニシテ其
事ガ政府ノ高等政策ニ屬スルヤ否ヤ、或ハ
之ニ反對ヲシタナラバ、政府ノ政策ヲ阻止ス
ルコトニナルヤ否ヤ、斯ノ如キコトハ、第
二、第三ニ考フベキコトデアッテ、決シテ第
一ニ考フベキコトデアハナイノデアアル(拍手)
若シ之ニ因ハレテ、政府ノ政策ヲ妨グルコ
トヲ恐レテ、憲法上ノ要件ヲ捨テ、顧ミナ
イト云フコトデアッタナラバ、樞密院ハ政府
ノ從屬機關トナッテ、憲法上ノ獨立機關タル
權能ヲ失フテシマフノデアアル、又樞密院ハ外
部ニ對シテ責任ヲ負ハナイト云フ、是ハ當
然ノ事デアリマス、併ナガラハ樞密院自

體ノ責デハナシ、制度其モノ、罪デアツテ、
樞密院ノ罪デハナシ、故ニ是ガ惡イト云フ
ナラバ、樞密院ノ制度ヲ改革スル理由ニハ
ナルガ、樞密院自體ノ權能ヲ制限スル理由
ニハナラナシ、デアリマス、或ハ緊急勅令
案ニ反對スルノハ施政ニ關與スルコト、ナ
ルト云フガ、緊急勅令案ノ反對ハ決シテ政
府ノ施設ニ關與スルノハナシ、若シ反對
ヲスレバ政府ノ施政ニ關與スルコト、ナル
ト云フテ、反對ヲスルコトガ出來ナイトス
ルナラバ、樞密院ハ緊急勅令ノ審議ニ當
テ、抑何ヲ爲サントスルノデアリカ、樞密院
ノ事ハナクナツテシマフデアリマス、更
ニ憲法ノ起草ニ深キ關係ヲ有シテ居ラレ
所ノ或ハ顧問官ノ意見ヲ見マス、斯ウ云
フ事ガ書イテアル、緊急ノ必要ガアルカ、
ナイカト云フコトハ、是ハ政府ノ所見ニ一
任スベキモノデアツテ、樞密院ガ自ら進
審查スベキモノデアナシ、既ニ政府ガ高等
政策ノ必要カラシテ、緊急ノ必要アリト認
メテ之ヲ提案シタ以上ハ、樞密院ハ之ニ向
テ進んで賛成シタケレバナラス、是ガ憲
法第八條ノ精神デアアルト共ニ、憲法ヲ起草
セラレタル處ノ伊藤公ノ見解デアルト、斯
様ニ述べて居ラレノデアリマス、是非ハ非
常ナル間達デアリマス、伊藤公ハ彼ノ權威
アル所ノ憲法義解ニ於テ、左様ナ見解ハ少
シモ述べて居ラレナイ、ノミナラズ切々ト
シテ緊急勅令ノ濫用ヲ戒メラレテ居ラル、
ノデアアル、若シ緊急ノ必要ハ政府ノ所見ニ
一任シテ、樞密院ハ之ニ容喙スベキモノデ
ナイトスルナラバ、緊急勅令案ノ審議ニ方
テ、樞密院ハ抑何ヲ爲サントスルノデア
ルカ、緊急必要ノ有無ヲ外ニシテ、樞密院
ノ爲スベキ仕事ハナクナツテシマフノデア
リマス、又斯ノ如ク緊急ノ必要ノ有無ヲバ
政府ノ所見ニ一任シテ、樞密院ガ容喙スベ
キ

〔此時發言スル者アリ〕

○議長(元田肇君) 靜ニ

○齋藤隆夫君(續) モノデナイトスルナラ
バ、樞密院ハ何カ故ニ一昨年前内閣ガ提出
シタル、彼ノ財政救済ノ緊急勅令案ニ反對
ヲシタルデアアルカ、曩ニハ財界ノ救済ハ緊
急ノ必要ナシトシテ反對ヲシテ置キナガ
ラ、後ニハ緊急必要ノ有無ハ政府ノ所見ニ
一任スルト云ウテ之ニ賛成ヲスル、斯ノ如
ク最も重要ナル論點ニ付テ、前後矛盾ノ意

見ヲ立ツルニ至ッテハ、樞密院ガ國民權威ノ
焦點トナルノモ亦已ムヲ得ヌノデアリマス
(拍手)斯ノ如キ次第デアリマス、憲法上
ノ要件デアリマス、所ノ緊急ノ必要ト云フ
事ニ付テハ、政府ノ説明ハ樞密院全體ヲ滿
足セシムルコトノ出來ナカッタト同ジク、衆
議院ニ於ケル吾々モ承服セシムルコトハ
出來ナイノデアアル、斯ノ如キ次第デアリ
マシテ、此勅令案ハ憲法上ノ最大要件ヲ缺
テ居ルモノデアツテ、全然違憲ノ勅令デア
ルト云フコトヲ、先以テ茲ニ言明致シ置キ
マス(拍手)次ニ論ゼバナラヌ事ハ、政府
ガ此問題ノ爲ニ臨時議會ヲ召集シナカ
コトデアリマス、先程申シマシタ通りニ、
政府ハ昨年ノ特別議會ニ治安維持法ノ改正
案ヲ提出シマシタケレドモ、議會ハ之ヲ審
議スルノ時日ガナクシテ終了致シタノデア
リマス、斯ノ如キ場合ニ於キマシテハ、政
府ハ議會ノ延長ヲ奏請シナクテハナラヌ
拘ラズ、政府ハ此手續ヲ誤ラタト云フコト
ハ、何ト云フモ政府ノ過チデアリマス
(拍手)既ニ第一ノ過チヲ爲シタル以上ハ、
第二ノ過チヲ爲サナイコトニ注意シナクテ
ハナラナシ、然ルニ政府ハ第一ノ過チニ懲
リズシテ、更ニ第二ノ過チヲ爲シテ居ル、
ソレハ何デアアルカト云ハバ、即チ此問題ノ
爲ニ

〔此時發言スル者アリ〕

○議長(元田肇君) 靜ニ

○齋藤隆夫君(續) 臨時議會ヲ召集シ
カタ事デアリマス、先程申シマシタル如
ク、昨年ノ特別議會ニ治安維持法ノ改正案
ヲ提出シテ、特別議會閉會後樞密院ニ提出
スル迄ノ間ニ於テ約四十日アル、又樞密院
ニ於テ十八日ノ時日ヲ費シテ居ル、前後合
シテ五十有餘日、斯ノ如キ緩慢ナル態度ヲ
執、テモ差支ナイ性質ノモノデアラナラバ、
何カ故ニ臨時議會ヲ開イテ立法ノ常道ヲ踏
マナイノデアアルカ、斯ノ如キ場合ニ處ス
ルガ爲ニ、憲法ハ臨時議會召集ノ途ヲ開イ
テ居ルノデアリマス、即チ憲法第四十三條
於キマシテハ、臨時議會ノ必要アル場合ニ
於テ議會ノ外臨時議會ヲ召集スベシ、斯ノ
規定致シテコゾイマシテ、臨時議會ヲ開
クコトハ政府ノ義務デアアル、憲法ハ政府
向シテ臨時議會ヲ開クベシト命令シテ居ル、
臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ臨時議會ヲ
開クコトハ、憲法ニ對スル政府ノ義務デア

ルニ拘ラズ、政府ハ臨時議會ヲ開カナカ
タト云フコトハ、何トシテモ政府ノ手落デ
アル、之ニ關シテ政府ノ代表シタル原司法
大臣ハ、非常ニ誤ラタ意見ヲ持テ居ラル、
ノデアアル、ソレハ何デアアルカト云フ、詰
リ憲法第七十條ノ第八條ノ關係デアリマ
ス、憲法第七十條ニ於テ所謂財政上ノ必要
處分ヲ爲ス場合ニ於キマシテ「議會ヲ召集
スルコト能ハサルトキ」ト云フ文字ガアル、
故ニ財政上ノ必要處分ヲ爲ス場合ニ於テ
ハ、議會ヲ召集スルコトガ出來ナイ場合ハ
勿論、假令召集スルコトガ出來ナイ場合ニ
於テモ、之ヲ召集スルノ時日ナキ場合ニ限
レルケレドモ、憲法第八條ニ於テハ斯ウ云
フ規定ハナシ、即チ「議會ヲ召集スルコト
能ハサルトキ」ト云フ文字ハナクシテ、之
ニ代エルニ「議會閉會ノ場合トアル、故ニ
議會閉會ノ場合デアアルナラバ、臨時緊急
必要ガ起ツテモ、別ニ臨時議會ヲ召集スル必要
ガナイト云フ」ガ原司法大臣ノ見解デア
ルノデアリマス、併ナガラハ非常ニ誤ラ
テ居ル所ノ解釋デアリマス、原司法大臣ハ民
法學者デアアルカラ、民法ヤ商法ナラバ斯
ノ如キ解釋ヲ許スカハ知ラナイガ、憲法ハ斯
ノ如キ機械的ナ、斯ノ如キ皮相ノ見解ハ許
サナイノデアアル、憲法ノ裏ニハ立憲政治ノ
大精神ガ流レテ居ルノデアリマス、故ニ此
ノ大精神ヲ看破セズシテ、唯條文ノ字句ニ
拘泥シテ、憲法ノ正解ヲ求メントスルガ如
キハ、誤リノ大ナルモノデアアル、立憲政治
ノ精神トハ何デアアルカ、國民代表者ノ承諾
ヲ得ズシテ國民ノ自由權利ヲ拘束スベカラ
ズ、是ガ立憲政治ノ精神デゴザリマシテ、
此精神ハ憲法第五條ニ明記セラレテ居ル
デアアル、即チ「天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以
テ立法權ヲ行フ」

〔此時發言スル者アリ〕

○議長(元田肇君) 靜肅ニ願ヒマス

○齋藤隆夫君(續) 故ニ苟モ國民ノ自由權
利ヲ拘束スル所ノ立法事項ヲ果スニ付キマ
シテハ、帝國議會ノ協賛ヲ經ネバナラヌノ
デアアル、唯已ムヲ得ナイ場合ノミニ限
テ、緊急勅令ヲ發スルコトガ出來ルノデア
ル、絕對ニ議會ヲ召集スルコトガ出來ナイ、若
クハ議會ヲ召集スルコトハ出來テモ、若シ
ソレヲ待テ居タナラバ、公共ノ安全ヲ
保ツコトガ出來ナイト云フ、此場合ニ限
テ緊急勅令ガ許サレルモノデアツテ、苟モ議

會ヲ召集ノ餘裕アル場合ニ於テハ、議會ヲ召
集シテ通常ノ立法手續ヲ踏ムベク、デ緊急勅
令ノ權道ヲ踏ムベキモノデアナイト云フノガ
憲法第八條ノ精神デアツテ、又最も正當ナ
ル解釋デアアルト本員ハ確信シテ居ルノデア
リマス、假ニ原司法大臣ノ解釋ガ正當デア
ルトシテモ、臨時議會ヲ開イテ惡イト云フ
コトハナイノデアアル、憲法ハ臨時議會ヲ召
集ヲ禁止シテ居ルノデアリマス、故ニ憲法ヲ
運用スルニ當リマシテハ、時日ノ許ス限リ
メテ以テ立法事項ヲ行フベキデアアル、然
ルニ之ヲ爲サズシテ臨時議會ヲ召集スル餘裕
アルニ拘ラズ之ヲ召集セズ、而モ日本ニ立
憲政治始メテ以來未ダ會テナイ所ノ、緊急勅
令ヲ發布シテ日本臣民ヲ死刑ニ處スル法律
ヲ作ルニ至ッテハ、何ト云フモ誠意ヲ以テ
憲法政治ヲ運用シ、國民ノ自由權利ヲ尊重
スルモノハ思ヘナイノデアリマス(拍手)
斯ノ如キ次第デアリマスニ依テ、此勅令ハ
何レノ點ヨリ見テモ、憲法違反デアリマス、
即チ第一ハ公共ノ安全ヲ保持スルト云フ要
件ヲ缺イテ居ル、第二ハ緊急ノ必要ト云
フ要件ヲ缺イテ居ル、第三ハ臨時緊急ノ
必要アル場合ニ於テハ臨時議會ヲ召集スベシ
ト云フ憲法第四十三條ノ規定ヲ蹂躪シテ居
ル、斯ノ如ク此勅令ハ徹頭徹尾憲法違反ノ
モノデアリマスニ依テ、吾々ハ之ニ向ッテ
承諾ヲ與フベキモノデアナイと思フノデア
リマス、次ニ吾々ハ斯ノ如キ緊急勅令ガ國家
社會ノ上ニ、又一般國民ノ上ニ如何ナル影
響ヲ及ボスモノデアアルカ、之ヲ考ヘテ見
クテハナラナイノデアリマス、御承知ノ如
ク十年前以前ニ終リテ告ゲマシタル歐羅巴戰
争、是ハ世界國民ノ思想界ニ大ナル變動ヲ
與ヘタノデアリマス、而シテ此等ノ思想ノ
中ニハ善イ思想モアレバ、又惡イ思想モア
リマス、今日露西亞ニ行ハレテ居ル所ノ過
激思想即チ共產主義ノ如キモノハ、彼ノ國
ニ於テハ善イ思想デアアルカハ知レマセヌガ、
露西亞ヲ取除イタ其他ノ諸國ニ於テハ、極
メテ危險ナル所ノ思想デアアルコトハ申ス迄
モナイ、然ルニ御承知ノ如ク露西亞内ニハ
所謂第三「インターナショナル」ナルモノガ
アリマシテ、之ガ世界ニ向ッテ共產主義ヲ
宣傳シ、世界革命ヲ目的トシテ、或ル種類
ノ活動ヲシテ居ルコトハ事實デアリマス、
併ナガラ彼等ノ目的ハ大體ニ於テ失敗シテ

居リマス 彼等ハ初メニハ之ヲ西洋諸國ニ試ミマシタケレドモ、全然失敗ニ終リタモノデアリマスカラシテ、次ニハ東洋諸國ニ向テ魔ノ手ヲ延バサントシテ居ル、他國ノ事ハ申ス必要モアリマセヌガ、之ガ我が日本ニ如何ナル關係ヲ持テ居ルカト云フコトハ、一應檢討スル必要ガアルノデアリマス、茲ニ政府ヨリ參考書類トシテ吾々ニ配布セラレタ所ノモノガアリマスガ、之ヲ見マシテモ第三「インテリナシヨナル」ハ我が日本ニ向テ或ル種類ノ活動ヲ爲シテ居ル、即チ我國ノ共產黨ハ第三「インテリナシヨナル」ノ一ツノ支部デアル、而シテ其綱領ハ宣傳方法ハ一ニ本部ノ指揮命令ヲ仰イデ居ルノデアリマス、又先程申シマシタ如ク、露西亞ノ莫斯科ニハ共產黨大學ガゴザイマシテ、此大學中ニモ日本ノ留學生ヲ收容シテ居ルコトモ事實デアル、此事實ヲ根據トシテシマシテ、本員ハ露西亞ニ對スル日本ノ外交關係ニ付テ言及セザルヲ得ナイノデアリマス、御承知ノ如ク日露ノ間ニハ、大正十四年ニ國交回復ノ條約ガ締結セラレタノデアアル、此條約ニハ如何ナルコトガ規定シテアルカト云フ、其第五條デアリマス、是ハ朗讀スルコトハ省キマスガ、極メテ簡明ニ申スナラバ、兩締結國ハ相手國ノ安寧秩序ヲ妨害スルガ如キ一切ノ行動ヲ爲スベカラズ、分リ易ク申セバ是ダケノコトデアリマス、是ハ當然ノコトデアリマス、今日世界列國何レノ國ニ於キマシテモ、國家ノ自體ノ政治組織ヲ決定スルコトハ自國ノ權利デアアル、故ニ他國ノ之ニ干渉スベキモノデハナイノデアリマス、故ニ何レノ國家モ國家トシテ、他國ノ政治組織ヲ變革スルガ如キ一切ノ行動ヲ爲スベカラズ、又自國ノ人民ニシテ斯ノ如キ行動ヲ爲ス者ガアレバ、之ヲ嚴禁セザルベカラズ、是ハ國際法上ニ於テモ認メラレテ居ル原則デゴザイマスガ、此原則ガ、日露條約ノ第五條トナルテ現ハレテ來タノデアリマス、故ニ我國ハ露西亞ノ政治組織ニ干渉シ、露西亞ノ安寧秩序ヲ害スルガ如キ、所謂白化宣傳ヲ爲スコトガ出來ナイト共ニ、露西亞モ亦日本ノ國體ヲ變革スルガ如キ一切ノ行動ヲ爲スベカラズ、國家トシテ爲スコトガ出來ナイコトハ勿論、若シ露國人民ニシテ、斯ノ如キ行動ヲ爲ス者ガアルナラバ、露國ノ國內法規ヲ以テ嚴ニ之ヲ取締ラネバナラス、是ハ露西亞

ガ國際公法上ニ於テ、又條約上ニ於テ(此時發言スル者アリ)

○議長(元田肇君) 靜肅ニ

○齋藤隆夫君(續) 我が日本ニ對シテ負ウテ居ル所ノ重大ナル義務デアリマス、然ルニ今日ノ露西亞ハ果シテ完全ニ此義務ヲ履行シテ居ルノデアルヤ否ヤ、是ハ吾々ニ於テ考ヘネバナラス所ノ一ツノ問題デアリマス、先程申シマシタ如ク、露西亞ノ第三「インテリナシヨナル」ハ日本ニ向テ亦ハ宣傳ヲ爲シテ居ル、又是ガ基トナッテ我國ニ於テハ緊急勅令マデモ發布セネバナラスコトニ相成タノデアアル、而シテ原司法大臣ノ意見ニ依レバ、彼ノ日本共產黨ノ行動ト云フモノハ、所謂思想的內亂罪デアル、思想的內亂罪デアル、即チ思想的ニ我が國體ヲ變革シ、思想的ニ我が國家ヲ亡サントスルモノデアラ、其罪ノ程度ハ刑法上ノ內亂罪、外患罪ト少シモ異ナル所ハナイ、軍器彈藥ヲ用ヒ、暴力ヲ振ヒ戰鬪行爲ヲ開始シ、以テ日本ノ國體ヲ變革シ、日本ノ國家ヲ亡サントスルモノト其罪ノ程度ハ全然同一デアアルトマデ極論サレテ居ルノデアアル、本員ハ此見解ガ正當デアルカ否ヤニ付テハ別ニ意見ハアリマスガ、是ハ今日述ベキ限リデハナイ、兎ニ角政府ハ斯ノ如キ考ヲ以テ緊急勅令マデモ發布スルニ至ラノデアリマス、然ルニ第三「インテリナシヨナル」ナルモノハ原司法大臣ノ論法ヲ以テ言フナラバ、思想的ニ我が國體ヲ變革シ、思想的ニ我が國家ヲ亡サノ目的ヲ以テ、我國ニ向テ砲門ヲ向ケテ戰鬪行爲ヲ開始シテ居ルノデハナイカ此點ニ於テ今日ノ露西亞政府ハ確ニ

「政府デヤナイヨ」ト呼ヒ其他發言スル者多シ

○議長(元田肇君) 御靜ニ

○齋藤隆夫君(續) 國際法上ノ義務ヲ蹂躪シ、條約上ノ義務ヲ破壞シテ居ルノデアアル、或ハ彼等ハ露西亞政府ト第三「インテリナシヨナル」トハ全ク別ノモノデアアル、第三「インテリナシヨナル」ナルモノハ個人ノ國體デアラ、露西亞政府ノ關係スルモノデハナイト云フカハ知ラナイガ、是ハ全然許サルベキモノデハナイノデアリマス、露西亞政府ト第三「インテリナシヨナル」トノ關係ニ付キマシテハ、世界ニ於テ色々ノ觀察ハゴザイマスケレドモ、吾々ノ見ル所ニ依リマス

ト、其實際ハ全ク共通シテ居ルノデアリマス、即チ今日ノ露西亞政府ハ露西亞共產黨ニ依テ組織セラレ、露西亞共產黨ニ依テ支持セラレテ居ルノデアアル、然ルニ露西亞共產黨ナルモノハ第三「インテリナシヨナル」ノ一ツノ支部デアアル、ノミナラズ本部ガ露西亞ニ在ルモノデアリマス、此本部ノ實權ハ支部デアアル所ノ露西亞共產黨ガ握テ居ルノデアリマス、故ニ此關係ニ於テ露西亞ノ政府ト第三「インテリナシヨナル」トハ形ハ違フガ、事實ニ於テハ同ジモノデアアル、恰モ政府ト其與黨トノ關係ト少シモ變ル所ガナイノデアリマス、縱シ一歩ヲ讓テ假ニ此兩者ノ間ニ於テ何等ノ關係ガナイト致シマシテモ、露西亞國內ニ於テ斯ノ如キ團體ガアッテ、締結國ノ國體ヲ變革スルガ如キ行動ヲ爲ス場合ニ於テハ、露西亞政府ハ嚴ニ之ヲ禁止スベキ義務ヲ擔ウテ居ルニ拘ラズ、今日ノ露西亞政府ハ此義務ヲ棄テ、顧ミナイト云フコトハ、爭フコトノ出來ナイ公然ノ事實デアアルノデアリマス、然ルニ之ニ對シテ我國ノ政府ハ何ヲ爲シテ居ルカト云フニ、何モ爲シテ居ラナイノデアリマス、委員會ニ於キマシテ外務省ノ政府委員ヲ呼出シテ之ヲ尋ネマシタ所ガ、政府委員ハ答ヘテ曰ク、サウ云フヤウナ事實ガアルカナイカト云フコトハ、確ニ判ラヌト云フ、何カト都合ケル千萬ナコトデアアル、露西亞ノ赤化宣傳ガ基トナッテ緊急勅令ヲ發布シ、而モ此緊急勅令ハ總理大臣ヲ首メトシテ各大臣ガ連署シテ以テ、政府ハ全責任ヲ以テ之ニ當テ居ルノデアアル、然ルニ其政府ノ中ノ外務省デケハ、此勅令ノ根本トナルベキ事實ヲ知ラナイ、締結國ガ公然條約ヲ破壞シテ、我が國體ヲ變革スル企テ、居ルニ拘ラズ、是モ知ラナイ、一言半句ノ抗議ヲモ申スコトガ出來ナイニ至ラヌ、我國ノ外務省コソ實ニ日本國家ノ存立ヲ危クスルノデアアル(拍手) 元來日露ノ條約ニ依テ、我國ガドレダケノ利益ヲ受ケテ居ルノデアアルカ、是ハ本員ノ知ラナイ所デアリマスガ、併シ假令ドシテ利益ヲ受ケテ居ルニシタ所ガ、我が國體ノ破壞ヲ默認セネバナラス程、ソレダケ大ナル利益ガアルトハ、吾々日本國民トシテ絕對ニ想像スルコトガ出來ナイノデアアル(拍手) 諸君モ御承知ノ如ク、數年以前英吉利ノ政府ハ露西亞政府ノ或ル大官ガ赤化宣傳ノ文書ヲ英國ニ送ラタト云フ、其一

ツノ事實ヲ以テ英露國交ヲ斷絶シテ居ルノデアリマス、又支那ノ政府デスラ、北京駐在ノ露國大使館內ニ於テ赤化宣傳ノ證據ヲ發見シタト云フ、此事實ヲ以テ露西亞大使ヲ放逐シタノデアリマス、英國ニ於テ然リ、支那ニ於テ然リ、單リ我國ハ露西亞政府若クハ露西亞人民ガ、我が國體變革ノ行動ヲ爲シテ居ルコトヲ知リツ、今日ニ至ル迄之ヲ默認スルトハ何事デアルカ、原司法大臣ガ曩ニハ治安維持法ヲ改正スルニ當リ、又今回ハ此緊急勅令ヲ維持スルニ當リ、屢々繰返サレル所謂三千年ノ歴史、金甌無缺ノ國體ヲ變革スル目的ヲ以テ、露西亞ノ政府又ハ露西亞ノ人民ガ襲撃ヲ加ヘテ居ルニ拘ラズ、之ニ向テ抗議ヲ申込ムコトモ出來ナイ、問フベキ權利ガアルニ拘ラズ之ヲ問ハズ、單リ我が國民ノミニ對シテ極刑ヲ課セントスルガ如キハ、全ク本末ヲ顛倒シテ居ル遺方デアアル、斯ノ如キコトヲヤシテ、日本ノ國民ガ承服スルと思フノハ大ナル誤リデアアル、故ニ政府ハ此點ニ付テハ退イテ大ニ考ヘルガ宜シメト思ヒマス、原司法大臣ハ此處ニ居ラシメトモガ、此處ニ「國民」ト題スル新聞紙ノ如キモノガアリマス「人ヲ愛スルノ政治」ト題シ、司法大臣原嘉道氏ノ名ヲ以テ、昨年ノ九月十三日東京中央放送局ニ於テ講演セラレタル所ノ、刑罰ニ關スル原司法大臣ノ意見ガ載セラレテ居リマス、是ハ長イモノデアラカラ朗讀ハ致シマセヌガ、其論旨ヲ簡單ニ申シマス、云フト、斯ウ云フコトデアアル、詰リ凡ソ此社會ニ於テ犯罪ガ起ルノハ、如何ナル原因ニ依ルカト云フト、大體二ツアル、一ツハ先天的ノ素質、即チ生レキガ惡イカラデアアル、又一ツハ社會ノ境遇ガ惡イカラデアアル、此二ツノ原因ニ依テ犯罪ハ世ノ中ニ現ハレテ來ルノデアアルガ、此犯罪者ニ向テ國家ハ如何ナル處置ヲ爲スベキモノデアルカト云フト、昔ハ犯罪人ヲ苦メル目的ヲ以テ刑罰ヲ科シタノデアリマスガ、今日ノ刑罰ハ決シテ犯罪者ヲ苦メル目的デハナイ、刑罰ノ目的ハ犯罪者ヲ苦メルニアラズシテ、犯罪者ノ身體ヲ保護シ、犯罪者ノ精神ヲ教養シ、犯罪者ノ人格ヲ向上セシメテ、以テ一般ノ國民ト共同ノ生活ガ出來ルヤウニスル、是ガ刑罰ノ目的デアリマス、是ハ原司法大臣ハ説カレテ居ルノデアリマス、本員ハ固ヨリ之ニ賛成スルノデアリ、

亂罪、外患罪、是等ニ劣ル所ハ少シモ無い
デハアリマセヌカ、又皇室ニ對スルノ罪
トモ比ベキモノデハゴザイマセヌカ、斯ノ
如キモノデアリマススルヲシテ、此者ニ死刑
ヲ以テ極刑トシテマススルト云フコトガ、何
デ惡イコトデアリマセウカ、是ハ寔ニ當然
ナル筋合デアアル、斯ノ如キ賣國奴ニ對シテ
ハ、斯ノ如キ制裁ヲ當嵌メナケレバナラヌ
ト云フコトハ、何人ト雖モ之ヲ否認スルコ
トハ出來ナイモノデアウト存ジマス、而シ
テ尙ホ此死刑ヲ科シマスルノハ、一番極惡
ナル者ニ對シテ致スノデアリマシテ、其情
狀ニ依リマシテハ死刑ニハ處セナイ、輕キ
刑ニモ處シ得ルト云フコトハ、條文ノ上ニ
極メテ明デアリマス、我々ハ其元兇ニ對シテ
死刑ヲ科スルト云フコトハ、最も當然ナル
筋合デアアルト存ズルノデアリマスカラ、是ガ
極刑ヲ科シテ惡イト云フヤウナ考ヲ起シテ
居リマスルノハ、思フニ吾々ト——モノデ
アラウト思ヒマス、以上ノ次第デアリマス
ルカラシテ、此嚴罰ニ處スルト云フコトハ、
少シモ惡イコトデナイト云フコトハ、極メ
テ明々白白デアアルト思フノデアリマス

〔此時發言スル者多ク議場騒然〕

○議長（元田肇君） 御靜ニ願ヒマス

○宮古啓三郎君（續） 諸君終リニ一言申上
ゲタイコトガアリマス、ソレハ先刻ノ齋藤
君ノ演說ニ於テハゴザイマセヌデアツタガ、
過般委員會ニ於キマシテ、原夫次郎君ノ述
ベラレル所ニ依リマスト云フト

〔此時發言スル者多ク議場騒然〕

○議長（元田肇君） 御靜ニ願ヒマス、只今
宮古君ノ演說中ニ不穩ノ言葉ガゴザイマス
レバ、議長ハ總テ速記録ヲ調ベマシテ、不
都合ノコトガアレバ相當ノ處置ヲ執リマス

〔此時離席者、發言者多ク議場騒然〕

○議長（元田肇君） 靜ニナサイ——靜ニナ
サイ——靜ニナサイ——靜ニナサイ——靜
ニナサイ——降壇ナサイ——降壇ナサイ——
降壇ナサイ——靜ニナサイ——只今
宮古啓三郎君ヨリ、改メテ釋明ヲスルト云
フコトデアリマスカラ、御著席ヲ願ヒマ
ス——御著席ヲ願ヒマス

〔此時離席者、發言者多ク議場騒然〕

○議長（元田肇君） 休憩ヲ致シマス

午後八時五十五分休憩

午後十時九分開議

○議長(元田肇君) 休憩前に引續いて會議ヲ開キマス、申スコトゴザイマス、休憩前傍聴席ヨリ紙片ヲ撒布シタ者ガアリマシタガ、犯人ハ直ニ取押へ、只今警務課ニ於テ取調中デアリマス——宮古啓三郎君

〔宮古啓三郎君登壇〕

○宮古啓三郎君 諸君、先刻本議場ニ於キマシテハ、私ハ死刑ニ處スルノガ當然デアルト考ヘルノニ、最モ輕キ刑デナケレバ、イカト思ハレル、斯様ニ申シタルデアリマスルガ(拍手起リ)「違フ々々」ト呼フ者アリ

〔「違フ々々」ト呼ヒ其他發言スル者多シ〕

○議長(元田肇君) 静ニ御聽キナサイ

○宮古啓三郎君(續) 静ニ御聽キナサイ、ソレニ對シマシテ、ソレハ不穩當デアルト云フコトヲ申サル、諸君ガ多イトノコトデアリマスルカラシテ、左様ナ譯デアリマスルナラバ、ソレヲ取消スコトニ私ハ少シモ躊躇致ス者デアリマセヌ、ソレ故ニ是ガ不穩當ナリト云フコトデアリマスナラバ、茲ニ取消シマシテ、些トモ差支ハナキノデアリマス(取消セ)「明瞭ニ取消セ」ト呼フ者アリ、只今取消シタルデアリマス

〔此時發言スル者多シ〕

○議長(元田肇君) 只今取消シマシタル——取消シマシタル、御靜カニ願ヒマス、モウ一應宮古啓三郎君ハ申サレルサウデアリマス

○宮古啓三郎君(續) 若シ明瞭デナイト云フコトデアラナラバ、モウ一度申上ゲマス、取消シタルデアリマス、更ニ議論ヲ進メテ申上ゲマスガ、時ガ深更ニ相成リマシタカラシテ、極メテ簡單ニ一言フスルニ止メルコトニ致シマス、ソレハ……

〔「明瞭ニ取消セ」ト呼ヒ其他發言スル者多シ〕

○議長(元田肇君) 取消シマシタル、静ニ宮古啓三郎君(續) 委員會ニ於キマシテ民政黨ノ原君、又無產黨側ノ水谷君ノ御意見ニ依リマスレバ……

〔此時發言スル者多シ〕

○議長(元田肇君) 宮古君ハ既ニ取消シマシタル、明白ニ取消シマシタル——議長ヨリ一言致シマス、只今宮古君ハ重ネテ明白ニ取消シマシタル、此段報告致シマス——静ニ願ヒマス

○宮古啓三郎君(續) 只今申シマシタ通り、色々ノ御議論ガゴザイマシタル中ノ一、簡條ダケヲ茲ニ申述ベシテ、降壇ヲ致サウト思ヒマス、ソレハ何デアラカト申シマス、斯ノ如キ嚴罰ヲ科シテ置キナガラ、社會ノ施設、教育制度等ニ於テ十分デナイト云フコトハイケナイカラシテ、其理由ニ依ッテモ本緊急勅令ハ承諾スベキモノデアリナシ云フ御議論ヲナサレタルデアリマス、惟フニ是カラ後ニ演説ヲナサル方ハ左様ナコトヲ矢張申サレルデアラウト存ジマス、餘リ多クハ申シマセヌガ、此點ニ付キマシテハ、既ニ政府ニ於キマシテ色々社會施設ハヤテ居ルデアリマス、其事柄ハ豫算ノ上ニ於テモ現ハレテ居リマス、又提出シタル所ノ法律案ニ於テモ現ハレテ居ルデアリマス、ソレカラ又教育即チ思想ノ善導ト云フコトニ付キマシテハ、文部當局ニ於テ色々ト努メテ居ルデアリマシテ、是モ豫算ノ上ニ色々ト現ハレテ居ルデアリマス、即チ教育制度調査ノ計畫其他色々デアリマシテ、尙又昭和四年度ノ豫算案ニ於キマシテモ、色々ノ課目ニ於テハ八十一萬八千圓ト云フモノヲ計上致シテ居ルデアリマス、斯ノ如ク社會施設ノ點ニ於キマシテモ、思想善導ノ點ニ於キマシテモ、政府ニ於テハ出來ルダケ努メテ居ルデアリマス、唯、財政ノ關係ガゴザイマスカラシテ、今日爲シテ居ルコトガ満足シ得ル程度デアラカト云フコトハ申スコトハ出來マセヌ、満足シ得ル所デハゴザイマセヌケレドモ、併ナガラ斯ノ如キ施設ハヤレラダケヤッテ居ルト云フコトハ、之ヲ認メナケレバナラヌデアリマス、尙ホ又斯ノ如キ社會施設及思想ノ善導ニ對スル事情ガ、十分デナイト致シマシテモ、ソレガ爲ニ此緊急勅令ヲ發スルコトハイケナイト云フコトノ理由ニハ相成ラヌデアリマス、又今日ニ於テ、之ニ承諾ヲ與ヘナイト云フ理由ニハ相成ラヌデアリマス、以上申シマシタル所ニ依テ見マシテ、此緊急勅令ヲ發シマスル當時ノ事情ニ於テモ相當デアリ、今日ニ於テ之ヲ繼續スルコトモ、亦極メテ必要ナルコトデアリマシタルデアリマス、之ニ對シテ承諾ヲ與ヘルト云フノガ洵ニ相當デアルト云フコトヲ申上ゲルデアリマス(拍手)

○議長(元田肇君) 内ヶ崎作三郎君〔内ヶ崎作三郎君登壇〕

○内ヶ崎作三郎君 私人本案ニ對スル委員會ノ決議ニ反對ノ理由ヲ述ベント致シテ居ルデアリマス、一體本案ハ我が國民ニ取リマシテ甚ダ重要ナル問題デゴザイマス、殊ニ國體變革ヲ志スルノ犯罪ヲ罰スル所ノ法規デゴザイマスルカラ、吾々ハ此法案ハ慎重ニ審議ヲ致シタルデアリマス、委員會ノ經過ニ付キマシテハ、先程委員長ヨリ詳シク御説明シタルデアリマス、私共モ可ナリ詳シク司法大臣及内務當局、文部當局ト質問應答ヲ致シタルデアリマス、不幸ニシテ田中總理大臣兼外務大臣ハ僅ニ二十五分間位ダケ委員會ニ御見エニナリマシタルガ爲ニ、吾々外務大臣ニ對シテ御伺シタカッタル所ノ多クノ問題ヲ殘シタコトヲ、甚ダ遺憾トスルデアリマス

〔此時發言スル者多シ〕

○議長(元田肇君) 静ニ

○内ヶ崎作三郎君(續) 私ハ時間モ進ンデ居リマス、相成ベク簡單明瞭ニヤリタリト申ウテ居リマシタケレドモ、先程宮古君ヨリ、此本案ニ反對スル者ハ……意見ヲ持ッテ居ルデアラハアルマイカト云フヤウナ御話ガアリマシタル、無論此事ニ付テハ、御取消ニナリマシタルカラ別ニ追究スル必要ハアリマセヌ、併ナガラソレト關聯致シマスカラ、私ハ私ノ意見ヲ進ムルニ從ヒマシテ、私一人トシテ國體ニ關スル信念ヲ披瀝シテ、諸君ノ御批判ニ訴ヘタイト思フデアリマス(拍手)國體ニ對シテハ民政黨モ政友會モ違フ善ハゴザイマセヌ、日本國民ハ誰モ等シク萬世一系ノ皇室ヲ奉戴致シテ居ルデアリマスカラシテ(拍手)私ハ個人トシテノ信念ヲ披瀝スルコト云フ場合ニハ、取りモ直サズ、國民トシテノ信念ヲ披瀝スルコト云フコトデアリマス(拍手)苟モ國體ヲ論議スルニ政黨政派ノ區別ハ無イ筈デアルト私ハ思フデアラ

〔此時發言スル者多シ〕

○議長(元田肇君) 静ニ願ヒマス

○内ヶ崎作三郎君(續) 宮古君ハ憲法第八條ノ解釋ニ關スル御意見ヲ述ベラレマシタカラシテ、私ハソレニ對スル意見ヲ述ベテ見ヤウト思フデアリマス、憲法第八條ニハ公共ノ安全ヲ維持シ、又ハ其災厄ヲ避クル爲ニ、緊急ノ必要ガアル場合ニハ此緊急勅令ヲ發シテモ宜イト云フコトヲ規定シテアリマス、一體憲法ノ條文ハ單ニ文字ノ上

カラ解釋スルニ止マラズシテ、其精神ヲ讀マナケレバナラナイカト思フデアリマス(拍手)殊ニ現内閣ハ政黨内閣デアアル、昨年二月普通選舉ニ依テ選バレル所ノ最初ノ衆議院ニ於ケル多數ヲ基礎トスル所ノ政黨内閣デアリマスルガ故ニ、憲法第八條ノ解釋モ、之ヲ政治的ニ最モ意義アルヤウニ、精神のニ充實スルコトノ出來ルヤウニ、解釋シナケレバナラナイト思フデアリマス、(拍手)一體憲法ヲ解釋致シマスニ付テハ、殊ニ臣民ノ權利及生命ニ關係アル法規ハ、宜シク衆議院ノ協賛ヲ得ナケレバナラヌト云フヤウニ解釋スルノガ、至當デアルト思フデアリマス(拍手)憲法第八條ニハ、其規定ハ無イト解釋セラル、ノハ、其精神ヲ見ナシテ、文字ヲ解釋スル所ノ意見デアルト思フデアリマス、勿論私ハ憲法第八條ト、憲法第七十條トノ相違ナルコトハ、承知致シテ居ルデアリマス、然ルニ茲ニ憲法第四十三條ノ規定ガゴザイマシテ、臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシトアリマス、ソコデ憲法第八條ヲ解釋スルニハ、第四十三條ヲ參考シテ、參照シテ之ヲ考察スルコトガ必要デアルト思フデアリマス(拍手)ソコデ憲法第八條ト憲法第四十三條ヲ並ベテ考ヘマスル時ニハ、是ハ臨時議會ヲ召集シテ、帝國議會ノ協賛ヲ經ルト云フコトガ憲法ノ精神ニ適フモノデアルト見ナケレバナラナイデアリマス(拍手)私ハ專門ノ法律家デハゴザイマセヌケレドモ、私ノ常識ニ基キテ、憲法第八條ヲ解釋スレバ、斯ウナルデアリマス、又憲法第八條ヲ實際上ノ運用ヨリ考察致シマスルナラバ、斯ウ云フ理窟ガ立ツカト思フデアリマス、例ヘバ犯罪者ガ此緊急勅令ニ觸レマシテ、死刑ノ宣告ヲ受ケタト假定致シマス、而シテ此緊急勅令ハ、若シ次ノ議會ニ於テ承諾ヲ得ルト云フ出來ナケレバ、其效力ヲ失スルコト云フデアリマス、ソコデ法律ノ運用カラ申シマスラバ、一旦死刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ、次ノ通常議會ニ於テ承諾ヲ得ルカ得ナイカ分ラナイ所ノ法律ノ爲ニ、或ハ場合ニ依テハ其生命ヲ失フト云フヤウナコトニナルカモ知レナイデアリマス(拍手)ソコデ死刑ヲ含ミマスル所ノ法規ハ、緊急勅令ニ依ラズシテ、矢張臨時議會ヲ召集致シマシテ、帝國議會ノ協賛ヲ得ルトニ致ス方ガ萬善ノ

策ナリト考フルノデアリマス

〔此時發言者多シ〕

○議長(元田肇君) 靜肅ニ願ヒマス

○内ヶ崎作三郎君(續) 宮古君ハ昨年ノ五月、六月頃ノ色ノ事件ノ経緯ヲ御述ベニナリマシテ、緊急勅令ヲ以テ本法ヲ發布スルコトガ、絶對的ニ必要デアルト云フコトヲ御説明ニナツタデアリマス、一應御尤デアルト傾聴致シタノデアリマス、一應御尤モ、昨年三月十五日、現内閣ガ日本共産黨ヲ檢舉致シマシテカラ、六月ノ末ニナリマシテ、緊急勅令ヲ公布スルニ至リマシタルマデノ間、政府當局ノ執リマシタル態度ヲ、一應取調ベル必要ガアルドラウト思フノデアリマス(拍手)人ノ噂モ七十五日ト云フコトガゴザイマシテ、現代ハ誠ニ多事多忙ノ時デアリマスカラシテ、吾々ハ動モスルト半年モ前ニ起リマシタルコト、或ハ一年足ラズ前ニ起リマシタル事ハ、忘レ易イノデアリマス、ソコデ諸君ノ記憶ヲ喚起スル爲ニ、五六ノ事實ヲ述ベマシテ諸君ノ御參考ニ供シテ見タイト思フデアリマス、御(拍手)三月十五日ニ現内閣ハ日本共産黨ヲ檢舉致シタノデアリマス、其後或ハ左傾派ノ労働團體ノ組織ヲ禁ジタリ、或ハ官立學校ノ社會科學研究會ヲ解散シタリ、或ハ又官立大學ノ左傾派ノ教授ヲ免職致シマシタリ、色色ナコトヲヤツタノデアリマス、而シテ第五十五議會トナリマシテ、四月二十七日ニ治安維持法ノ改正案ヲ衆議院ニ上程致シタノデアリマス、二十八日ハ山東出兵ト、思想警察費五百餘萬圓ノ追加豫算案ヲ提出致シタノデアリマス、五月四日ニハ總理大臣ガ内務大臣ヲ兼任セラレマシテ、五月五日ニハ追加豫算案ガ通過致シタノデアリマス、而シテ五月六日、衆議院ノ議事ガ終リマシタルガ爲ニ、治安維持法改正案ト云フモノガ提議シタリマシテ、其儘五月七日開院式ヲ行フニ至リマシタノデアリマス、越エテ十五日ニナリマシテ

〔此時發言者多シ〕

○議長(元田肇君) 靜肅ニ願ヒマス

○内ヶ崎作三郎君(續) 政府ハ緊急勅令ヲ以テ治安維持法改正案ヲ行フ根本方針ヲ決定致シマシテ、十八日ニ閣議ニ於テ之ヲ承諾致シタノデアリマス、ソコデ緊急勅令ヲ以テ此法律改正案ヲ行ハナケレバ、早速之ヲ樞

密院ノ議ニ掛ケルノガ當リ前デアルト思フノデアリマス(拍手)若シ政府當局ガ申シマスヤ、事態ガ斯ノ如ク急進致シテ居リマシタルナラバ、何故ニ直ニ之ヲ樞密院ニ付議シナカッタノデアリマス、然ルニ其後色ノ事ガ起リテ參リマシタ、即チ久原通信大臣ガ入閣スルト云フコト、ナリマシテ、甚ダ御氣ノ毒デアリマスガ、政府ノ中ニ御家騷動ガ起リタノデアリマス

〔オ氣ノ毒デアリマシタカ〕ト呼ヒ其

他發言者多シ

○議長(元田肇君) 靜肅ニ願ヒマス

○内ヶ崎作三郎君(續) サウシテ暫クノ間ゴタノヲ致シマシテ、サウシテ遂ニ二十四日ニナツテ、所謂優待問題ナルモノガ重大化シマシテ、水野文部大臣ハ自決ヲシテ、辭職ヲシタノデアリマス、二十八日ニ前田法制局長官ハ原司法大臣ヲ訪問致シマシテ、此緊急勅令ニ反對ヲ表明シタト云フコトハ、其當時ノ新聞ニ載リタノデアリマス、若シ事態ガ非常ニ迫リテ居リマシテ、ドウシテモ之ヲ緊急勅令トシテ公布シナケレバナラナイト云フナラバ、此政府ノ最も重要ナル地位ヲ占メテ居ル所ノ法制局長官ガ、之ニ反對スル理由ハナイト思フノデアリマス(拍手)六月一日ニ革新黨ヲ初メ民政黨ガ之ニ反對ノ意見ヲ公ニ致シマシタ、六月三日ニナリマシテ東京府ノ府會議員ノ候補者ガ漸ク出揃フヤウニナツタノデアリマス、ソレガ大ニ關係

ナル點デアルト思フノデアリマス、四月ニナリマシテ、政友會ハ幹部會ヲ開キマシテ、治安維持法改正法案ヲ緊急勅令ニシテ公布スルト云フコトニ承諾スルコトニ決定ヲシタノデアリマスガ、中ニ政友會ノ諸君ノ中ニハ之ニ反對ノ人ガアル、中ニ強硬ノ人ガゴザリマシテ、越エテ六日政友會有志代議士會ヲ政友會本部デ開キマシテ、此問題ニ對スル態度ヲ決メヤウト致シタノデアリマスガ、一部ノ諸君ハ泣寝入りニナツテ、幹部一任ト云フコトニナリマシタ、又一部ノ諸君ハマア仕方ガナイカラシテ、是ハ六月十日ノ後ニ延バシテ貰ヒタイト云フコトヲ主張シタト、新聞紙ニ報道サレタノデアリ(拍手)シテ見ルト六月十日ガ過ぎレバ之ヲ緊急勅令ニ出シテモ宜シイケレドモ、六月十日マデハ出サナイデ吳レドト云ヒ、而シテ政府ハ之ニ同意シタノデアリマス、即チ斯ノ如クニシテ半月程モ延

バス餘地ガアリマスナラバ、吾々ハ左程是ハ緊急ナル所ノ日本國家ノ存在ヲ非常ニ危ウスルヤナラフ風ニ、差迫リテ居ラタモノトハ考ヘルコトハ出來ナイノデアリマス(拍手)丁度其頃東京府下及神奈川縣ニ於テ府縣會議員ノ選舉ガ行ハレツ、アッタノデアリマシテ、到ル處ニ非常ニ盛ナル言論戰ガ行ハレタノデアリマス、政友會ハ我黨内閣ヲ光ラカセマシテ、隨分猛烈ナル運動ヲオヤリニナツタコトハ、私カラ申上ゲルマデモナイノデアリマス、民政黨及野黨ハ大分壓迫ヲ受ケタリマシタ、此選舉ノ題目トナリマシタル所ハ優待問題モアレバ、或ハ鈴木前内務大臣ノ態度ニ對スル批判モアリマシタラウシ、色々ナコトガアッタノデアリマス、或ハ支那問題モアリマシタラウ、多クノ問題ノ中ニ此緊急勅令ノ問題ガ當然取扱ハレタノデアリマス、ソレデアルカラ六月十日ノ東京府及神奈川縣ニ於ケル所ノ府縣會議員選舉ノ結果ト云フモノハ、國民ノ或ル部分ガ緊急勅令ニ對シテ如何ナル考ヲ持テ居ルカト云フコトヲ窺知ル所ノ一ツノ標準デアルト思フノデアリマス(拍手)而シテ其結果ハ如何デアルカ、東京府ノ府會議員八十五名ノ中、民政黨ハ四十六名、絕對過半数デアリマス、政友會ハ三十四名、革新黨ハ一名、無產黨ハ一名、中立三名デゴザイマシテ、革新黨、無產黨二名ヲ加ヘマシ

テ、民政黨側ハ合セテ四十八名トナルノデアリマス、東京府民ハ兎ニ角其府會議員ノ選舉ヲ通シテ緊急勅令ヲ發布シマシタヤツテ退ケナケレバナラヌト云フ所ノ國民ノ意思ヲ反映シタルモノデアルト思フノデアリマス、神奈川縣下ノ結果ハ如何デアルカト言ヘバ、四十一名ノ中、民政黨十八名、政友會十八名、無產黨四名、中立一名デゴザイマシテ、詰リ政府反對ノ縣會議員ノ頭數ハ二十二名トナリマシテ、是亦絕對過半数ヲ有スルコトニナツタノデアリマス、故ニ、是ガ衆議院議員デハナイケレドモ、我國ニ於テ最も政治知識ノ進歩シタル東京府及神奈川縣ニ於テ、其縣ノ多數ノ有權者ガ緊急勅令ニ對シテ其様々態度ヲ示シタト云フコトハ、認メテモ差支ナイト思フノデアリマス、(拍手)六月十日ノ選舉ヲ終リマシタカラシテ、十一月ハ開票、ソコデ政府ガ安心シテ六月十二日ニ治安維持法改正勅

令案ヲ閣議デ決定致シタノデアリマス、此時貴族院ノ有志ノ中デハ、之ニ反對ノ意見ヲ發表シタ人々モアツタノデアリマス、愈々本案ハ六月十三日樞密院ニ提出セラレマシテ、樞密院ハ樞府精査委員會ヲ十四日ヨリ開キマシテ、サウシテ本案件精査シタノデアリマス

〔此時發言者多シ〕

○議長(元田肇君) 靜ニ

○内ヶ崎作三郎君(續) 而シテ樞密院ハ本案ニ對シテ如何ナル態度ヲ執ラタコト言ヘバ、是亦既ニ新聞ニ報道セラレタ通りデアリマス、政府當局ハ樞密院ノ議事ガ世間ニ漏レル等ハナイト仰セラレテ居ルノデアリマス、殆ド悉ク之ヲ掲載シテ居ル所ノ新聞ガ、殆ド悉ク之ヲ掲載シテ居ル所ノ材料ト認メナケレバナラヌノデアリマス、一體樞密院ニハ我國ノ國體ニ付テ考慮セラレテ居ル所ノ人々ガ多イノデアリマス、若シ此緊急勅令ガ必要ナデゴザイマスカラバ、樞密院ハ直ニ之ニ同意ヲ表スルニ違ヒナイト思フノデアリマス、然ルニ樞密院ハ、中中容易ニ之ニ同意ヲ表サナイノデアリマシテ、色々ナ質問ガ提出サレタノデアリ

〔此時發言者多シ〕

○議長(元田肇君) 靜ニ願ヒマス

○内ヶ崎作三郎君(續) 其主ナル質問ヲ茲ニ御紹介致シマスガ、第一ノ質問ハ新シイ事實ニ就テ政府ノ説明ガ足ラナイト云フノデアリマス、第二ノ質問ハ憲法八條ノ精神カラスレバ、斯ル法令ノ制定ハ臨時議會ヲ開イテ帝國議會ノ協賛ヲ要スルト云フノデアリマス、第三ノ質問ハ、根本對策ノ方ガ却テ緊要デアアル、法律ヲ改正スルヨリモ根本對策ノ方ガ却テ必要デアルト云フノデアリマス、第四ノ質問ハ緊急ノ意味ガ徹底シナイト云フノデアリマス、即チ緊急ト云フコトノ意味ガ徹底デアルト云フノデアリマス、第五ノ質問ハ政府ハ特ニ人權ニ關スル法律命令ノ制定ニ當テハ、憲法ノ精神ヲ紊ルコトガアツテハナラヌト云フノデアリマス、第六ノ質問ハ教育問題並ニ社會施設ノ完備ヲ期シ、思想界ノ急激ナル變化ヲ惹起サナイヤウニ注意アリナケレバナラナイデアリマス、スウニ云フ

○議長（元田肇君） 靜肅ニ願ヒマス——靜肅ニ願ヒマス——
○内ヶ崎作三郎君（續） 卽チ國家資本主義ヲ行フヤウニナツタノデアリマス……
〔議場騒然〕
ト呼フ者アリ
○議長（元田肇君） 御靜ニ願ヒマス
〔議場騒然〕
○内ヶ崎作三郎君（續） ソコデ……
〔議場騒然〕
○議長（元田肇君） 御靜ニ願ヒマス——御靜ニ願ヒマス——
〔十二時マデ立テ居ロ〕ト呼ヒ其他發言者多シ
○内ヶ崎作三郎君（續） ソコデ……
〔議場騒然〕
○議長（元田肇君） 御靜ニ願ヒマス
〔退場シロ〕
「其他發言者多ク議場騒然」

八二二

○議長（元田肇君）御静ニナサイ……（議

場騷然) 議場騷擾シテ議長ハ一度、二度、

三鷹立チスニ
タケレドモ……（議場騒然聴取スル能ハス）

已ムヲ得ズ散會致シマス
午後十一時七分散會

卷一百一十五

卷之二十一 吳

頁段行誤正

四〇九 四三八 呼稱 諺稱

同	四一〇	昭和六年	昭和六年度
同	三六	稱シ	稱スル

四二四刻下國家

1